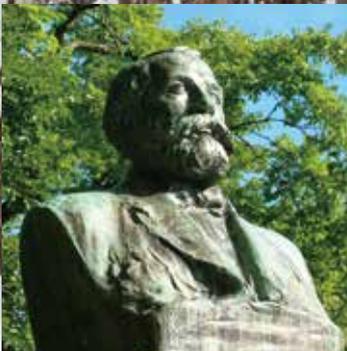


Be ambitious



通常総会、特別講演会及び懇親会のご案内

北海道大学関西同窓会 会長 植松高志
札幌農学同窓会関西支部 理事長 山田勝重

北海道大学関西同窓会の通常総会・特別講演会と札幌農学同窓会関西支部秋季講演会、並びに懇親会を以下の要領で開始いたします。
コロナ感染症が5類となって初めての総会・講演会・懇親会です。
皆様奮ってご参加の程、お願い申し上げます。

日時： 2023年10月21日（土曜日）13:00～19:30

会場： ホテル日航大阪 4階 孔雀の間

次第：

- ◇ 13:00 受付開始
- ◇ 13:30～14:15 北海道大学関西同窓会 通常総会
- ◇ 14:30～15:30 講演1 札幌農学同窓会関西支部 秋季講演会
理事長挨拶・講師紹介 山田勝重 (S53 農化)
講師：北海道大学 大学院農学研究院 研究院長・教授
野口 伸先生 (H2 農工博)
テーマ：「農業の未来を拓く AI×ロボット」
～持続的な食料生産システムを目指して～
- ◇ 15:45～17:00 講演2 北海道大学関西同窓会 特別講演会
講師紹介 植松高志 (S48 法)
講師：北海道大学 総長 寶金 清博先生 (H3 医博)
テーマ：「北海道大学 2030年に向けて…HU VISON 2030…」
- ◇ 17:15～19:30 懇親会

受付

北海道大学関西同窓会会員も札幌農学同窓会会員も、受け付けは13時から始まります。

参加費

講演会の参加は無料です。
懇親会の参加料は、参加者一人について7,000円です。
北海道大学関西同窓会会員の方で、当日までに年会費未納の方は、年会費を徴収させていただきます。

お知らせ

懇親会では、以下の酒類が飲み放題となっています。種類が多いので特段お持ち込みいただかなくても、ご満足頂けるかと思えます。
瓶ビール、ウィスキー、ワイン(赤・白)、日本酒、焼酎、ノンアルコールビール、カクテル2種(カシスオレンジ、レモンサワーテイスト)、ジュース(オレンジ、アップル)、コーラ、烏龍茶。

年会費の納入のお願い

同窓会の事業は、会員の皆様の年会費で運営されています。今回は下記のように同封の「払込取扱票」にて年会費の納入をお願いいたします。なお、令和6年度会費を先払済の会員の方には払込取扱票は同封されていません。

◆令和6年度(2023/9～2024/8)年会費3000円の納入。

◆令和5年度(2022/9～2023/8)未納の場合は、2年分の年会費6000円の納入。

*令和5年度分を納入されておられましたら、恐縮ですが、6000円を3000円に訂正いただき窓口扱いにて納入をお願いします。お問い合わせ先：elmkansai@yahoo.co.jp

*広告掲載者の方には、これまで広告料払込取扱票を別封筒で会報と一緒に送っていましたが、今号から年会費払込取扱票を入れた会報と一緒に送っています。宜しくお願いします。

○振込先：郵便局 口座番号 00920-1-89690
加入者名 北海道大学関西同窓会 (取引銀行はありません)

会報は関西同窓会ホームページに公開しています

会報89号も北海道大学関西同窓会ホームページに掲載しております。

こちらのリンクからご覧いただけます。

<https://hokudai-kansai.org/category/be-ambitious/>

住所変更の連絡とメールアドレスの提供のお願い

送付した会報が宛先不明として返送されたり、メールアドレス不明のためメールが届けられない場合が多数発生しております。住所変更やメールアドレスの新規登録あるいは変更がありましたら、速やかに当同窓会ホームページの一番下にある「お問い合わせ」欄から同窓会宛に連絡をお願い申し上げます。その際、封筒に記載の学部と番号(例：理087)も「連絡事項」欄に入力願います。ホームページからの入力難しい場合は、同窓会館宛に郵便・Faxでお願い致します。

同窓会ホームページ URL：<http://hokudai-kansai.org>

広告出稿のお願い

更なる円滑で充実した活動のために下記要領で広告をお願いしております。

今号から、広告出稿者の方への払込取扱票は、年会費払込取扱票の封筒に、一緒に入れていますので、宜しくお願いします。

○広告スペースと代金	1/16頁(名刺様式) 3,000円	1/2頁 15,000円
	1/8頁 7,000円	1頁 30,000円
	1/4頁 10,000円	連名広告 2,000円/一人

○払込先 郵便局：口座番号：00920-1-89690
加入者名：北海道大学関西同窓会 (取引銀行はありません)

出欠の連絡

出席する方は、定期総会、講演1、講演2、懇親会の4つに分けて出欠の連絡をお願いします。いずれも欠席される方は、連絡不要です。

出席の連絡は、当案内の最後にある送信状に必要事項を記入/入力の上、Faxあるいはメールにて北大会館宛にお願い致します。

締め切り：2023年10月16日です。

連絡先は「2023年10月21日通常総会・講演会・懇親会事務局」宛です。

Tel/Fax 06-6343-3736 mail: elmkansai@yahoo.co.jp

コロナ感染症が5類に移行しましたので、会場でのコロナ対策はありません。

..... 送 信 状

締め切り：2023年10月16日

Tel/Fax: 06-6343-3736 mail: elmkansai@yahoo.co.jp

2023年10月21日通常総会・講演会・懇親会事務局 宛

1. 氏名 _____

学卒・修士・博士 年 _____

学部学科・専攻等 _____

2. 住所 _____

Tel/Fax No. _____

e-Mail _____

3. 出欠 (出席は○、欠席は×)

北大関西同窓会通常総会 ()

講演1「農業の未来を拓く AI × ロボット」 ()

講演2「北海道大学 2030年に向けて」 ()

懇親会 ()

4. 講演後質疑の時間を用意しています。あらかじめ講演者にお尋ねしたい事があれば、以下に記入してください。

キ
リ
ト
リ
✂

目 次

巻頭言	理事長になって特に思う事	山田 勝重	4
行事	北大会館祭の開催	北浦 和憲	6
特別講演			
	1. 創基150周年及び同窓会との連携に向けた大学の取組み	山口 淳二	8
	2. 北海道大学とアイヌ民族 - 未来を担う真の共生社会を問う歩み -	石原 真衣	11
行事	「みんなで目指そう! 持続可能な食と環境」報告	田中 貞之	14
基調講演	循環が成立する社会の構築	岩渕 和則	17
討論会	「持続可能な有機農業」~オーガニックビレッジの取組~	山口 貴義	19
会員活動			
	1. 札幌農学同窓会の園遊会に参加して	松下 秀之	22
	2. 忘却の彼方から - 札幌農学校校歌の原曲レコードについて -	脇地 式三	24
	3. 随想『暗号』	福田 文治	26
	4. 学生のヒマラヤ野外実習プログラム	吉田 勝	27
広告			30
会員活動			
	5. 世界一のオーガニックコーヒー生産と農業改革にかける夢	鈴木 功	36
同窓会活動			
	1. 第26回歴史ウォーク ~三田ゆかりの偉人の誕生地・顕彰地・寺院等を巡る~	野呂 雅之	43
	2. 文楽観劇会に参加して	下岡 健藏	47
	3. 私と中国の銘酒 紹興酒との関わりについて	大田黒康雄	48
	4. 松浦武四郎の十勝越え	北口 久雄	52
	5. マグロの色々な話	大橋 人司	54
	6. 岸和田城・だんじり会館・きしわだ自然資料館 見学会	山本 雅彦	57
	7. 古代の河内平野とその後の変遷	末吉 徹	61
	8. 二水会・三金会の講演一覧(2023年3月~2023年8月)	藤田 久美	69
お知らせ			
	1. 2023年度「東京同窓会」と「京都エルム会」 総会・講演会・懇親会の報告	植松 高志	70
	2. 北海道大学校友会エルム総会に参加して	福井 毅	75
	3. 本学関連トピックス	本学広報課	76
	4. 北海道大学関西同窓会 2023年10月~2024年5月スケジュール	総務部	79
	5. 入退会者情報	福井 毅	80
編集後記		下岡 健藏	80

札幌農学同窓会関西支部 理事長 山田 勝重 (1978 (S53) 農化)



私は昭和 53 年北大農学部を卒業しましたが、学生時代には「札幌農学校」を意識する事はほとんどありませんでした。「札幌農学校」は歴史の中の存在として認識していたからかも知れません。

少し前より理事会活動に係るようになり、北海道大学農学部同窓会ではなく札幌農学同窓会を名乗って活動して来ましたが、北大農学部同窓会の活動として受け止め、特に意識する事はありませんでした。

ところが今春理事長に成って以降、同窓会活動の幅が広がり北大同窓会、北大会館、札幌本部との関係が深くなるに従い、諸先輩方の考え方を新しい角度から聴く機会が増えました。そして北大が農学校から始まり、創設以来の歴史や志、功績に対して強い畏敬の念をもち、それらを築き上げてきた多くの先輩方に対する尊敬の念が想像以上に強い事を、感じさせられる場面を意識するようになって参りました。

その思いは農学部のみならず北大の歴史であり、これを大切にしているのは農学部だけでは無いとは思っておりますが、その辺りの意識の差は有るかも知れません。

農学部が札幌農学同窓会として活動する意味は、外部から観る場合如何なのか判りませんが、同窓会内部での活動に対して一定のイメージ作りが出来ていると感じます。それが同窓会内部の帰属意識や協力醸成にも役立っていると意識するようになってきました。

私は今年 3 月の札幌農学同窓会関西支部の総会において、理事長を拜命する事と成りましたが、それまでに準備を進めて来た「第 17 回市民公開フォーラム」を堺市立東文化会館で開催 (6/17) することができました。多くの関係者や地域の皆様のお力添えによる賜物と思えます。本当にありがとうございました。

このフォーラムは「食育基本法」施行の年 (2008) から開催されコロナ禍の影響で 2 年間休会しましたが、現在まで続けて来ることが出来たのは、大

変意義深い事だと思っています。

コロナ禍の影響と環境変化とが相まって、従来型のフォーラム運営は今後変わって行くだろうと思いますが、継続できる方向の見定めが重要だと考えています。特に参加いただく市民の方々との関係性の見直しが検討すべき重要な課題だと思います。一方同窓会員にとっては、懇親の場としての意義は大きく、その面でも開催が良い機会となり、盛り上がることは喜ばしく、継続の重要性も感じております。



第 17 回市民公開フォーラム パネルディスカッション

フォーラム開催の翌週には札幌で農学同窓会本部理事会 (6/23) に参加する機会を得ました。

コロナ禍の影響で集まる機会を逃し、久しぶりのリアル会議との事でしたので、皆様にお会いする事ができたのはラッキーでした。さらにその日は、夕刻より植物園の場を借りた園遊夜会が開催され、参加する機会も得る事が出来ました。45 年振りの植物園でしたので、忘れていた原生林の匂いと色彩に触れ、学生時代の北海道が蘇る感覚に、



園遊会に出席 (左から 2 人目が筆者)

私の中に昔の記憶が残っていたと感じました。夜会では卒業後初めて再開できた先生も居られ、お互いが思い出すまでの若干の会話の間も、実に楽しい一時となりました。幅広い年代の北大関係者の交わりが同窓会のゆったりとした良い雰囲気を作り上げていたように思います。当日は若い学生の応援参加も多く、同窓会としてのこれからの形を予感する良い機会にもなりました。

こんな経緯を経て、これからの同窓会活動を進めるに当たり、皆さんと共に周年行事を計画実行する中で、何とかそこに未来志向の種を付加したいものだと思うに至りました。俄かに何を如何したら良いのかは解りません。ただその為に現状を改めて見つめる観察が必要ですので、皆様の意見や思いが大切になってくると思います。よろしくお願いたします。

今皆さんと接しながら感じ、思いつく課題は、第一に…同窓会への参加者の減少と高齢化、第二に…同窓会の帰属メリットの希薄化、第三に…周年行事の膠着化…でしょうか。

ところで皆さんもご存知と思いますが、十勝開拓史の中に静岡の豪農の次男坊；依田勉三が未来を夢見て、十勝に「晩成社」を興し長年の苦闘の

中で軌道に乗せながらも分裂し失敗に終わった強烈な話があります。

彼の人生は成功では無かったかも知れませんが、「晩成社」から分かれた数多くの継承者や新たに加わった入植者達が、十勝開拓を民政で成し遂げていきました。官に頼らず行動を始め、夢を追いかけましたが、官の札幌だけでは無く、「晩成社」のような民の活動と相まって、今の北海道農業の礎があると私は思っており、この無謀な依田勉三が私は好きです。これこそが開拓の精神だと、彼らの行動に強い共感を覚えるのです。知名度は高くありませんが、インパクトが半端なく大きいのです。因みに「六花亭」のマルセイ (〇成) バターやバターサンドは「晩成社」の旗印だったと思います。

依田勉三とは言いませんが、思いが行動を引き起こすとすれば、未来志向で新しい試みを試してみる事を忘れないために、敢えてこの機会に文字にしてみる事にしました。

最後になりますが、北大の同窓会活動も未来志向で、少しずつ挑戦の機会を増やす事を心掛けると良いなと思いますので、皆さまも遠慮なく進言くださいますようお願いいたします。

(2023 年 8 月 5 日)



ポプラ並木

北浦 和憲 (1976 (S51) 経営)



筆者近影

1. 創基 150 周年に向けて

北海道大学は 2026 年に創基 150 周年を迎えます。本学は 1876 年、日本で最初期の学位授与機関(大学)として設立された札幌農学校を前身として、以後 150 年に及ぶ歴史の中で力強い発展を遂げ国内外に数多くの人材を輩出し、地域と世界の発展に寄与してきました。

2026 年は、この 150 年の分厚い歴史と類い稀な環境によって醸成された潜在力に磨きをかけ、唯一無二の「比類なき大学」として、世界の課題解決に貢献する大学を目指す次の 150 年のスタートにもなります。

北海道大学は世界の課題、日本の課題を典型的に抱える課題先進地にある大学として「公共財」としてその価値を高め、卓越した世界的研究能力(Excellence)、そして地域に密着した課題解決のための社会への拡張力(Extension)を融合したハイブリッド大学「社会と歩む卓越」を目指します。

北から新しい世界を作っていくという決意をもって「光は北から」を合言葉に、「人と人を、時を、縁を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古川講堂の改修・利活用事業や未来社会を創造する人材育成事業などの創基 150 周年記念事業を進めるとともに、それを推進するための記念募金(北大フロンティア基金)を創設いたしました。

2. 同窓会との連携に向けて

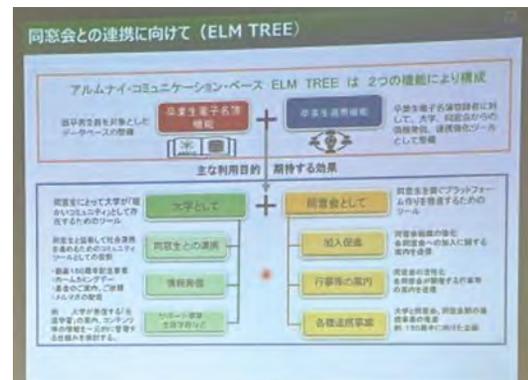
同窓会との連携に向けて「ELM TREE」を今年 5 月から運用開始しました。「卒業生電子名簿機能」と「卒業生連携機能」により大学と同窓生の連携を深めるとともに同窓生への情報発信を進めます。同窓会としても、同窓会への加入促進や行事等の案内に活用が期待されます。

A. 北海道大学の近況と将来への取り組み

北海道大学理事・副学長 山口 淳二様



講演中の山口淳二様



B. 先住民・文化的多様性グローバルステーション(GSI)の活動

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 石原 真衣様



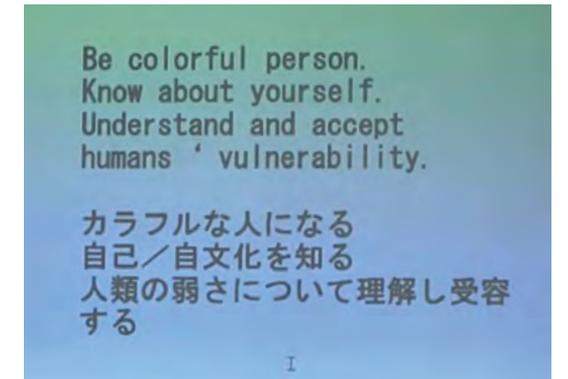
講演中の石原真衣様

日本社会は「人口減少・少子高齢化」、「都市への人口集中・地方の衰退」、「社会資本の老朽化」、「長期的な経済の低迷」、「低い労働生産性」などを課題として抱えています。様々な背景を持った人々が互いに尊重し合い、住みよい社会を創造していくことは、日本が抱える様々な課題解決に寄与するのではないのでしょうか。そのような中で多文化共生やダイバーシティ推進は最も重要なテーマの一つです。

2007 年 4 月にアイヌ・先住民研究センターは国内で唯一の先住民研究センターとして北海道大学の共同教育研究施設として設置されました。センターの役割は「多文化が共存する社会において、とくにアイヌ・先住民に関する総合的・学際的研究に基づき、それらの互恵的共生に向けた提言を

行うとともに、多様な文化の発展と地域社会の振興に寄与」と表明されています。

日本の未来を担う真の共生社会に向けて、多文化共生社会の実現およびダイバーシティ推進が重要です。



講演の休憩時間には同窓生の福本 駿様(昭 45 文教)の詩吟の吟詠があり、会場の皆さんも福本様の指導により詩吟の体験をいたしました。

続いての懇親会は北大会館を会場にして、来賓の山口様・菊池様・笹原様も交えて楽しく懇談が続きました。最後に「都ぞ弥生」の斉唱で盛会のうちにお開きとなりました。

札幌からおいでいただいた来賓の方々に感謝いたしますとともに、開催に向けて準備を重ねていただいた事務局の皆さんのおかげをもちまして無事に北大会館祭を開催することができました。次回も多くの方に参加していただけますよう祈念いたします。



恒例「都ぞ弥生」の斉唱

北海道大学理事・副学長 山口 淳二



皆様、こんにちは。北海道大学理事・副学長の山口です。2020年10月資金総長の就任に伴い、総括、教育担当そして校友会・同窓会担当として理事を担当させていただいております。先日5月27日の北大大会館祭では、「創基150周年及び同窓会との連携に向けて」と題して少しお話しさせていただきました。今回それを文章としてまとめました。どうぞよろしくお申し上げます。

まず、これに先立ち、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、群馬県太田市の生まれで、埼玉大学理学部生化学科、名古屋大学大学院農学研究科(修士・博士)を修了した後、留学を経て、名古屋大学で助手、助教授をつとめました。その後、2001年に北海道大学大学院理学研究科生物科学科に教授として赴任しました。従いまして、私は北大の卒業生ではないのですが、今は多様性の時代です。校友会担当理事として大目に見てください。お陰様で、昨年3月に教授としての職務はお役御免となり、今は理事・副学長職に専念しております。大学全体の活動としては、とくに新渡戸カレッジの開校当初からこれに携わってきました。新渡戸カレッジフェローの選任にあたっては、関西同窓会・北大大会館を何度か訪問し、ご協力を仰ぎました。大阪梅田の真ん中にあのような同窓会員の集いの場があること、とてもうらやましく、また誇らしくも感じました。これからも貴会の活動を活発に続けて頂きたく存じます。

さて、まずは創基150周年記念に関する話題です。

北海道大学は2026年に創基150周年をむかえます(図1)。ご存じのように、1876年の札幌農学校の開校以来、北海道帝国大学、戦後の新制北海道大学、2004年の国立大学法人化を経て、本学は現在に至っています。この間、本学は、地域社会はもちろん、国内外に数多くの人材を輩出し、地域と世界の発展に寄与してきました。また、先人達の努力の結実として、現在、世界でも有数の規



図1 北海道大学の沿革

模を誇るキャンパスを有する総合研究大学へと発展を遂げました。

2026年は、この150年の分厚い歴史と類稀な環境によって醸成された潜在力に磨きをかけ、唯一無二の「比類なき大学」としての記念の年となります。また、次の150年のスタートの年でもあります。創基150周年記念事業については、本学ホームページの特設サイト(図2)において随時発信しておりますので、そちらも併せてご覧ください。



図2 創基150年について

私たち北海道大学は、「光は、北から」を合言葉に、この創基150周年記念事業を進めます。これは資金総長が就任直後から使ってきたキャッチフレーズですが、「光」とは知識や思想といった様々な情

報を意味するものだけではなく、Lofty ambition、つまり、この未曾有の危機の時代だからこそ、人道主義の理想の灯火をここ札幌・北海道から世界に発信していくとの決意を示したものといたします。また、光が三原色から成り立つように、本学は、Sustainability、Innovation、そしてDiversityの3つのテーマを一丸となって推進することで、より明るい社会の実現を目指すとの決意も示しています。以上のように、「北から新しい世界を作っていく」、その決意のもと、本事業を進めて参ります。

さて、創基150周年記念事業の概要について述べましょう。この事業の実施にあたり、「企画運営委員会」が設置され、資金総長が委員長となり、私が副委員長として事業を進めています。今年度より「記念事業準備事務局」が設置され、支援体制の整備も進めています。

それでは記念事業の全体像を示しましょう(図3)。



図3 記念事業の全体像

本学は、記念事業の中心に人材育成を据えました。大学の機能としては、研究や社会連携もありますが、やはり「ひとつづくり」が重要との考えからです。これが、「北大イノベーションフロントの創設およびフロントランナーの育成」事業です。本学は、グローバル人材の育成を目指し、2013年に新渡戸カレッジを創設しました。今回の事業は、グローバルな素養を身につけた学生を対象に、「未来社会の開拓者」となる学生を支援するための人材育成事業となります。社会と大学が共創しながら、対象となる学生が社会課題を解決できるスキルとマインドを修得できるような課題探求型教育プログラムの構築を目指します。優秀な学生には、大学院での入学金や授業料を免除するとともに、課題解決のための研究費の支援も検討しています。また、この人材育成事業では、本学の特徴である美しいキャンパスや広大なフィール

ド(フィジカル空間)での「リアルな学び」に加えて、時空を超えたサイバー空間での「バーチャルな学び」を融合した新たな大学キャンパスの創出、いわゆる「融合キャンパス」での学びについても検討中です。

次に「古河講堂の改修・利活用」事業です。古河講堂は1909(明治42)年に建築された本学の歴史的建造物です。本学正門に入って緑あふれる中央ローンの向かいにある白亜の建物として、とても存在感があります。中央に入口を設け、左右に翼部を伸ばすルネッサンス様式の総2階の建物で、1997年には国の登録有形文化財となりました。しかし、耐震建築基準を満たしておらず、現在利用が不可能な状態にあります。これを安心安全で、バリアフリーな建物に変えて学内外に開放し、本学の新たな名所にしたいとの考えです。

次は、「広報拠点創設」事業です。これから2026年までの間、複数の記念事業が同時進行することになります。そこで、まずは学内外の情報集約を行うだけでなく、効果的に情報発信し、また対外的なコミュニケーションを活性化するための拠点「ENLIGHT」を創設・運営します。これにより150周年記念事業全体の活性化を目指します。ENLIGHTは札幌キャンパス内の北11条西8丁目にある建物「エンレイソウ」を改修して運営します(ちなみにENLIGHTは、元の建物のエンレイソウと本事業の合言葉の「光」に由来した名称です)。今年の9月下旬には改修も完了し、運営が開始されます。ホームカミングデー(9月30日)には無料開放いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

「百五十年史刊行物編纂」事業も現在進行中です。今回「北海道大学百五十年史」と「写真集 北大150年」、そして学生向けブックレット「北大生と北大の歴史(仮題)」を編集・刊行予定です。150年史編集室では、ニュースレター「北海道大学150年史編集ニュース」を定期的に発行しています。編集室の活動、寄贈資料紹介のほか北海道大学の歴史に関するコラムを随時連載していますので、是非ご覧ください(図4)。



図4 北海道大学150年史編集室

最後は記念式典に関する情報です。記念式典は、令和8(2026)年9月26日(土)に開催予定(場所未定)です。当日は、魅力的なプログラムを用意し、現役学生にも声がけして、同窓生・在校生が世代を超えて交流できればと考えています。

今まで説明させていただきました記念事業ですが、これを実施するために北大フロンティア基金の中に「創基150周年記念募金」を設置し、皆様からのご寄附を募集しています。目標の寄附額は50億円としました。創基150周年募金サイトも既に開設しました(図5)。



図5 創基150周年記念募金

私どもとしては、この記念募金は周年記念におけるイベントのみに使用するつもりはありません。次の150年を見据えた「北大のみらい」のために投資させていただきます。皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



図7 ELM TREEは卒業生電子名簿機能と卒業生連携機能の2つより構成されている

卒業生名簿は、従来学部同窓会あるいは地区同窓会によって管理・運営されてきましたが、今年5月から大学が主体的に管理・運営する体制へシフトいたしました。これが定着化することで、若い世代の名簿登録が推進し、各同窓会からの効果的な情報発信も可能となります。前述の創基150周年記念事業に係る情報発信もこのELM TREEを活用していきます。

皆様がこのELM TREEの卒業生連携機能を利用するためには、まず改めての登録作業が必要となります。図6のサイトより基本情報を登録いただき、ID・パスワードの発行手続きを行ってください。登録にあたって、皆様にお手間をとらせることとなります。誠に申し訳ありませんが、

ここからは同窓会との連携に向けた新たな試みについて説明させていただきます。具体的には大学と同窓会をつなぐプラットフォームとして、今回アルムナイ・コミュニケーション・ベース「ELM TREE(エルム・ツリー)」の運用を開始しました(図6)。



図6 ELM TREE(卒業生電子名簿機能・卒業生連携機能)

ELM TREEの名称については「家系図(family tree)」から着想を得ています。「世代を超えた同窓生とのつながり(系譜)を継承し、卒業生ネットワークが枝葉のように広がっていく」というような願いが込められています。ELM TREEは卒業生電子名簿機能と卒業生連携機能の2つより構成されています(図7)。

よろしくお願い申し上げます。ELM TREEの稼働・定着によって、本学は、同窓生との連携強化・活性化、大学からの情報発信強化、基金活動の活性化、また同窓会への加入促進につなげてまいります。

今回創基150周年記念事業と卒業生ネットワークELM TREEの概要について説明させていただきました。北海道大学は、「同窓生の皆様とともに本学の未来を創りあげていく」、そのためには、「本学の何に共感・応援してもらうのか?」、このような視点を絶えず意識しながら、これらの事業を進めて参ります。皆様、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

特別講演 北海道大学とアイヌ民族 —未来を担う真の共生社会を問う歩み—

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 石原 真衣



大阪から北海道と日本を考える

2023年5月27日、開館20周年を祝して開催された北大会館祭では、私がこよなく愛する大阪で同窓生の諸先輩がたところ通う交流をさせていただいた。「同じルーツ(北海道大学出身)」を共有しながら、それぞれ

にサッポロと関西で暮らすわれわれの邂逅はなんだかとても感慨深い。その報告文としてここでは当日の講演内容を紹介したい。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)は、「15人の人文・社会科学系有識者が語る現状と未来・2050年の日本へ、そのプロセスを問う」において、15人の有識者へのインタビューに基づき、課題が山積している現代社会の特徴について以下の四つを挙げている。

1. 行き詰っている産業、社会システム
2. 蜻蛉化、複雑化する科学技術
3. 失われつつある風土と自治
4. 関係が分断されい身の健やかさが欠けた暮らしである。

4については、「無自覚な差別意識が根強く残っている」、「多様な背景・価値観に対する受容性が機能しにくい社会構造となっている」、「当事者の居場所や声を拾い上げる仕組みが不足している」という。以上のような現代社会の窮状を踏まえて、2050年のありたい未来像について、

1. 活力ある産業、社会システム
2. 最適化、民主化した科学技術
3. 守り育てられた風土と自治
4. 多様性やウェルビーイングが実現された暮らしが挙げられた。

多様性とウェルビーイングの実現において、「マイノリティが不利益を被らない社会制度が整備されている」、「誰もが心地よく、コミュニケーションが活性化する空間がある」、「多様性が機能し、ウェ

ルビーングが実現される社会構造となっている」ことが重要であるという。

JSTによる同報告書では私のインタビューも「マイノリティをめぐる問題の解決が社会全体の発展につながる」として掲載された。マイノリティをめぐる課題についての議論を深めることは、これからの豊かな社会を実現する上で重要である。それはマイノリティの権利回復のみならず、社会の病理や人類の不備を明らかにする機能を果たし、全ての人間にとっての豊かな生について考えることを可能にするからである。

以上のような課題について探求するために、アイヌ民族を主軸とする先住民研究的知識は非常に役に立つ。アイヌ民族を取り巻く状況について明らかにすることは、日本社会がまだ十分に把握できていない社会構造を可視化させることにつながる。共生社会の実現とダイバーシティ推進という文脈において、アイヌ民族の状況とあわせながらここでは紹介したい。論点は、日本は国際社会においていかに眼差されているか、共生社会を阻む日本型排外主義とレイシズムと多文化主義の課題、である。そして、これからの共生社会実現のための研究を担う機関としてのアイヌ・先住民研究センターおよび先住民・文化的多様性グローバルステーション(GSI)について紹介したい。

日本は国際社会においていかに眼差されているか

世界経済フォーラムによる2023年の「Global Gender Gap Report」(世界男女格差報告書)によると、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位で、前年から9ランク下がり、2006年の公表開始以来、最低だったという。とりわけ政治の分野においては世界最低クラスの138位だった。14年連続1位のアイスランドは、世界で初めて女性の国家元首を生んだ国でもある。奇跡の逆転国家と言われるアイスランドは、アイスランド危機を女性たちの力によって乗り越えてきたともいえる。マイケル・ムーア監督による映画『世界侵略のスヌメ』(ソニーピクチャーズ)では、世界初の女性国家元首ヴィグディス・フィンボガドゥティルをはじめ、アイスランドの女性リーダーたちが

登場し、いかに社会および国家の発展において女性の活躍が重要かについて語っている。一方で日本ではどうか。

私は北海道大学で教員として勤める以前、この社会において女性が抑圧されていると感じる機会がなかった。つまり北海道大学で女性教員として働くことはとても大変だともいえる。ジェンダー平等・公正において重大な課題を抱えている社会であるにもかかわらず、女性自身はその課題に気がつきにくい構造もある。しかしBBCが「Why Japan can't shake sexism (日本が性差別を払拭できない理由)」というショッキングな記事を公開しているように、国際社会において日本社会における性差別は悪名高い。さらに、2011年にノルウェーで爆破・銃乱射によって77人を殺害した罪(人類史上最悪の殺人事件ともいわれる)で収監されている極右過激派のアンネシュ・ペーリング・ブレイビクが、最も多文化主義からほど遠い国として、日本を理想郷としていることをわれわれは深く受け止める必要がある。国際社会においていかに日本が眼差されているかという鏡は、われわれの今後の課題を浮き彫りにしてくれるだろう。

共生社会を阻む日本型排外主義とレイシズムと多文化主義の問題点

それでは、共生社会の実現に向けてわれわれに課せられているのはいかなるものだろうか。社会学者の樋口直人は2014年に刊行された『日本型排外主義 在特会・外国人参政権・東アジア地政学』(名古屋大学出版会)で、日本における排外主義の特徴をいかのようにまとめている。1. 日本型排外主義において最も重要な点は、東アジアの地政学に基づいて理解することが重要、であり、2. 排外主義運動とは、もはや「通常の民主主義の一部」「病理的な通常」、である。

排外主義的攻撃は、レイシズム(人間をある特徴などで徴づけて差別や危害を加えること)によるものである。しかし、梁英聖が2020年に刊行した『レイシズムとは何か』(ちくま新書)で指摘する通り、日本には反レイシズム規範がない。共生社会を阻む最も害悪な点は、排外主義とレイシズムであることは何度強調されてもよい。近年よく耳にするようになったダイバーシティ&インクルージョンの問題点は、他者の異文化を理解する受け入れるという消極的な共生への振る舞いが、レイシズムの解消には至らないという点だろう。レイシズムはそれに抗する市民が少なくとも国家において半数以上存在しないとなくなる。ジェンダー平等・公正における課題と、文化的多様性

における排外主義やレイシズム解消の課題は今後の日本において最も重大なものである。前節で述べたように、国際的なスタンダードに照らし合わせながら、われわれの社会がどのように課題を解消しながら発展していけるかが今後の鍵である。

1997年に施行された「アイヌ文化振興法」は、「アイヌ文化とは、アイヌ語並びにアイヌにおいて継承されてきた音楽、舞踊、工芸その他の文化的所産及びこれらから発展した文化的所産をいうこと」と規定した。文化人類学におけるエドワード・タイラーによる文化概念と比較すると、特に信念、道徳、法、慣習の側面がそぎ落とされている点は重要である(石原2021)。私の師匠でもある小田博志は、「〈アイヌ文化〉レジーム」(小田2018)という視点を打ち出し、多数派にとって都合のいい文化のみを規定することによって支配体制をつくりだす構造をあぶりだしている。

国際社会において、コスメティックな——うわべだけの——多文化主義やダイバーシティ&インクルージョンが、排外主義やレイシズムを覆い隠してしまうことはもはや定説となりつつあるだろう。異質な他者と共生することに不慣れな日本社会では、こうしたことから学び始める必要がある。2005年12月に中村陸男・北海道大学総長(当時)が、「これまでの本学とアイヌ民族との歴史的経緯を踏まえ、民族の尊厳を尊重しつつ、アイヌをはじめとする先住少数民族に関する全国的・国際的な研究教育を実施することを本学の「責務」であると宣言」し、「アイヌ・先住民研究センターは、この宣言を踏まえ、2007年4月に北海道大学の共同教育研究施設として設置され」た(北海道大学アイヌ・先住民研究センターウェブサイト)。

2021年4月1日には、先住民・文化的多様性グローバルステーション(GSI)が設置された。GSIでは「世界的及び地域的な先住民族の諸問題の解決と、文化的多様性の本質解明に焦点を当てた共同研究をアイヌ民族を含めた先住民族のコミュニティと共に行っていくことを目的」としている。北海道大学は、アイヌ民族の大地に建設され、構成員にアイヌの出自をもつ人びとをかかえる大学である。日本社会の未来と発展にむけてこのユニークな特質はきわめて重要な役割となると信じたい。周辺化された人びとに関する研究や議論は、それらの人びとの権利回復に留まるわけではない。冒頭で述べたように、課題が山積みである現代社会において、その課題についての議論を深化・進展させ、そこから豊かで発展性のある社会を実現させることに寄与できる。

共生社会と活力ある社会へむけて

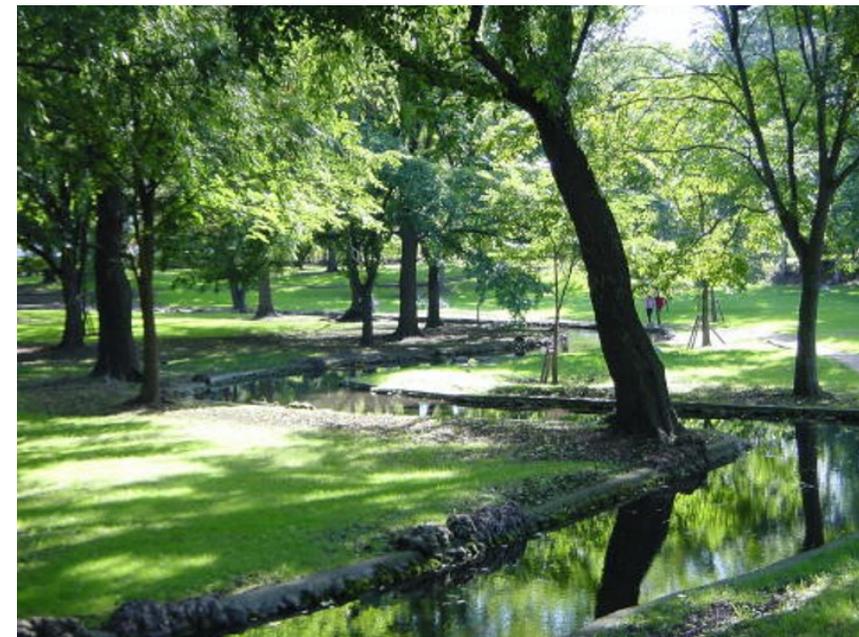
大阪は日本中の文化的多様性が詰まっている場所である。それは今後の日本において最も重要であるダイバーシティ推進を担う場所と言い換えてもよいだろう。そして北海道大学もまた、アイヌ民族の大地に在ることや、アイヌ民族との関係性を重視するという意味において、日本ではこれまで困難であった国内の文化的多様性を実現する大学である。このような二つの多様性に満ちた場所における結節点である「北大会館祭」の節目に立ち会えたことをとても幸福に思う。私の生まれ故郷である北海道と私が最も愛する関西という極めてユニークな土地から、これからの社会における真の豊かさを願って筆を置きたい。

謝辞

貴重な出会いと機会を与えてくださった関係者の皆様に、こころより感謝申し上げます。

参考文献

石原真衣 2021「アカデミック・サバルタンの声と「研究」- 学問における decolonization (脱植民地化) へ向けて -」『北海道民族学』(17) 17-32
小田博志 2018「骨から人へ — あるアイヌ遺骨の repatriation と再人間化 —」『北方人文研究』11:73-94
科学技術振興機構
2022「15人の人文・社会科学系有識者が語る現状と未来・2050年の日本へ、そのプロセスを問う」(<https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/items/15jinsha.pdf>) 2023年8月14日閲覧



北大中央ローンのサクシュコトニ川 (小田博志研究室ウェブサイトより)

「みんなで目指そう！持続可能な食と環境」報告

田中 貞之 (1969 (S44) 農生)

札幌農学校を前身とする北海道大学は、SDGsという言葉がない時代から持続可能な社会への貢献を目指して「キャンパスマスタープラン」(1996年)、「札幌サステナビリティ宣言」(2008年)などの目標に向かって努力を行ってきました。2014年には、創基150年となる2026年に向けて「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」と題した近未来戦略を掲げ、持続可能な社会の実現に資する教育・研究を行っています。こうした取り組みの蓄積から、2020年および2021年には、THE世界大学インパクトランキングにおいて、国内1位(2021年は同列1位)の評価を得ました。一方、2021年5月、農林水産省より「みどりの食料システム戦略」という政策が発表されました。これは2050年を目標として生産から販売、消費にいたるまでの食料システムを持続可能なものとしようというものです。これを受けて近畿農政局では「近畿みどり自治体ネットワーク」を立ち上げ、さらに大阪府では「おおさかアグリアクション」をスタートさせています。

札幌農学同窓会関西支部と北大関西同窓会はこれらの北大ならびに農林水産省の取り組みに対応する様々な持続可能な食と環境への取り組みについてみんなで考え、取り組むことを目指して2023年6月17日(土)、堺市立東文化会館で第17回目の市民公開フォーラムを開催しました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で2年間のブランク後の再開となりやや不安な面がありましたが、

フォーラム全体の構成は整ってきましたので、今年では更なる発展を目指しました。全体は3部構成とし、第1部は「親子で楽しむ食育イベント」、第2部・第3部が「基調講演・パネルディスカッション」としました。

各部の内容を概観します。

◎第1部 食育イベントは、子供向けの食育セミナーと参加いただいた各社の出展コーナーとの2部構成でした。子供向けのコーナーにはたくさんの子供たちが集まり好評でした。出展コーナーへの参加者(敬称略)は、相愛大学・山口農園・マザープラス農楽部・北大・農業マッチ・フジッコ・ニッポン・泉州農とみどり・サンブラ食育・近畿農政局でした。今年の新企画として北海道・北大コーナーを設け、無料フリマ・古本市を開催しました。また、同窓会員及びご家族には、多目的室(旧レストラン)でお弁当を用意しました。

◎第2部は、司会の開会宣言・理事長挨拶・来賓の近畿農政局長 出倉功一氏挨拶に続いて岩淵和則先生(北大農学部 循環農業システム工学研究室 教授)の基調講演「循環が成立する社会の構築」が行われました。

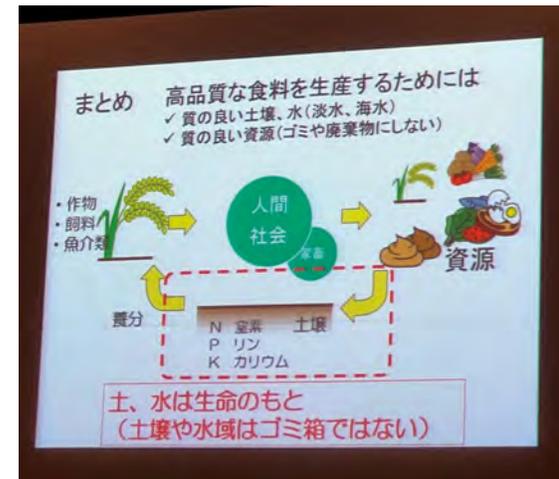
岩淵先生の講演内容を摘録し、感想を述べます。物質の循環は、たいいていの人は何となく良く知っている気ですが、具体的にはよく知っているとは言えないのではないかと気づかされました。物質循環の不成立の事例としては、有害物質の蓄積、廃棄物が最終処分できていない、CO₂の蓄積(増

加)などがあります。

最近コンポストという語を目新しく感じ取り上げる人は多いのですが、これは古くからある堆肥を英訳したもので、両者は同じ意味です。この堆肥について、いろいろ話されました。家畜糞や食品残飯は臭いものの代表ですが、上質な堆肥は全く臭いません。堆肥化の基本原則と操作に重要なのは、酸素と適度な水分で、仕上がりはしっかりとフカフカです。「〇〇菌を混ぜないと堆肥ができない」は誤解です。菌は一般に高価で、無くても全く問題ありません。これは研究者の共通認識です。循環の根幹をなしている重要なことばかりであり、研究は進んでいます。

メタンガス化のお話は目新しいものでした。各地に広がっていて、たくさんのスライドで紹介されました。実用化の例として神戸市のメタンガス燃料バスなども挙げられました。

食料資源はやはり循環しています。まとめは、



高品質の食料を生産するためには、質の良い土壌、水(淡水、海水)、質の良い資源(ゴミや廃棄物にしない)が大切ということと、土、水は生命のもと(土壌や水域はゴミ箱ではない)、ということでした。

◎第3部では「持続可能な食を目指して」をテーマに(一社)札幌農学同窓会松井博和理事長 久田徳二事務局長をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われました。第2部で基調講演をいただいた岩淵和則北大教授、ナガセサンバイオ(株)開発担当兼フィード部門専任理事 佐藤信光氏、サンブラザ(株)山口力社長が参加されました。このうち、佐藤信光氏の講演「日本の養殖と世界の養殖、種苗生産の観点から」を摘録します。

日本は漁業国と思っている人は多いと思います。筆者もその一人でした。あまり考え無しに、魚は毎日のように食べています。その実態は、漁業生産量は1984年の約1,000万トンピークに減少に転じ、現在は500万トン以下(世界全体では1億8千万トン)、一方世界の漁業生産量は年々増大しています。その約半分が漁業であり、半分が養殖です。特に養殖による生産量の増加は著しいものがあり、IT業界と同じような伸び方をしていると言われています。養殖の生産量は約9,000万トンで、日本の90倍の規模になっています。日本の海面養殖・内水面養殖の生産量は、長年ほとんど変化がなく、数量は約100万トン程度です。

1950~1970年代まで日本の養殖技術は、世界でも最先端でした。養殖は古くからされており、まさにバイオニアでした。しかし日本の研究者は英語での論文を出しておらず、その技術は世界には知られていませんでした。さらに1970~1980年代にアメリカ、ヨーロッパから研究者が来て、日本の技術が流出していったという経緯がありま



第1部 食育イベント参加の皆様



第3部 久田徳二事務局長・松井博和理事長をコーディネーターとしてのパネルディスカッション
パネリストは岩淵和則教授・佐藤信光氏・山口力氏・増本寛之氏・霜野要規氏・山口貴義氏(左より)

す。海外の水産の学会に行く残念なことに、日本の影がほとんどありません。大学の先生も来ていませんし、企業の数も少ないのが現状です。

養殖は、親魚から卵を得て孵化させ、養殖を始める小魚まで育てる種苗生産が要になります。稚魚はアルテミアやコペポダというプランクトンを餌としますが、これらの生産が大変です。畜産では野生種をそのまま育てるのはまれで、育種で多くの品種を得ていますが、養殖でも、今後育種が極めて重要になります。飼料効率の改善、耐病性向上、魚粉でなく植物タンパクを餌にできるようにするなど、改良をかさねることが必要です。

海面養殖は海を汚します。海の生態系にこれ以上負荷をかけないために、サーモン、バナメイエビは、陸上養殖が行われています。天然ものが上質で養殖ものは劣るという漠然としたイメージにとらわれていた筆者でしたが、認識不足だったと思いました。日常では見えない水産の世界の多彩さがうかがえる話題提供でした。

実際に農業に携わる方々の活動発表は、①大阪府泉州農と緑の総合事務所（府の農業支援・指導など）②(株)しものファーム（小松菜・菊名などの減農薬・減肥栽培）③(有)山口農園（有機野菜の計画生産・分業化など）のお話をうかがいました。これらは豊富なアイデアのもと、生き生きと楽しく活動中の実践報告で、堅い話より引き込まれた聴衆も多かったのではないかと思います。これらの実践報告は昨年からの流れで、いい方向だと思っています。

もし、参加者の中に何をしようか迷っている若者がいて、食や農 何かに関心が芽生え、自分もどこかで関与しようかと思うきっかけになれば、このフォーラムも、また回を重ねた意味もより深まるのではないかと感じました。

フォーラム終了後、会場近くのイタリアレストラン『フォンテ・ディ・トゥートレ』にて懇親会を行いました。久々に集う同窓生どうし、話に花を咲かせ、都ぞ弥生、エールで締め、朝からの長い1日を締めくくりました。



基調講演

循環が成立する社会の構築

北海道大学 大学院農学研究院 教授 岩淵 和則



私たちの課題

私たちの社会は、環境、食料、エネルギーなどに関して多くの課題を抱えています。これらの課題を解決するのは決して簡単なことではありませんが、その解決の糸口となるのが“持続性(sustainability、サステナビリティ)”であり、多くの方がどこかで耳にしたことがある言葉かと思えます。

「持続性がある」とは、物事や現象が永く、続けられることですが、私たちの社会においては、「環境、食料、エネルギー」などあるシステムにおいて循環が成立していることが不可欠です。システムに入るもの（入力）には、必ず出力があり、それが再生され続けることが必要です。

システムとは、あらゆるものが対象になります。例えば、地球全体、日本の国土、地域、家、人間の身体、細胞など多様です。人間の身体をシステムとして考える場合、酸素、水、食料が体内に入力され、運動エネルギー、CO₂、排せつ物という形で体外に出力されます。また、家庭（家）をシステムとして考えると、購入した食料、プラスチック製品、紙、電気エネルギー、灯油や都市ガス（天然ガス）などが入力され、熱エネルギー、排気ガス（CO₂）、廃棄物などが出力されます。

このように入る物、出る物がありますが、とりわけプラスチック、灯油、天然ガス、廃棄物が問題です。前者のプラスチック、灯油、天然ガスは化石資源由来であり、最終的には燃焼されてCO₂になってしまい、再生が困難ですので物質循環が成立しない代表例にされています。例えばレジ袋

を使わないようになったのは、このためです。後者の廃棄物は、家からだけでなく、オフィス、お店、工場など全ての建物から生み出されて、中には再生・再利用できるものもありますが、100%再生・再利用することは出来ていません。「循環が成立する」社会の実現は難しいのですが、そのような社会を目指すことが多くの課題解決につながります。

幸いにも世の中には循環しているものがあり、それを社会に広く役立てて行くことはとても大切です。図1は地球規模から植物など多様なシステムを組み合わせたもので、一方通行型で再生・再利用が出来ない状態がなく、矢印の先が必ずどこかに繋がっていて、循環が成立しているケースを示しています。化石資源を使わずに、植物などの生物由来の資源（以後、バイオマス）を上手く利用していることが特長です。

バイオマスの利用

バイオマスを活用することは、循環型社会の構築に有効であることは間違いありません。一般的には廃棄物系バイオマス、未利用バイオマスそして燃料にする目的で栽培される資源植物などが利用の対象です。留意する点としては、

- 1) 食料、2) 生態系攪乱のリスクがあるもの、
- 3) 薬剤等が混入したもの

の利用には配慮が必要です。1)の食料については、人の生存に関わるため、この利用は避ける必要が

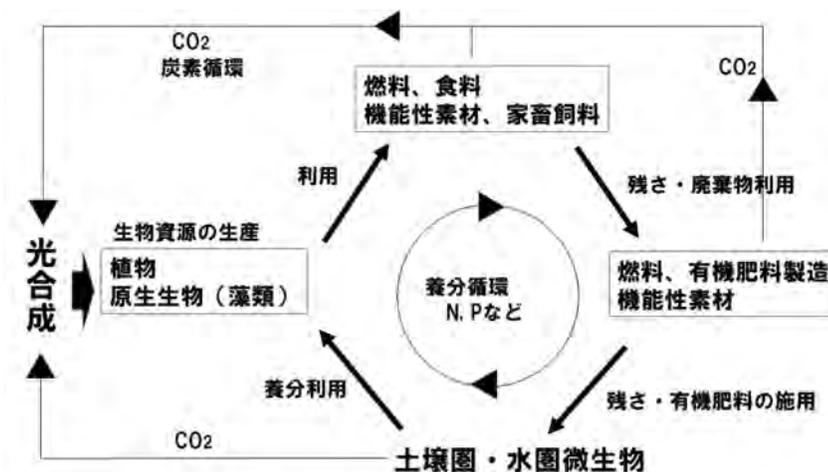


図1 バイオマスの循環

あります。かつて食用のトウモロコシやムギなどから燃料用エタノール製造を大規模に行ったことがあります。これらの価格高騰を招き、社会問題になりました。この経験を踏まえ、作物可食部の資源化は行わず、非可食部や非可食性資源の利用が求められます。2)は資源植物の導入時の問題となります。例えばエネルギー生産性の高い外来種植物などの安易な国内への輸入による栽培利用は、国内の生態系攪乱の原因になるため、慎重になるべきです。加工した後の国内への輸送や攪乱防止のための栽培管理を徹底する等の対策が不可欠です。3)は例えば建築廃材などを粉砕して堆肥化原料に副資材として利用する場合などに生じる問題です。防虫、防腐目的で木材に化学物質が塗布されているものなどは、燃料用途には利用可能な場合がありますが、堆肥製造用の副資材としての活用には不適であり、使用は避けることが求められます。

資源植物の栽培に関しては、耕作地を利用すれば食料生産圃場との競合が生じるため、十分な面積を確保できないことがあります。一方、休耕地や耕作放棄地は放置しておく、やがて森林化が起き、荒れた畑に樹木が生育するようになります。再度耕作地に戻す場合には、茎葉が柔らかい草本類とは異なり、木本類の根茎処理は困難を伴うため、休耕地や耕作放棄地への資源作物の導入は、将来的な食料自給率向上やそのための耕作地の回復という選択肢を残しており合理的と言えます。

廃棄物系バイオマスの利用

食品残さや家畜の排せつ物などの「廃棄物系バイオマス」は、利用に際して、上述した懸念事項である食料との競合が生じない、食料由来であるため品質の安全性が確保し易いなど、実は大きなメリットがあります。一見すると、“汚い”という印象しか得られないのかもしれませんが、循環が成立するシステムでは“資源”と捉えられるべきで、そのためには資源として相応しい取り扱いが必要になります。現実的には廃棄物系バイオマスの多くは、そのままの利用が困難であるため、それらを適切な方法で資源やエネルギーへと変換することになります。ここでは、廃棄物系バイオマスの堆肥化による有機肥料化やエネルギー用ガスを生産するメタンガス化について簡単に紹介します。

1) 堆肥化

堆肥化は、有機物の酸化分解・発熱反応により有機肥料を生産する技術です。酸素のある環境で働く好気性微生物が主役であり、例えば落ち葉やイナワラなどが朽ちて分解し、土に戻って行く過

程と同じ現象です。主役となる微生物は野生種であり、いかなる場所にも生息している微生物を利用しているだけです。この微生物群が活性化されるように、空気中の酸素との接触をさせることに留意すれば比較的容易な技術です。

食品残さは、洗浄や加熱等の除菌・殺菌がなされていることが多く、付着微生物数が極端に少ないことから、有機物が豊富な土や園芸用堆肥などを少量混ぜて植菌することを勧めます。ただし、あくまでも高額な微生物資材を購入するのではなく、身近にある土などの資材を利用するだけで十分です。その他には、原料の水分が高くなり過ぎないように配慮することが大切です。原料の水分が高いほど、分解率も高くなることが分かっていますが、高水分では泥濘（ベタベタ）状態になり、原料内部が空気中の酸素との接触が困難になり、堆肥化がうまく進行しません。乾いた原料などを混ぜて、酸素が入り易い状態にすることを勧めます。酸素供給が十分行われると原料温度が70℃程度まで上昇する現象が見られたりします。

2) メタンガス化

メタンガス化はメタン発酵を利用して、メタンガスを発生させる技術です。堆肥化とは異なり、酸素との接触が不要な嫌気性微生物が主役の微生物反応です。酸化反応ではないため、反応熱の発生はほとんど無く、勝手に原料温度が上がって暖かくなることはありませんが、メタン濃度約60%のガスを発生することが出来るため、廃水などからの可燃性ガス生産が期待される技術です。自治体の先進事例には、都市下水を原料としてメタンガスを回収し、路線バス燃料や都市ガス燃料の一部として活用している都市があります。一般的に効率的なガス生産には30℃以上の温度が必要とされており、日本では家庭でこの装置を活用している例は少ないのですが、世界的にはその歴史は古く紀元前10世紀にはメタンガス化で得られたガスが温水の熱源として利用されていたようで、実施が容易な技術です。年間を通して気温の高いインドや中国南部地域では発酵槽を加温する必要がなく、家庭廃水を利用し、料理用などの燃料として活用する伝統が古くからあります。

現在は家畜排せつ物や食品廃棄物の汚泥減量化、悪臭対策、肥料としての活用、そして再生可能エネルギー生産を目指した取り組みが多く、特に回収したメタンガスのガスエンジンによる発電装置を併設した施設など、発電とエンジン排熱を活用する事例が増えています。



17回市民公開フォーラムでは弊社の取組みなどをお話させて頂きました。まずは北海道大学関西同窓会の皆様、関係される方々に感謝とお礼を申し上げます。

弊社は、2005年3月に個人農家を法人化した農地所有の確法人（以前までは農業生産法人と言う呼称でした）で、沢山の生産者が集まり組織する農事組合法人ではなく、いわゆる会社法人です。

私はサラリーマン出身で会社のある奈良県宇陀市出身ではなく、城下町や金魚で有名な大和郡山市出身です。妻の実家が宇陀市の農家ですが、地域の若者が宇陀市を離れ、農地を守る人が少なくなっていました。2004年に義父からこのままでは地域が無くなってしまふから会社を立ち上げたいとの相談を受けたことがきっかけとなり、現在に至っています。

そもそも妻とは長い付き合いで、結婚前には安定した職業ということで転職して1997年に奈良県庁に入庁しました。1998年に結婚したのですがその当時は会社立ち上げなど想像もつかない話でした。実家が本家という事で婿養子として来てほしいと言われ、私は次男でしたので山口家へ来ることになりました。その当時から土日など農作業の手伝いなどをしていたのですがどうも農業はしんどい、農業では生計を立てる事が出来ない、と思っていました。それと同時に他産業には当たり前のことが農業では当たり前ではないことが多く、矛盾を感じていました。そんな中で会社立ち上げの相談を受けたのです。もちろん妻は大反対。せっかく安定した公務員になって6年が経ち、ちょうど3人目の子供が生まれたばかりでした。

しかし、違った角度で見ると農業には他産業にないことが多い分、伸び代があると感じていました。他産業では生産や販売、加工などがそれぞれ分業されています。しかし、農業はなぜ家族全員野球なのでしょうか。例えば家族全員で朝食や昼食を食べ、自分が終わっても全員が食べ終わるのを待ちます。時には再放送のドラマを皆で終わるまで観ることもあります。猛暑の夏は昼寝もします。そして全員で夕ご飯を食べてから野菜の袋入れなどにとりかかり、忙しい時は夜なべになります。しかも生き物相手なので年中拘束されます。そりゃ若い人は農業をしたがらないわけだ、と感じていました。そんな農業では法人設立など妻が反対するのは当然です。そこで、安定した公務員を辞めて農業で会社を立ち上げるにあたり、義父に条件を付けました。それが分業制組織をつくることです。部署を設けて各仕事を専門的に行うことで、出来る限り稼働時間100%を目指し効率化して回転率を上げるやり方です。義父にこの条件を説明し、当時の規模でもスタッフ20人ほどは必要と言いました。すると、農協の通帳を見せてくれ、家族全員必死で働いても月にこれだけしか収入が入らないのにこの僅かなお金でどうやってそれだけの人を雇えるのかと言われました。しかし、それで会社と一緒に立ち上げてくれるならと了承してくれました。

会社を立ち上げてスタッフが増えると当たり前のルールを決めます。経営者はスタッフ達の模範とならないといけません。いわゆる農家には通常師弟関係があり親方の言うことは絶対です。会社になれば経営者は親方ではなく、スタッフは弟子ではないので家族のような融通は利きません。例えば師弟関係の下では何日も前から計画していたことでも当日の天気や気分によって親方がこう変えればそれに従わなくてはなりません。経営者が親方のようにふるまえば事前に仕事を計画していたスタッフからすればモチベーションが下がり士気も大きく下がってしまうのです。また、地域も当初は有機農業に理解が無く、無農薬・無化学肥料で野菜を育てることは何かの怪しい団体か、とか、虫や病気などが出れば農薬などを使わない山口農園が虫や病害の原因だと言われることもありました。そんなことで当初は家族や地域と

衝突を繰り返していました。そして一度家族が崩壊もしました。

つまり家業を企業にすることは本当に大変で、いろんな紆余曲折を経て現在に至ります。もちろん今は家族や地域とも上手くいっています。現在があるのも昔からの確たる栽培技術や有機農業の可能な環境の良さのおかげです。詳しい話をすると大変長くなるので興味のある方は聞きに来てください（笑）

さて、山口農園は2010年よりオーガニックアグリスクール NARA を運営し農業者の育成に力を入れてきました。しかし当初は有機農業で新規独立就農を継続出来る者がいませんでした。その理由は雑草が出て除草剤は使えず、虫害が出て殺虫剤などは使用出来ません。全て手作業になり通常の農業に比べると何倍、何十倍と手間や時間がかかる大変な農業です。そしてその忙しさから地域との付き合いがおろそかになります。そうすると、例えばお祭りや溝掃除などの行事の情報が入ってこなくなり、どんどん孤立してしまいます。そもそも、有機農業に適した農地を手に入れることも困難になります。自分の農地が有機農業で無農薬・無化学肥料でも、お隣が農薬などをまけばドリフト（飛散）してしまいます。またビニールハウスなどの施設栽培では水の確保が必要です。特にパイロット工事などが整備されていない田舎の有機農業では農薬などの影響のない水を確保するため、井戸を掘らなければなりません。井戸を掘っても水が出るとも限りませんし、井戸を掘るためにその土地の地主様に了解を得なければいけません。これらの障害を越えて何とか有機野菜を栽培出来ても、市場や有機コーナーのない直売所等へ持ち込めば慣行野菜と同じ価格でしか売れません。これらのハードルの高さから有機農業での新規就農者が出なかったのです。しかし、そんな中で地域から少しずつ農地の管理依頼をうけるようになり、沢山の農地を預かっていくうちに地域と信頼関係が生まれてきました。

色々な問題を解決するために考えたのが2013年に発足した山口農園グループです。管理依頼を受けた土地を弊社スクールを卒業して新規就農したい者へそのまま譲り渡せば、当社も管理を離れて楽になるし独立希望者も良い土地を手に入れることができます。しかもすでに山口農園の担保で地域に受け入れられ、行政が各地域でつくる「人農地プラン」の中心経営体となるわけです。作った野菜は山口農園が JAS 価格で買上げ全国の有機野菜の取扱店へ発送します。つまり作ることに集中できるわけです。しかも毎月のグループ会議で

作付け計画も皆で立てます。そうしたことでグループは10名を超え有機農業で独立できないものがゼロになりました。

しかし生産量が上がると出荷できないC品が多く出るようになりました。それらは食べられるのに廃棄ロスになってしまう野菜です。もちろん調理すれば虫穴や形などは気にならないので子ども食堂や大手企業の社員食堂、飲食店様といった販売先の開拓をすすめました。しかしそれでも廃棄ロスは出ます。そんな中、昨年7月、農水省は「みどりの食料システム戦略」を策定し「みどりの食料システム法」を施行しました。この法律は2050年までに化学農薬50%、化学肥料30%の大幅な低減だけでなく有機農業の取組面積を現在の0.6%から25%に引き上げるといってつもない目標を設定しています。この目標を達成するために2025年までに100の自治体がオーガニックビレッジを宣言するという計画を立てています。そして、我が宇陀市が全国初のオーガニックビレッジ宣言をおこないました。オーガニックビレッジ宣言へのハードルが高いのは有機農家だけではなく生産から加工、物流、消費までがコンソーシアムでないと実現しないからです。山口農園では宇陀市だけでなく多くの企業と連携しました。生産性を上げるために「トヨタのカイゼン」を導入しました。また、収穫した野菜の貯蔵性を上げるために「電場冷蔵庫」を試験導入しました。さらに廃棄ロスになる野菜を常温で保存できて色あせないペースト「NARA green」を開発しました。このペーストを更に加工して染料である「奈鹿ね子染菜」、アートや書道に使える墨汁「抹茶」も開発しました。これらは食品なので使用後に食べる事も出来、体験するSDGsとして活用できます。

われわれ農家は栽培した農産物の見た目や糖度などの味だけで買ってもらうとしたり評価を期待したりしますが、それは消費者が手に取って食べてみて初めて実現されることです。まだまだ知られていない有機野菜などはまず手に取ってもらえるきっかけを作ることが大事だと考えています。「奈鹿ね子染菜」を使ったシャツやハンカチなどを染める体験や、「抹茶」を使ったアート体験は楽しく体験することを通じて食品ロスや環境問題を知っていただくと共に有機農産物を購入して食べる事が環境保全など社会貢献の一つであることを理解して頂けます。山口農園はこれからも地域や行政、企業、教育機関等と連携して有機農業を広げ担い手を増やしていくことを理念の一つとして邁進していきます。



(座学の様子)



オーガニックアグリスクール NARA の授業風景

(実習の様子)



廃棄ロス野菜から開発した常温で保存でき色あせないペースト「NARA Green」 右は中身



アート墨汁「抹茶」を使用した書道の様子



染料「奈鹿ね子染菜」(左) と染め上げた布 (右)



松下 秀之 (1979年 (S54) 農化)



筆者近影



受付にて 16時受付開始
たくさんの学生さんがアルバイトで手伝ってくれてました



17時開園
札幌農学同窓会理事長 松井博和先生のご挨拶



「北海道農民管弦楽団」を主宰する同窓生が率いる「トリオ・マモーレ」のクラシックミニコンサート

2023年6月23日、北海道大学植物園（北3条西8丁目）において、札幌農学同窓会の親睦園遊会（ガーデンパーティー）が開催されました。2019年以來の4年ぶりの開催で、今年で30回目を迎えるそうです。

私は初めて参加したのですが、実に素晴らしい会でした、感動しました。

事前に参加登録されていた方だけでも、166名（同伴者24名）が参加され、飛び入りを含めると200名以上の人々が集まり、素晴らしい会でした。166名のうち、昭和卒業生が91名、平成卒業生が35名、令和卒業生が16名、現役学生が17名、でした（特別会員6名、その他1名）。

寶金総長・杉江会長・野口農学院長をはじめ、北大からもたくさんの方々がお集まりになられ、楽しんでいただきました。

会場には、開始前から「トリオ・マモーレ」の素晴らしい演奏が流れ、「ケータリング美利香」による手作り料理が並びました。一流ホテルのバイキング以上に素晴らしい料理でした。

会場の北大植物園は、200万都市札幌の町のど真ん中に位置しており、緑豊かで、この日は貸し切りでした。しかも、普段は飲食ができませんのですが、親睦園遊会ということで楽しむことができました。

私の拙い文章より、写真を見ていただくのが一番だと思いますので、以下、できるだけたくさんの写真を載せました。実感いただけましたら嬉しいです。



石狩管内の女性農業者が起業した「ケータリング美利香」の皆さんによる手作り料理



北海道大学総長 寶金清博先生のご挨拶



ご参加いただいた御歴々の先生たち
左から松井先生・横田先生・寶金先生・西邑先生・松沢先輩・杉江会長・山口先生



北海道大学農学研究院院長
野口 伸先生のご挨拶
手前に写っている人は筆者の恩師の
谷田昌稔先生です



北海道大学校友会エールム会長
杉江和男会長のご挨拶



北海道大学前農学研究院院長 西邑隆徳先生のご挨拶
隣に写っている人はワイン研究センターの曾根輝雄先生です



最後に全員が輪になって都ぞ弥生を歌いました

脇地 式三



脇地氏に寄稿頂くまでの経緯 (編集委員)

2022年6月4日に脇地氏が「Tramp, Tramp, Tramp」が録音されたレコードを北大大会館に持参され、北大関西同窓会に寄贈された。当該レコードは校歌の原曲であり、北海道大学にとっても貴重なものであるし、かなり古いもので一部ヒビも入っているので、再生・保管は北大文書館が適当と考え、文書館と連絡したところ受け入れ可能ということであったので、当該レコードを北大文書館に脇地氏と北大関西同窓会名で寄贈した。その後、この件が2023年1月1日の熊野新聞で「父から子へ、子から母校へ!」というテーマで取り上げられた。(関西同窓会ホームページに公開されている会報89号の該当ページのリンクをクリックして該当記事をご覧ください。

<https://kumanoshimbun.com/press/cgi-bin/userinterface/searchpage.cgi?target=202301010801&position=0&smode=1&word=>)

地方紙なので、目にされた方は少ないかと思うので、この機会にこの事実と経緯を関西同窓会各位に知らせたく、脇地氏に大学時代の思い出も含めて、寄稿をお願いした次第である。

地方紙なので、目にされた方は少ないかと思うので、この機会にこの事実と経緯を関西同窓会各位に知らせたく、脇地氏に大学時代の思い出も含めて、寄稿をお願いした次第である。

札幌農学校校歌の発見(?)について

札幌農学校校歌の原曲となった「Tramp, Tramp, Tramp」が録音されたSPレコード(軍歌メドレー集)の楽曲は、アメリカ帰りの祖父が戦前に持ち帰ったブランズウィック(コロビアの子会社)の蓄音機を通して、筆者が幼い頃から親しんでいたものである。

私の父旭(1910~1998)は一人っ子で、祖父・祖母の愛を一身に受け、1930年代を東京の青山学院で送り(このSP盤もそのころ求めたものと思われる)、その後は大正デモクラシーから戦前の暗黒時代、そして亡くなる迄那智勝浦で過ごした。父は学生時代、山田耕作に一時的にレクチャーを受けたことも有り、音楽の素養は相当なものがあつたようで、一寸した歌曲を作曲もしていた。手巻

きの蓄音機が健在でSP盤をそれなりの良い音で聞いていた頃、たぶん小学校6年生か中学生の頃だったか、その父がポツリと「この曲はどうも北大に関係があるらしい」と1回だけ言ったことがあり、何せ戦前の人というわけで一高・三高・陸士・海兵・札幌農学校とよく言っていた父だったので、小生が覚えていたということである。

このSP盤を北大関西同窓会に持って行ったのはいくつかの偶然が重なったとしか言いようがない。まず第一に恵迪寮同窓会から再々お便りを頂戴していたこと(奇しくも恵迪寮同窓会理事の千川浩治君は入学、入寮、和歌山県人二人のうちの同期である)。第二に小生の小学校退職後、地元の「愛蘭会」の会誌やら会長職やらから離れて暇になったこと。第三に大学時代の旧友の消息を知りたいと偶々考えたこと。第四に訪問時の手土産に話題になればとSP盤を録音したテープとレコードを選んだことである。

北大大会館を2022年4月に尋ね当日会館に居られた方と話したところ、現在の北大に校歌はないが札幌農学校時代は校歌があり、現在も良く歌われているとのことで、テープを聞いてもらったところ札幌農学校校歌の原曲である旨を指摘された。そこで、同年6月にこのSPレコードを再度持参し北大関西同窓会に寄贈した。その後北大関西同窓会からレコードは北大文書館に保管されるとの連絡ももらった次第である。

この事を地元の熊野新聞社(昔から小生が余暇に書いたエッセイを40~50回載せて頂いた)の少壮ながら敏腕と称すべき副編集長の前地翔氏に語ったところ、興味を示され、同紙の2023年元旦の記事となった。偶に顔を合わせる程度で、歴史をたどった話題には事欠かない当地方(熊野三山、新宮の水野藩時代の話、トルコ軍艦の遭難など)、よくぞ取り上げてくださったという感じで、これ又、偶然の産物の一つであろう。

おそらく在京時に父が求めたSP盤が、今回のような注目を頂くことになるとは夢にも思わなかったことで、これが最大の偶然の産物であろう。尚、一寸他所の話になるが父の音楽趣味は兄弟すべてに行き渡ったものらしく、私の在学時代、北大新聞に何か書けというような事もあつたらしく、いま読んでみて恥ずかしい青臭い評論めいた一文を載せて頂いている。



北海道大学新聞(昭和43年6月15日)掲載記事のコピー:北海道大学 大学文書館提供

寮の思い出

忘却の彼方に沈みつつある思い出のアルバムの中から断片的にひっぱりだしたものを書き連ねてみる。

恵迪寮一札幌市北17条西8丁目一かつて書き慣れた名称だ。昭和40年頃路面電車に乗り北17(18?)条の電停で降り、西へしばらく歩いた所にちっともカラフルでない風雪に晒されたそれはあった。電車を降りた角に喫茶「タマキ」がありママに厚遇してもらったものである(小生だけではない)。寮での食事が印象に残っているが、一日90円、丼飯に丼一杯のミソ汁(ズッペと称した)、それにマーガリンが添えられていた。キャベツと豆腐のミソ汁がウマかった。何せマトン100グラム30~35円の頃である。コーヒー代もそれ位でなかったか。勿論「モツラ」は定番であつて、暗い医学部の裏を雪の積もってない所を選んで、三々五々連れ立って行った。たしかお嬢さんが居られて、それを目当てに通った者もいただろう。寮の近くには学部生の「楡影寮」があり、「オバンケル」なる名物寮母がおられたが、ここでの本題ではない。何せこの頃の私には北海道の百万都市で北と南、田舎と都会の差異を感じつつ大いなるカルチャーショックを受け、あれよあれよと浮き沈みしていたのに違いないのだ。

思い出もセピア色どころかモノクロの幻影の中であるが、寮は南寮・中寮・北寮・新寮の4棟あったようであり、玄関が南に近くにあつたこと、5人部屋の60室であつたが、その中で〇〇研究会とやら何やらで同じ部屋に入った筈だが最後の方の45号室しか記憶にない。



昭和40年頃 工学部近くで(筆者)



入寮時のある部屋の住人5人 左から、奥角・山口・脇地(筆者)・松澤・篠原(敬称略) この中では青森の奥角氏と碁を打ったり相撲をとったりした事が記憶にある

入寮銓衡は確か北寮の端の2階で、入り口に太鼓が置いてあり、それを叩くと「オー」という応答があり、中に入ると斜めに構えた先輩諸氏がジロリとこちらを向いているといった態で、気の弱い私などはこの時点で度肝を抜かれてしまったに違いない。歓迎会で18条近くの飲食店へ一人が電気ポットを、一人が一升瓶を上着の下へ隠し持って(目的は言うまでもない)…あとはジンギスカンの牛飲馬食であった。又、入寮が済んだあと先輩方の(特に強烈だったのはスキー部のストーム)洗礼で、朝の3時4時頃お祝いに(!)来てくれるのであって新入寮生は感謝の念をもって終わるまで拍手で答えなければならなかった。考えてみれば向こうも大変だったろう。

売店のオバちゃんと親しくなって訊いた話だが、「私の義父は1889年の十津川大水害で北海道へ移住してきた。故郷は太田(私の近所である)」とのこと。新十津川村のことも有り、もう少し詳しく聞いておけばよかったと今思っている。

夏休みであったか、意気投合した鈴木雄司氏、鹿内史朗氏(函館)、粕谷文夫氏らが来紀、我が柚家で泊まり、那智の滝観光などされて機嫌よくお帰り頂いた。

これも夏休みであったか、欧米各国の学生がリュック一つで、寮に泊まるのがちよくちよくあった。暇な寮生が、汚い湯呑みで茶をすすめ、取り囲んで一寸した欧米事情などを聴いた。またソルボンヌ大学の学生が来た時は、やや怪しい英語でお互い分かったような顔をして和気あいあいと話していると、彼が“You understand?”と突っ込んで来たので一同頭を掻いたのも良い思い出である。

応援団のリヤカーを先頭に観桜祭での円山公園の帰り、大通り公園あたりで円陣、肩を組んで、大いなるストームを披露、路面電車を止め「札幌農学校は蝦夷が島、熊が住む…」と荒れ回った。まだまだバンカラ風が残る青春であった。

大学中退後～現在迄のこと

26歳位で郷里に戻って後、民間で2～3年。その後、田中角栄内閣時(昭和48年頃)に成立した人材確保法(早い話が教員法)による全国一斉テストの第1回に合格し、教育界に潜り込んで「家」と共にこの和歌山の僻地で、父母を見送ったということである。その後、趣味の世界へのめり込んで寒蘭栽培、クラシック、囲碁などやっているが、「趣味の世界」といってもなかなか難しいと思っているこの頃である。(了)

随想『暗号』

福田 文治 (1951 (S26) 農化)



筆者(中央)

『ニイタカヤマノボレ』これは先の太平洋戦争開戦時、ハワイ湾奇襲を告げる日本軍内部の暗号である。このような大袈裟なもの

ではなく日常生活で私は手帳に暗号めいたことをメモることがある。他人に知られたくないというよりも、一種の言葉遊びを楽しんでいるかも知れない。

例えば beaucoup de Benz などのメモがある。最初の2文字はフランス語で「多量の」を意味し、Benz は云うまでもなく有名なヨーロッパの自動車の名称を、「排泄物」を表すのにお借りしたことも

のである。こうすれば、ノートも汚れないし(?), 健康管理にも好都合である。

暗号とは本来重要な或る情報を敵に悟られないように味方に知らせる一つの手段である。言語でなければいけないという法則は無い。自由である。これは人間社会のみならず自然界でも仲間同志の意志伝達に使われる。敵の知られぬうちにというのが最大要件である。鳥の鳴き声、動物の咆哮がこれに当たる。その種族にのみ通用する言語と云えよう。

話を現代に戻せば、AIの発達により言語以外の「素材」で意志を伝える手段がどんどん発達多様化し、どこまで発展するのか限界が見えないのが実状である。我々はかくして「暗号の世界」に生きていると云えなくもない。

山間の集落に住む我が家には朝早くから鳥達の鳴き声が快く耳に届く。暗号だから我々にはその意味は分からないが、思うに雌雄間のやり取りなのだろう。彼等に幸多かれと祈るばかりである。

学生のヒマラヤ野外実習プログラム

吉田 勝 (1961 (S36) 理・地鉱及び山岳部卒)

第11回実習ツアー(2023年3月)実施報告と

第12回実習ツアー(2024年3月)対象のクラウドファンディング開始のお知らせとお願い



図1. ダウラギリーツクチェ連山の下で、SHET-11 チーム全員

第11回実習ツアー(2023年3月)実施報告

第11回学生のヒマラヤ野外実習ツアー(SHET-11)は予定通り3月3日から19日にかけて実施されました。参加者は日本各地5大学の学生11人、ネパールのトリブバン大学生2人、中国の成都技術大学院生1人と日本の山岳写真家1人で、合計15人、指導教員は筆者とトリブバン大学のM.パウデル准教授で、それにガイド1人を加えてチームの総勢は18人でした(図1)。

今回、日ネ両国の入国規制は昨年よりやや緩められており、また外務省による新型コロナウイルス感染症についてのネパールの危険レベルは1「渡航・滞在には特別な注意が必要」とされていました。当時ネパールの1日の新規感染者数は1人前後、乗り換え国のマレーシアは170人で、1万人レベルだった日本より遥かに安全でした。しかし日本入国時にはワクチン3回以上の接種あるいはネパール出国72時間以内のPCR検査陰性証明が必要とされていました。幸い、日本帰国時のPCR検査は、該当した数人は全員陰性でした。

カトマンズに3月3日深夜到着の翌日午前中はトリブバン大学トリチャンドラキャンパス(TU)でのプレツアーセミナーでした。ウブレティ教授による名講義「ヒマラヤの生い立ち」は、多数の見事な画像と明瞭・明晰な英語で、参加学生に強い感銘を与えました。午後は恒例のTU学生多数の案内によるスワヤンブナート寺院見学で、世界遺産の寺院とカトマンズ市の眺望に感激、夜はTU

教員ら4人の参加を得ての懇親・夕食会、ここでは参加者全員が英語で自己紹介を行ないました。

野外実習は例年と同じく、カトマンズ(3月5日出発)～ポカラ(泊)～カロパニ(泊)～カグベニ(泊)～カロパニ(泊)～タトパニ(泊)～ポカラ(2泊)～タンセン(泊)～ルンビニ(泊)～カトマンズ(3月14日帰着)というコースと日程で行ないました。これは、ヒマラヤ造山帯を北から南へ、トランスヒマラヤからガンジス平原まで貸切バスを活用した10日間のツアーで、造山帯の全構成地質帯を見学できるコースです(図2)。



図2. 実習ツアーのコースと日程(地質概略図はDMG,1982から抜粋)

野外実習内容は例年とほぼ同様でしたが、主な徒歩区間のうち、カグベニ〜カロパニ区間は冷雨・降雪のため十分な観察ができませんでした。とりわけ重要な南チベットディタッチメント断層（図2のSTD）のチャクタン谷付近では転石の観察はできましたが、ペンをもてない濡れと寒さで、詳

しい観察を放棄せざるを得ず、残念でした。また、野外ツアーの最終日、ガンジス平原のルンビニ〜ナラヤンガート区間は濃霧のため期待が大きかった大ヒマラヤの眺望ができず、これも大変残念でした。野外実習の様子を図3〜7でご想像下さい。

カトマンズ帰着後第1日目は一部のメンバーは早朝に HAMS 病院で PCR 検査、午後はサマリーセミナーで、参加者全員が英語で、ときにはパワーポイントを使い、まずは立派に報告できました。その後タメルの日本食レストラン桃太郎で、TU 教員 4 人も参加してお別れ夕食会を行いました。翌日は朝から TU 学生たちに案内されて 2 グループに分かれての市内見学ツアーで、夕食は食費を渡されて各自自由となりました。本実習ツアーの毎日の行動詳細は吉田（2023）をご参照下さい。

帰国の日、空港では岩石サンプル持出しを心配していましたが、セキュリティの検査官は今回苦労して準備したネパール地質鉱山局（DMG）による岩石サンプル国外持ち出し許可証を一瞥しただけで全く問題なく通過できました。しかし、検査の厳密度は検査官の個性によると思われるので、毎回許可証が必要なのは確かと思われました。

野外調査期間の前半は軽い高所障害症状を呈した 1 人以外は全員元気でした。しかし、後半から帰国後にかけて 6 人ほどに喉の痛み・咳・下痢や発熱があり、帰国後細菌性の胃腸炎で病院で診察・治療を受けて 1 週間前後で回復しました。

SHET-11 では暫定参加費を 20 万円としていました。ネパール国内の諸経費は数年前から漸増して来ていましたが、今年とはとりわけ山岳地域での食事料金が高騰していました。これらのためにチームとして経費節約に大きな努力を払い、ネパール国内経費を一人当たり 114,330 円と、従来と同程度に抑えることができました。しかし格安の中国系フライトがコロナ問題でストップしていたために一人当たりのフライト料金料金は平均 120,395 円と過去 11 回の平均 78,445 円の 1.53 倍となり、学生 1 人当たりのツアー経費は 238,331 円と過去 2 番目の高額となりました。これに対して一般対象のクラウドファンディングや 1 組織からの寄付金などによる参加費補助が一人当たり 22,730 円で、結局学生 1 人当たりの参加費は平均 215,601 円と過去 11 回の実習ツアーの中で最高額となりました。

第 12 回実習ツアー参加者募集開始

第 12 回実習ツアーは 2024 年 3 月 3 日〜18 日（仮日程）に実施予定です。一般の方もご参加歓迎です。足腰のお弱い方も、ツアーには全行程貸切バスが同行するので問題ありません。ご興味の皆様には学生ヒマラヤのホームページ（下記の URL）で参加者募集ビラ、実施要項や過去 11 回の詳細な実施報告書をご参照下さい。上に引用した報告;吉田（2023）

もここでご覧頂けます。北大関西同窓会員の皆様やご家族、ご友人のご参加をお待ちしております。



http://www.gondwanainst.org/geotours/Studentfieldex_index.htm

「学生にヒマラヤで学ぶ機会を！」クラウドファンディングのお知らせとご支援のお願い

上記のように学生ヒマラヤの第 12 回実習ツアーを来年 3 月に実施する予定です。しかし、航空運賃やネパール国内の諸経費が高騰しているために、第 12 回実習ツアーの学生参加費が 20 万円を越えてしまうことは避けられない状況です。学生参加費を廉価に抑えるため、一般にご寄付をお願いする「学生にヒマラヤで学ぶ機会を！」クラウドファンディングを毎年行っています。本プログラムにご理解・ご賛同下さる北大関西同窓会員皆様のご支援を頂きたく、よろしく申し上げます。下記 URL に本クラウドファンディングの詳しい説明や支援申し込み書がありますのでご参照下さい。



<http://www.gondwanainst.org/shet-cf>

引用文献

吉田勝（2023）第 11 回学生のヒマラヤ野外実習ツアー引率日誌。（吉田勝編，2023）ヒマラヤ造山帯大横断 2023—第 11 回学生のヒマラヤ野外実習ツアー 2023 年 3 月の記録，フィールドサイエンス出版，pp.105-114。（上記学生ヒマラヤホームページでご参照頂けます）



図 3. トランスヒマラヤは乾燥の岩石砂漠、遙か南にはニルギリ峰（左）とダウラギリ峰（右）；3月7日



図 4. 道路沿いにはヒマラヤ片麻岩の見事な大岩壁が続く；3月8日



図 5. セティ河原では上流地域の全ての種類の岩石を観察・採集できる 遙かにアンナプルナ連峰が見事；3月11日



図 6. 漣痕、10 数億年まえの渚で・・・；3月12日



図 7. アンガハ谷の巨大転石は皆 10 数億年前のストロマトライト化石を含んでいる；3月12日

北海道大学関西同窓会

顧問 **米田昌弘**
(昭30 工・機)

〒651-1132 神戸市北区南五葉五丁目二四
TEL (078) 591-1641-0

北海道大学校友会エルム

北海道大学校友会エルムは同窓生のみなさまのご登録をお待ちしております。

会員登録は校友会 Web サイトで行うことができます。

詳細は校友会 Web サイトをご覧ください
<http://www.alumni-hokudai.jp/>

校友会エルム

(お問い合わせ・校友会エルム事務局)
TEL : 011-706-2101
E-mail : kouyukai@general.hokudai.ac.jp
営業時間：月～金 8:30～17:00

北海道大学関西同窓会

顧問 **濱本富美雄**
(昭32 工・土木)

〒659-0031 芦屋市新浜町二丁目一〇三
TEL (0797) 311-0149

(一社)札幌農学同窓会関西支部

農学部同窓生の集い!!!

〒530-0001
大阪市北区梅田1-2-2-200号
大阪駅前第二ビル2階北大大会館内
理事長 **山田勝重**
(昭53 農・農化)
TEL (06) 6343-3736

(二社)北海道大学関西同窓会館 理事
間中技術士事務所代表
北海道大学関西同窓会

相談役 **間中俊夫**
(昭37 工・機)

〒658-0065 神戸市東灘区御影山手二丁目一〇〇
TEL (078) 851-1483-1
E-mail : manaka@doonone.jp

北海道大学関西同窓会

副会長 **山田正幸**
(昭37 薬)

〒666-0112 川西市大和町二丁目一六
TEL (072) 794-1640

地質調査・試験・計測・測量・設計

株式会社カンキョー

代表取締役 **窪田開拓**
(昭36 工・鉱山)

〒561-0854 豊中市稲津町1-1-13
kankyo77@mocha.ocn.ne.jp
TEL 06-6864-2061
FAX 06-6864-4900
携帯 090-1899-0175

NPO法人メンタルヘルス運動のお知らせ

人間活動の原点それは **心**

(このことを推奨しているのが下記)

代表 **久保田浩也**

[事務局] 東京神田須田
TEL : 03-5295-2577
E-mail : kubota@mmpe.xyz
(ご用件はこのメールで)

▶お問合せは、窪田開拓まで
携帯 : 090-1899-0175

北海道犬

北水同窓会大阪府支部
北海道大学関西同窓会

顧問 **大野正浩**
(昭36 水・製)

〒661-0035 尼崎市武庫之荘三丁目一七
TEL (06) 643-6438
携帯 (090) 505-0568



(二社)札幌農学同窓会関西支部
京都大学名誉教授

顧問 **天知輝夫**
(昭38 農・農化)

〒520-0022 大津市柳が崎九番一丁目三三三
TEL (077) 572-1658

北海道大学関西同窓会

顧問 **水内修**
(昭39 経)

(二社)札幌農学同窓会関西支部

顧問 **和田武夫**
(昭40 農・農化)

〒569-1024 高槻市寺谷町二丁目一八
TEL (072) 689-1658
E-mail : wada@akoo@japs.nla.or.jp

石原産業株式会社

社友 **織田健造**
(昭41 理・地鉱)

〒665-0845 宝塚市栄町二丁目六二丁目二〇七二
TEL (0797) 759-9827
E-mail : kenzji@yachiyo-net.ne.jp

(二社)札幌農学同窓会関西支部 理事
北海道大学関西同窓会

副会長 **石澤登**
(昭37 農・農化)

〒567-0012 茨木市東太田二丁目三三三
TEL (072) 625-1096

北海道大学関西同窓会

副会長 **三上陽一**
(昭37 理・物)

〒610-1141 京都市西京区大枝西新林町
TEL (075) 331-8357

北水同窓会大阪府支部

顧問 **徳永徹**
(昭37 水・製)

〒534-0027 大阪市都島区中野町五丁目一四
TEL (06) 663-1106
携帯 (06) 443-1505

Be ambitious 89号の発刊に協賛します。

本間一郎 (昭30 工・鉱)
日沖勲 (昭40 農・工)
下岡健藏 (昭45 工・応物)

(株)タクマ

名誉顧問 **手島肇**
(昭42 工・衛)

<http://www.takuma.co.jp>

(二社)北海道大学関西同窓会館代表理事
西日本恵迪寮同窓会 相談役
北海道大学関西同窓会

副会長 **伊藤靖久**
(昭42 工・建)

〒665-0886 宝塚市山手台西二丁目一四
TEL (0797) 891-4351
E-mail : yasuhisa_ito@nifty.com

Be ambitious を読もう!

北海道大学同窓生の多岐にわたる活動が読めます。
会員の方には無料で配布します。
会員になって下さい。

会長 **植松高志**
北海道大学関西同窓会

おしよろ丸 理想の自分に邁進 (邁進) する 永遠の Boy's be ambitious 水産業・農国のスタートアップ企業を目指します

株式会社 **ポビサス**

代表取締役 **藤井英嘉**

〒561-0881 豊中市中校塚2丁目27-22 (阪急岡町駅・原田神社正門鳥居前)
TEL (06) 6852-5253 FAX (06) 6843-2393
携帯 080-1975-8008



シバングラビア

昭和27年(1952年)5月設立
工業薬品の製造・販売

要薬品株式会社

代表取締役 **嶋田 誠**
(昭42 農・農工)

本社：〒550-0003 大阪市西区京町堀 3-2-7
Tel 06-6445-0876 <http://www.kaname-chem.co.jp>
臨海第1工場・臨海第2工場(堺市西区築港浜寺西町)

新コスモス電機株式会社

相談役 **重盛 徹志**
(昭43 理(修)物)

<http://www.new-cosmos.co.jp>

(株)地質情報サービス

取締役会長 **森泉 健二**
(昭43 工・鉱)

TEL 職場(〇六)六三三九〇七九〇



松元不動産鑑定株式会社

代表取締役
不動産鑑定士 **松元 照幸**
(昭48 工・土木)

〒651・0083 神戸市中央区浜辺通五-1-14
神戸商工貿易センタービル8階
TEL(〇七八)二七-七八五五
FAX(〇七八)二七-一七八五五

弁護士 **中島 光孝**
(昭49 法)

中島光孝法律事務所
〒060・0051 札幌市中央区南一条東二丁目一三
和興ビル七階一号室
TEL(〇一一)五九六七四三〇
FAX(〇一一)三五一五二〇〇

特定非営利活動法人
大阪府砂防ボランティア協会

顧問 **丸山 明**
(昭43 工・土木)

e-mail: osakasabovo@caac.or.jp

産業・キャリアアカウンセラ―中小企業診断士
個人と組織を癒すこころべ人間関係研究所

波多 勇
(昭43 農・農化)

(一社)北海道大学関西同窓会館 代表理事
(二社)札幌農学校同窓会関西支部 相談役

田中 貞之
(昭44 農・生)

〒658・0048 神戸市東灘区御影郡家一三三二二六
TEL(〇七八)八四二一五四六二
e-mail: sada@trana@vix.kuohie.jp

阪堺石油株式会社 会長
北水同窓会大阪府支部 理事

久保田 幸一
(昭45 水・化)

携帯 〇九〇八三八一〇八七五

北海道産業集積アドバイザー
株式会社サンプラザ 開発部

田中文夫
(昭50 水産食品卒)

TEL 090-1027-7830
E-mail f.tanaka@hokusuiosaka.net

水産経済新聞大阪支局 次長
川邊 一郎
(平3 水産増殖卒)

TEL 070-5086-6577
E-mail kawabe@suikeinet.jp

その先の、道へ、北海道

日本絨氈株式会社

代表取締役 **池崎 博之**
(昭51 工・機械)

〒592・8352 大阪府堺市西区築港浜寺西町八-十二
TEL(〇七二)二六八-〇二〇
《事業内容》各種カーペット・敷物の製造販売

有限会社あんどばんだん 代表取締役社長
サブリメント管理士マスタ―
北水同窓会大阪府支部 顧問

大村 泰治
(昭51 水・食)

〒541・0054 大阪市中央南本町三-16-1 アングビル5F
TEL(〇六)四七〇-四一〇四
FAX(〇六)六二四五一八七〇五
携帯(〇九)九一六三三九一四
e-mail: opcl1711@nmtu@yaho.co.jp
URL: <http://www.facebook.com/Wakawakadling>



北水同窓会大阪府支部

顧問 **入江 和彦**
(昭45 水・漁)

携帯(〇九〇)三六七六一五〇〇二
e-mail: kaz-rie@gk3so-net.ne.jp

西日本恵迪寮同窓会 相談役
北水同窓会大阪府支部 理事

浦谷 義博
(昭45 水・水化)

〒520・2421 野洲市野田一六七九



(一社)札幌農学校同窓会関西支部

相談役 **三津 正人**
(昭45 農・農工)

〒562・0045 大阪府箕面市瀬川一-九-124
TEL(〇七二)七二四一六八〇五
e-mail: masatomitsu3232@gmail.com

帆船会 体育会ヨット部OB会 関西支部長
北水同窓会大阪府支部 副支部長

玉置 純
(昭51 水・漁)

〒563・0023 大阪府池田市井口堂二-14-1A号
FT AX L(〇七二)七六一-134六二

北水同窓会大阪府支部

副支部長 **石田 浩平**
(昭54 水・食)

〒662・0932 兵庫県西宮市在住
携帯(〇九〇)三九九一-134四八
e-mail: iwajoh@nifty.com

北水同窓会大阪府支部

理事 **金子 哲郎**
(昭54 水・食)

〒060・0005 札幌市中央区北五条西一-11-1101
(帰省先)
〒531・0073 大阪市北区本西一-1-171三二二
携帯(〇九〇)三三三-四八五-171〇六
e-mail: g09034557106@docomo.ne.jp

脱サラで裁判官を二年半していました。
手作りで丁寧な仕事を心がけています。

弁護士 **北川 和郎**
(昭54 水・漁)

絆法律事務所
〒530・0047 大阪市北区西成西一-17-1 号館三
TEL(〇六)六三六五-1101
FAX(〇六)六三六四-七六三八
e-mail: kakekizunane@
HP: <https://kizunane/>

丸二倉庫株式会社

代表取締役 **湯川 康史**
(昭47 経済)

(一社)北海道大学関西同窓会館

亀田 康二
(昭47 農・農化)

TEL(〇七五)七二一八四一四

株式会社セレッソ大阪 取締役相談役
北水同窓会大阪府支部 顧問

藤田 信良
(昭48 水・漁)

〒554・0042 大阪市此花区北港緑地一-11-125
TEL(〇六)六四六四-111〇
e-mail: n.fujita@cerzo.co.jp

北海道大学関西同窓会

会長 **植松 高志**
(昭48 法)

安心と安全の老後をお手伝いします。
小さな会社の特色や技術をサポートします。

弁護士 **中西 圭太**
(昭54 水化・昭56 同修士)

新神戸法律事務所
〒650・0038 神戸市中央区西町三五番地三井神戸ビル二階
TEL(〇七八)五九九-五四二五
FAX(〇七八)五九九-五四二四
e-mail: nakamishu@sunikobe-law.jp

北水同窓会大阪府支部

支部長 **大橋 人司**
(昭56 水・漁)

〒567・0044 茨木市穂積台八-1
TEL(〇七二)六二七-1533

北水同窓会大阪府支部

監事 **佐々木 雅人**
(昭56 水・化)

〒574・0054 寝屋川市下神田町二九八
FT AX L(〇七二)八二六-163九六

北水同窓会大阪府支部

理事 **佐藤 信光**
(昭57 水・化)

〒654・0122 神戸市須磨区道正台
一-1-1110〇七
携帯(〇九〇)七八八二-132二

北水同窓会大阪府支部

支部月例会(懇親会)を毎月開催

北大会館にて毎月第3土曜日 17:00~
会費 2000 円、飛入り参加歓迎です!

〈事務所〉

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-200号
大阪駅前第2ビル2階 北大会館内
支部長 大橋 人司 (昭56 水・漁)
TEL 06-6343-3736
e-mail: hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp
支部ホームページ <http://hokusuiosaka.d.doo.jp/>

塩井 歯科医院

院長 塩井 孝

(昭57 歯)

北海道大学関西同窓会理事

代表 青木 孝之 (昭59 水・漁)
合同会社 北大阪 K B S C <http://solisupport/>
〒567-0841 大阪府茨木市東条1-18-11011
携 帯 (090)33654117
zokki70427@biscuit.ocn.ne.jp

代表取締役 堀田 高志 (昭61 経)
田丸産業株式会社
〒550-0011 大阪府西区阿波座一四四タマビル
TEL (06) 65316661 (代)
FAX (06) 65434403
URL: <http://www.tamari-ind.co.jp>

弁護士 秋山 哲郎 (平6 法)
弁護士事務所
クラス・オレンジ法律事務所
〒530-0003 大阪市北区堂島1-1-113
TEL (06) 64577654
FAX (06) 64577655
e-mail: akiyama@orange-jp

代表司法書士 光田 正子 (平17 法)
北摂みらい 司法書士事務所
〒567-0868 大阪府茨木市沢良直西1-1-110
タウンハウス南茨木2号館202号室
TEL (07) 66512446
FAX (07) 63713077
e-mail: mitsudenmasako@hokusei-sanira.net

大阪ガス エルム会

諸岡 孝明 (平成2年 法)
山口 哲 (平成2年 法)
竹中 豊樹 (平成3年 法)
北村 芳久 (平成6年 経)
植田 栄志 (平成8年 法)
青木 康修 (平成10年 工機)

大阪ガス エルム会

小林 洋一郎 (平成11年 経)
瀬川 敦史 (平成15年 工社)
小松 賢司 (平成17年 工社)
若林 太郎 (平成17年 工機)
山中 麻希 (平成20年 経)
戌角 太一 (平成22年 法)

印刷に関することなら
株式会社すばるに
おまかせください!!

各種デザイン、印刷全般の
お見積無料!!

印刷物のサンプルも無料でお届けします。
お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社すばる

TEL (06) 6661-0775 (代)
FAX (06) 6661-0732
〒557-0014
大阪市西成区天下茶屋1-20-10
e-mail: print@subaru999.com
<http://www.subaru999.com>

ホームページを
リニューアルしました! /
株式会社すばる

チラシ	ポスター	冊子	名刺
ポストカード	ラベル	封筒	パッケージ

SUPERMARKET

Sunplaza

Sun Essen

(株)サンプラザ 取締役会長
(株)サンエッセン 代表取締役社長
大阪堺植物工場(株) 代表取締役社長

山口利昭 (昭39 農・経)

<https://www.super-sunplaza.com/>

Osaka Agri Marché

DSP × 大阪公立大学
大阪堺植物工場

本部 〒587-0013 大阪府堺市美原区真福寺240
植物工場 〒599-8531 大阪府堺市中区中百舌学園町1番1号
大阪公立大学中百舌キャンパスC22棟

TEL (072) 361-3033
TEL (072) 240-1051

FAX (072) 361-3155
FAX (072) 240-1052



サンプラザグループは、植物工場による葉菜類の生産に続き、ハウスによるトマト栽培(1次産業)、食品加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)とグループ力を結集して、新たな価値を創出します。

農林水産省 日本の農業政策
「みどりの食料システム戦略」
へ向けた具体的な取組み

- C02ゼロミッション** 店舗と工場の野菜残渣、コンポスト化を進めている
- 化学農薬削減** 北海道北竜米(農薬削減)の販売360トン、減農野菜販売拡大
- 有機野菜の販売拡大** SDGsへ深く関わる「有機農業」に携わっている農家の農産物を販売

設立 1961年11月 売上高グループ 377億円



世界一のオーガニックコーヒー生産と農業改革にかける夢

鈴木 功 (1978 (S53) 農・農)



■連載 3 回目「完結編」

2022年9月発行の会報87号、2023年3月発行の88号と掲載いただいたブラジル挑戦記も今回の89号で最終回となります。1980年3月、25歳の私はブラジルに渡り、世界一のオーガニックコーヒー生産を目指して邁進してまいりました。それから43年になりますが、多くの方々の出会と支援により「夢の実現」が近づいてきました。ここに皆さんへの感謝を込めて最終編を綴ります。

■「危機打破」～日本への出稼ぎ～

オーガニック栽培に行き詰まりその危機を乗り越えるため、日本へ出稼ぎに行くことを決意したのはよいのですが、日本へ行く飛行機代もない有様でした。その頃、北大農学科の同期でサントリーに就職し、サントリーから派遣されてブラジルにワイン作りに来ていた坂寄潮君より農学科の同級会が日本であるから参加しないかと誘われました。



坂寄潮君 (彼のフェイスブックより)

オーガニックに移行したことから経営の苦境を素直に話し、資金的に余裕がないことを話すと、彼は日本への航空券をプレゼントするのでぜひ参加するように話を進めてくれました。私は素直に彼

の好意を受けることにし、同級会の参加を機に日本でしばらく働くことにしました。

日本で出稼ぎをする決意をしたものの、故郷には帰れません。北大を出て、故郷に錦を飾ると華々しく出て行った息子が日本へ出稼ぎに戻ってきたということが知れると、両親はじめ兄弟たちは肩身の狭い思いをし、周囲のものから陰口をたたかれたり後ろ指を指されたりするからです。私の実家は、まだそういった昔の風習が色濃く残る田舎町でした。私は実家に帰省せず、モラロジーで知り合った東京新宿で「三国一」という飲食店を営む橋本夫妻の寮にお世話になり、そこを拠点に主にガードマンの仕事や地下鉄の工事現場で働きました。少しでも資金を稼ぐために昼夜問わず働けるだけ働きました。寮に帰って寝る暇がないので、地下鉄の駅や橋の下で浮浪者に混じって仮眠を取ることもしばしばでした。厳しい1年間でしたが、反面、今まで知らなかった世界を知り、様々な体験を通じて多くの気づきを得ました。今まで両親の庇護の下、どれほど恵まれた小中高、大学時代を過ごしてきたか。一日2～3時間の睡眠で肉体の限界まで激しく働いたことで知った精神力の無限性。そして心にしみる温かい人々の励まし。全てが心の糧となり、私の人生の宝物となってゆきました。

その励ましの最たるものの一つが以前から手紙でやり取りのあった作家の神渡良平先生の温かい配慮でした。わたしのことを心配された神渡先生は先生の主催される会に私を無料で招待して下さい、励まして下さいました。そしてその時にいただいた多くの人々とのご縁は、その後、素晴らしいご縁に発展し、現在に至っています。



神渡良平先生 (先生のフェイスブックより)

また、北大時代のスケート部の先輩、同期、後輩たちが、私のために東京在住の方はもちろん、遠方からも駆けつけてくれ、励まして下さいました。北大では、勉強そっちのけでアイスホッケーに夢中になっていましたが、そこで培われた肉体と精神が時には挫けそうになる心を支え、そして、そこで強く結ばれた絆が私を支え、励まし、逆境を乗り越える力となりました。本当に北大のアイスホッケー部に入ってよかったと思えました。そして、最後の最大の支えは、やはり母の愛でした。母は心配して、周囲の目など気にせず帰ってくるように何度も私に催促しました。どれほど心配をかけ、肩身の狭い思いをさせてしまったことか…。ブラジルに帰る数日前、意を決して故郷に帰り母に面会しました。母は深い瞳で私を見つめ「大変だったろう！でも、お前は昔からやると思ったら、必ずやる子だったから、私はズーッと信じているよ。決めた道をしっかりと進んでゆきなさい！！」と言って、私を抱きしめてくれました。私は母の心中を察すると涙が止まらなくなりました。

こうして1年ちょっとの出稼ぎでちょっとした資金がたまったので、何とかこれで経営を持ち直すことができるのではないかと思います、ブラジルに帰ることにしました。ところが事情はそれほど甘くなく、持ち帰った資金もたまっていた借金の支払いや経営費用・家族費用などであつという間になくなってしまいました。オーガニック認証がまだ出ていないこともあって経営環境も好転せず、再び日本へ出稼ぎに行くことになりました。2005年のことでした。この時は高校生だった娘も日本へ行くと言ひ出し、一緒に行くことになりました。2005年に初のオーガニック認証が出たこともあり、私は1年後には帰伯しましたが、娘はそのまま日本に残り一人で生活することになりました。娘はその後ブラジルに戻って大学に入り、教育課程を専攻しました。しかし、ブラジルの教員環境は給与や教育現場環境などあまりよくなく、娘は大学卒業後は、自分で判断して日本に戻り、日本で働いています。

■オーガニック認証と JAS 規格取得

～日本への輸出の夢が叶う～

さて、2005年に初のオーガニック認証は出たのですが、だからといってすぐさま高値でコーヒー豆が売れるわけではありません。オーガニックといっても品質が良くなければなかなか買ってもらえません。オーガニックをどのように売りさばくのかもよくわかりませんでした。この時期厳しい経営環境は相変わらず続いていました。持ち帰っ

た資金もすぐ底をついてしまい、再び出稼ぎに行くことになるかもしれないという綱渡り状況でした。そんな時に出会ったのが、徳力敬三さんというブラジルのコーヒーを日本へ輸出している日本人でした。徳力さんも私と同じくブラジル移民で、大きな夢を持ちブラジルで活躍されている方でした。その徳力さんよりオーガニックとして日本へコーヒーを輸出するために、日本のオーガニック認証の JAS 規格を習得する必要があることとその手続きを教えてくださいました。

私たちのコーヒーを日本へ輸出することは長年の夢だったので、早速その習得に邁進しました。お陰様で2009年には JAS 規格も習得でき、日本へ初めて私たちのコーヒーを輸出することができました。輸出業務は徳力さんにすべて委託し、味の検定や輸出品とし問題がない品質を保証するための精選業務は、徳力さんと親交があるプロのコーヒー鑑定士セルジオさんをお願いして三位一体でことにあたり、夢を実現することができました。2013年には農場に自家焙煎場を建設し、ブラジルで自家焙煎したコーヒーを「スズキオーガニックコーヒー」として売り出しました。お世話になっているブラジルの人々にも健康に良く美味しい活力のあるコーヒーを提供してご恩返しをしたいという夢も達成でき、順風満帆の日々となってゆきました。



農場のコーヒー焙煎場の焙煎機

■「好事魔多し」

～新たな誓い、奇跡が起こる～

経営も好転し、借金も徐々に返済できるようになり、意気揚々と仕事に邁進していました。これまでのさまざまな困難や苦難を思い出しながら、それを乗り越えてやっと人生の花が開き始めたかのように思われました。日本での私たちのコーヒーの評判も良く、輸入業者からもっとコーヒーを送ってほしいと要望が来ていることを徳力さんから伝

えていただきました。ところが「好事魔多し」というのでしょうか、順調に人生の花が開くと思われた前途に暗雲が漂い始めました。コーヒーの生産性が上がらないのです。ブラジルのセラード地帯といわれる私たちの地域は、痩せた地味のない土地で、従来の慣行栽培では大量の化学肥料と農薬で生産量を確保します。それでも土壌の物理化学性がどんどん劣化し、生産性が上がらなくなるので15年ほどで抜根し新植するか、他の土地に移ってゆきます。私のコーヒーは1987年～90年に植えたもので25年ほどの老樹となっていました。オーガニック栽培はコーヒー樹も長持ちし、質も良くなるなあってゆくのですが、一般に生産性は上がりません。慣行栽培の半分ぐらいの収量で、それに樹の老化が加わり次第に生産性が落ちてゆきました。また灌漑設備の不備不調の問題もありました。ここセラード地帯は11月から4月までの雨期と6月から10月までの乾期に分かれ、乾期の6ヶ月はほとんど雨が降らないので灌漑しなければならないのですが、設備投資した点滴灌漑はうまく作動せず、問題が多発して生産性向上にあまり寄与できていませんでした。最新の灌漑設備であるセンターピボというシステムに変えたかったのですが、高価な設備で資金がなく導入できませんでした。オーガニック栽培なのでコーヒー値は高く取引されるのですが、やはり生産性が上がらなると厳しい経営環境となっていくます。オーガニック栽培に移行してからの最高収量、700俵を記録した後は年々生産性が落ち、2017年頃は300俵台に落ちんでしまいました。これではいくら高値で売れても経営は成り立ちません。抜根して新植し、そこに最新式の灌漑設備センターピボを設置して新しくやり始めるのが理想でしたが、資金調達の見込が立ちませんでした。先行きの閉塞感で悶々とするなか、次第に気力、活力もやる気も衰え、酒量が増えていきました。ブラジルの強いお酒、ピングも日々嗜むようになり、心が荒んでゆきました。農場から町までは85kmもあり1週間に一度ほど町の用事をしにゆくのですが、帰るのはいつも夜になってしまいます。道は60kmほどは凹凸の土道で、注意深く運転しなければ事故を起こしてしまうのでお酒は禁物です。しかし、妻が同伴していない時などは誘惑に負け、つい飲んでしまい、眠気や注意力散漫で大事故を起こしてしまうような危機一髪の瞬間が何度も訪れました。

そんな最中、尊敬する岡部明美さんのブログに2018年の大晦日に出会い衝撃を受けました。私は

新年に向け誓いを立て、2019年よりそれを実行に移す努力を始めました。苦しい現実が続いていたのですが心を立て直してからは心に少し余裕が生まれ、仕事にも集中できるようになりました。そして私の人生で最高の出会いのひとつが生まれました。今野華都子先生という農家の嫁から奮起され世界一のエステシャンとなられた偉大な先生と、日本の山伏としては世界最高峰の羽黒山伏である星野文紘先達が私の農場へおいで下さるといふ奇跡が起きたのでした。そこまでに至った経緯は長くなるの省きますが実に不思議な事情からそれが実現されたのでした。



2019年に訪問された今野先生と星野先達と焙煎場で（筆者中央）

今野先生は農場でも星野先達の講演会でも、二日にわたりずっと私に付き添ってくれ、お話をたくさんして下さいました。話してくださったことは私の心に深く沁み入り、「今野先生から学んだこと」として私のフェイスブックに投稿したところ、それは今野先生が日本で主催されている「古事記塾」や「洗心洗顔塾」で大反響を呼びました。そして今野先生はその年の7月に行われる塾生（全国に1,000人ほどいる）による全国大会「洗顔洗心塾全国大会」に特別ゲストとして私たち夫婦をご招待くださいました。私たちは資金的にも逼迫しており、毎週土曜日に行っているセアザ（ブラジル農産物大市場）での農産物販売を休むわけにはいかず迷いましたが、不思議とちょうどその頃、長期の休みで農場に遊びに来ていた長男の嫁が手伝いを申し出てくれたので、思い切って参加することにしました。7月から8月までの一ヶ月の長期旅行となりました。この旅行で得た学びとご縁は、その後、私の人生を大きく飛躍させるきっかけとなってくれました。ブラジルに帰ってからも、しばらくは以前と同じような厳しい経営状況が続き、先行きへの閉塞感が漂っていましたが、私の心は以前と比べようもなほど明るくなりました。根拠のない自信のようなものが心に居座

るようになり、「明日は明日の風が吹く！何とかやるさ！今に集中しよう！！」と思い、できる仕事に集中してゆきました。

もちろん経営悪化を打開するためのできるだけの手も打ちました。フェイスブックや所属するさまざまなグループに資金提供してくれる共同出資者を募集しました。必要な経費は2～3千万円と決して少額ではないので、すぐには協力者は現れませんでした。ブラジルでも興味を持つ人も出てきましたが、こちらの事情を素直に話し投資には回収できなくなる危険が伴い、それを承知で事業に参加して欲しいことを告げると、二の足を踏む人がほとんどでした。そんな最中、突然協力者が現れました。それは北大時代、私が四年目でスケート部のキャプテンをやっていた時に入ってきた一年目の新入生で、塩谷雅英さんという方でした。私は記憶にないのですが、塩谷さんは私のアイスホッケーでの活躍を眩しく見て、記憶に焼きついたのだそうです。



塩谷雅英氏（彼のフェイスブックより）

塩谷さんはその後医学部に志し、北大をやめて他の大学の医学部に入り、米国にも留学し、帰国してから人工授精のクリニックを開業して成功を収めていたのです。そして私たちのコーヒーが日本で販売されていることを知り、それを四日市市の「ハレルヤ」さんからネットで購入し、私たちのコーヒーのファンとなって来てくれたのでした。私は協力者が現れたことに小躍りしましたが、半面、投資してもそれが成功し回収できる可能性は五分五分ぐらいだったので、慎重に塩谷さんに説明をしました。しかし、塩谷さんはすべて承知した上で「回収できなくなってもかまいません！鈴木先輩を信頼していますから、すべてを任せますので安心して思い切ってやってください！！」と言ってくれました。メールやメッセージでのやりとりでしたが、私は感極まり、涙ながらに覚

悟を決めました。「もうやるしかない、必ずやり遂げるのだ！！」と・・・。

■諦めなければ道は開ける

～精神安定・五箇条を唱える～

こうして私の人生のコーヒー栽培の新しい展開が始まりました。すぐさま、コーヒー苗新植の準備にとりかかりました。コーヒーを新植するとなると老樹を全て抜根しなければならないので、日本への輸出も2～3年途絶えることになります。関係諸機関へその旨連絡し、理解いただくように努めました。日本やブラジルで私たちのコーヒー販売で経営を成り立たせているところは、さぞ大変なことだったでしょう。しかし、その他のオプションはなかったため、2～3年待つていただくことを懇請し、ご理解いただきました。コーヒーを新植するための抜根作業も、新しい手法を取り入れました。従来はブルドーザーや大型トラクターで抜根し、一箇所に集めて燃やしてしまうのですが、私はこの老樹たちが次の世代の新植コーヒー苗にその命をバトンタッチできるように裁断して土に帰り、有機物として栄養を新植コーヒー苗たちに与え、育てるというイメージを描きました。そして抜根する前に老樹たちの一本一本に手を当て、今までの活躍にお礼を述べながらここに至った経緯を話し、新しいコーヒー苗たちを守り育ててくれるように話しかけました。そのようにして祈り、懇願してから抜根し、整地しました。そして、最新式の灌漑設備センターピボを購入し、農場に設置しました。センターピボは円形の灌漑設備なので、63ヘクタールの農場にどのように入れれば、効率よく最大面積の灌漑ができるか販売者と何回もシュミレーションをし、慎重にその場所を決めてゆきました。従来のコーヒー園の面積は34ヘクタールあったのですが、センターピボでは最大27ヘクタールのコーヒー園面積となりました。10月ごろには設置完了し、試運転もしてOKとなり、後はその下にコーヒー苗を植えるだけとなりました。



CEMGによるポールトランス（柱上変圧器）の取替え作業

コーヒー苗は、隣町のウナイというところで広く苗商をしている友人のクレジオに頼みました。彼は年間500万本のコーヒー苗を育て販売する信頼に足る人物で、私は15万本のコーヒー苗製作を依頼しました。それが出来上がるのが2021年の2月頃に予定されていたので、それに向け急ピッチで段取りを進めました。コーヒー苗を植えるまでには、複雑な様々な段取りがあり、予想外の問題が出てきたりして窮地に立つこともありましたが、一つ一つ丁寧にことにあたり、解決していきました。そして2月に入り新植の時期が間近に迫ってきました。ところが、ここでまた思わぬ問題が生じ、窮地に立されました。コーヒー苗を運ぶトラックを手配し、植え付け作業してくれる作業員20名ほどを確保し(600kmほど離れた町から貸し切りバスでやって来る)、作業をするさまざまな機械も隣の農場主から借りてきて準備万端整ったところで、センターピボを作動するエネルギーを供給するトランスに雷が落ち焼けてしまいました。それを管理する電源公社(CEMG)に連絡しましたが、やってきた作業員は取り替えるには一ヶ月かかると言うのです。冗談ではありません。手筈を全部整え、明日からコーヒー苗の植え付けを始める予定なのです。作業人員も、コーヒー苗も、トラックも、作業機械も今からキャンセルするわけにはいきません。そんなことをしたらコーヒー苗がダメになり、各方面に補償をしなくてはなりません。全てがオジャンになってしまいます。どのようにその窮地を切り抜けたか、細かい説明は省きますが、この時は、ブラジルに根付いた日本の素晴らしい精神伝統に深い尊敬をもつ電源公社の重役の一言に救われ、窮地を脱し、九死に一生を得ました。この時ほど私たちの先人が築いた日本の精神伝統文化が、いかに素晴らしく、高貴で、世界にも通用する価値あるものなのだというを感じたことはありません。

こうして窮地を脱し、コーヒー苗も作業員も頼んでいた機械も続々と到着し、コーヒー苗の植え付けが始まりました。しかし、その後も問題は次々と生じ、ハラハラのし通しでしたが、諦めずに問題に立ち向かうと不思議と道が開け、コーヒー苗の新植も無事終了することができました。このコーヒー新植は、私にとっては新しい世界への船出のような意味合いがあり、記念にドローンで植え付けの様子などを撮影して、それに小田留意さんという方の「ヒビキアイ」という曲をBGMにして、編集動画を制作しました。



2021年2月末日、植え付け直後の農場をドローンで撮影

さてコーヒー苗の植え付けを終了し、これから順調に生育してゆくかと思いきや、再三再四にわたり試練が続きます。大雨による土砂流で多くのコーヒー苗が流され、肥沃な土壌が剥ぎ取られたり、虫害が発生してコーヒー苗が裸になってしまうほど被害されたり、窒素不足でコーヒー苗が枯死したり、黄色に変色し全く成長しなかったり、次々と試練はやってきて打ちのめされます。しかし私はその頃はすでに精神的な準備はできていて、これはすべて、私を成長させようとしている神の恩寵的試練なのだと捉えることができました。試練の度に、次の五箇条を唱え精神を安定させ危機に臨みました。その五箇条は次のものです。

「災害や、困難に対する私の五つの基本姿勢」

1. これだけで済んでよかった。神のご加護がなければもっとひどいことが起こっていた。ありがとうございます。
2. これで過去のマイナスの因果(カルマ、業ともいう)がまた一つ無くなった。ありがとうございます。
3. コロナ騒ぎが収まり世の中に平安が訪れますように。そのために私に負担できることがあったらそれをお与えくださいという祈りが叶ったの

です。ありがとうございます。

4. この困難を乗り越えることによって、私は益々磨かれ強く逞しくなってきました。その機会をお与えくださりありがとうございます。
5. この困難は私を成長させ私をより素晴らしい世界へ飛躍させるための恩寵的試練であることを私は知っています。そして乗り越えられない試練は無いことも知っています。あなたの深く限らない愛に心から感謝します。ありがとうございます。

いつ頃からこれらの「災害や困難に対する私の五つの基本姿勢」を、困難の度に唱えることを始めたのかよくは覚えていませんが、これを習慣化することに努力してきました。そうすることによって私自身を力強く励まし、困難に立ち向かう力やエネルギーを作り出し、様々な困難を乗り越えてきたように思います。大小様々な試練や困難に幾度も直面し、挫けそうになこともありました。このように神を信頼し、自分を励まし、辛抱強くことに当たると、その度に道が開け新しい展望が目の前に開けのでした。もう、導かれているとしか言いようがありません。

■新農法の端緒を開く

～EM菌と共に美しい地球を守る～

コーヒー苗の成長は、当初緩慢で心細いものでしたが、この頃から以前より使用していたEM菌をさらに深く学び、その散布の重要性を深く認識して従来の2倍3倍と使用量を増やして行きました。EM菌で作るボカシ肥料も多用するようになり、コーヒーの成長も次第に軌道に乗るようになりました。

また、この頃ブラジルの日系二世の立花アルノビオさんという方にご縁を得て、その指導を受けるようになりました。立花さんはホメオパシーやエネルギー循環のことに詳しい方で、バイヤ州の大農場(5,000ヘクタール)を指導し、無化学肥料で大きな成果を上げている方でした。ホメオパシーやエネルギー活性の高い微生物で作った資材を提供していただき、EMと共にどんどん使用しました。それらが功を奏したのか、植え付けて半年たったあたりからコーヒー苗がどんどん成長を始め、葉色も良く、活気づいてゆきました。苗内部のエネルギー活性がどんどん高まってきたのが、手に取るようにわかるようになりました。私はこれはいけると思い、その手法をフルーツ栽培や養鶏にも取り入れ始めました。するとわずかの期間にEMを開発された比嘉照夫先生が言われる「限界突破現象」という、慣行栽培を凌駕するような

結果や現象が様々に現れ始めました。それらは私のフェイスブックにも投稿していますが、ご覧になられた方は皆驚き、感嘆の声を上げ、嬉しいコメントをたくさんいただきました。私はEMの素晴らしい効果を様々に体験するにつれ、それを湯水のごとく使用するようになりました。農場で使用するすべての水は1万リットルのタンクから配水されるのですが、そこに毎日のように農場で作ったEM活性液を注入しています。タンクの水はエネルギー活性の高い粒子の細かい神水と言ってもいいほどの高品質の水となり、その水は農場の全員、全動物(犬・猫・鶏・魚等々)が飲料すると共に、花やフルーツ、草木類にも散布されるので、すべてが活性化し、イキイキし、調和が生まれ、農場がイヤシロチようになってきています。現実は何が起きているのかというと、気づいたことだけでも、調和が生まれ増大し不調和や不都合なことが少なくなってきている・機械類電気製品の故障が少なくなる・電気代や車の燃費が経済的になる・すべての物質が劣化しにくくなり、長持ちするようになる・農場のすべての生物が健康になり、病気になりにくくなる・自然の災害が少なくなる・私自身にも毎日の生活にイキイキワクワク感が増大し、朝早くから夜遅くまで働いても疲れを感じない・・・等々、気づいた小さなことまでも含めると限りがないほど出てきます。これらのことはEMを開発された比嘉照夫先生も言っている事です。比嘉先生は「EMとご縁ができることは宝くじに当たることよりも凄いこと、素晴らしいこと」といっていますが、EMを湯水のごとく使うようになると奇跡的なことが起きるようです。その予兆のようなことが起き始めている農場の現状を見ると深く納得するものがあります。

話をコーヒーに戻すと、その後コーヒーの生育はどんどん順調となり、今年2023年7月に初収穫を迎えることができました。お陰様で収穫も順調にゆき、収穫されたコーヒーは現在倉庫で熟成中です。あと10日ほどしたら機械での皮むき作業に入り、その後、精選・再精選を繰り返し、日本への輸出に備えます。日本へは今年の末から来年の初めには到着することでしょう。私の人生は、今後ますます怒涛のような人生となりそうです。困難も逆境も勝利と歓喜の瞬間も様々に織り交ぜられ、深く強く、時には激しく、時には穏やかに私の人生に展開し、この与えられた命を煌びやかに彩ってくれることでしょう。私は今後も積極的にその世界に飛び込んでゆき、この与えられた命を最高に輝かせ、一生を終えたいと思っています。



組み立て完了したセンターピボット

同窓会活動 三田ゆかりの偉人の誕生地・顕彰地・寺院等を巡る

野呂 雅之 (1981 (S56) 水漁)

最後の夢、志は「この碧い美しい星、地球と共生、共成長、共繁栄することのできる新農法の端緒を開き、その手法で世界一のコーヒーを創る」ことです。

コーヒー収穫の様子をビデオに収め編集しました。このコーヒーを植え付けた時のビデオ編集と共に私のビデオ編集の二大傑作です。フェイスブックにも投稿して、その思いも綴ってあります。皆様にご覧いただくいただければ嬉しく思います。合掌!!

鈴木功氏のこれまでの活動は Facebook に「鈴木功」のアカウント名で掲載されています。同氏の動画は You tube に公開していますので、興味のある方はご覧ください。(編集)

- * 植え付けの動画：
<https://www.youtube.com/watch?v=eronvpjs7Vlk>
- * 2023 年の収穫動画：
<https://youtu.be/ZU-bpijhR0>



2023 年、コーヒー収穫模様を上空からドローンで撮影



センターピボットによる灌漑風景

「三田」と書くと、東京の人たちは「みた」と言うが、関西ではたいていの人々が「さんだ」と読んでくれる。かつて三田学園が高校野球で幾度か甲子園に出場し、「三田牛」といえば高級感もあり、近年は大阪のベッドタウンとして人口増加率が日本一を長く記録してきた。まちの知名度は低いと思うが、その歴史はよく知られていない。

そういう私は三田で暮らして 30 年になるが、知っているのは日本で初めてビールを醸造したのが三田藩出身の「川本幸民」ということくらいだった。今回、恵迪寮の先輩で関西同窓会会長の植松高志さん (S48 法) から誘われ、初めて歴史ウォークに参加した。「ふるさと再発見」といえばちょっと大げさだが、歴史ウォークを通じて三田の魅力を紹介したい。

真夏のウォークに 10 名参加

三田の市街地は六甲山地の北側にあり、盆地とあって寒暖の差が激しく、冬は氷点下 10 度近くまで冷え込み、夏は 35 度を超える猛暑となる。歴史ウォークのあった 7 月 16 日 (日) は、JR 三田駅から歩き始めた直後の午前 11 時に気温が 29.8 度を記録。日差しは強かったものの、風があって比較的過ごしやすく感じた。

参加者は卒業年の順に紹介すると次の 10 名 (敬称略)。三段崎俊彦 (S34 農化)・北口久雄 (S41 理)・乗田昌司 (S42 工衛生)・前田直臣 (S43 理高)・下岡健蔵 (S45 工応物)・森定伸充 (S45 農化)・井上和男 (S46 工応化)・煙山孝 (S46 工精密)・植松高志・野呂雅之。

当初、6 月に実施予定だったが、梅雨を避けてこの時期の開催になったという。実行委員長の前田さんが設定されたルートは次の通り。

JR 三田駅→旧九鬼家住宅資料館→三田ふるさと学習館→三田城跡・川本幸民顕彰碑→白洲退蔵出生地→元良勇次郎出生地→英蘭塾跡→西方寺→妙三寺→居酒屋で打ち上げ→JR 三田駅前解散

前田さんはルートの下見をしたうえで、三田のまちの由来から三田ゆかりの偉人の紹介まで 12 ページに及ぶ資料を作成してくださった。その資料を手にしながルートを歩いた。

三田は飛鳥時代に中大兄皇子によって処刑された有間皇子を供養する金心寺の門前町としてひらけ、金心寺にある仏像の胎内に記された「三福田」がまちの名の由来といわれている。仏教における



歴史ウォークの舞台となった三田の街並み (三田市の資料から)

「三福田」とは「敬田 (人を敬う心の田)」、「恩田 (恩を忘れぬ心の田)」、「悲田 (困っている人を助ける心の田)」のことで、金心寺の仏像は国の重要文化財に指定されている。

金心寺は最盛期に七堂伽藍が建ち並んだといわれているが、戦国時代の戦火で伽藍は焼失。江戸時代に再建され、その門前町が今回の歴史ウォークの舞台となった。

俊英を輩出した九鬼藩

江戸時代初期の 1633 年、九鬼水軍として名が知られていた志摩半島東端の志摩国の九鬼久隆が撰津国三田藩 3 万 6 千石に移ってきた。九鬼氏は戦国時代に織田信長の海戦部隊として毛利水軍を打ち破る活躍をしたが、この時期には家督争いがあった三田に移封されたのだった。だが、実状は江戸幕府が家督争いを奇貨として、水軍を海のない三田に「陸封」してその力を削ぐのが狙いだったのではないだろうか。

■旧九鬼家住宅資料館と九鬼隆範

歴史ウォークで最初に訪ねたのは、JR 三田駅から武庫川を渡って西に 15 分ほど歩いたところにある「旧九鬼家住宅資料館」。三田藩の家老職を代々つとめた九鬼家の当主九鬼隆範が 1876 年 (明治 9 年) 頃に建てた全国でも数少ない擬洋風建築の建物で、兵庫県の重要有形文化財に指定されている。我らが母校のルーツ「札幌農学校」の創立年も 1876 年であり、不思議な縁を感じた。

擬洋風建築とは明治維新後、近代化とともに当



旧九鬼家住宅の全景 2階に洋風のバルコニーがみえる



旧九鬼家住宅資料館の玄関前にて

時の大工たちが洋風建築を採り入れて造った和風と洋風が混在した建物のことで、1階は板張りや漆喰で壁を仕上げ、格子戸や障子戸を使った和風の造り。2階は東半分にはベランダを設けるなど洋風の趣に造られている。明治初期の建物は設計者が不明なことも多いが、旧九鬼家住宅は当主の隆範が自ら設計して図面も残っている。

隆範は1835年に三田屋敷町で生まれ、藩校の造士館で学んだ後、砲術や用兵学を勝海舟らに学んだという。明治維新後は技術者として鉄道設計に携わり、日本の鉄道開発に貢献した。旧九鬼家住宅には隆範が手作りした製図用具や定規、設計図用の絵具など小物も展示されている。

資料館を訪ねた際には夏期企画展の準備をしていた。「九鬼氏の七不思議」というタイトルで、鳥羽から三田にやってきた九鬼氏の歴史にまつわる



九鬼隆範

「七不思議」をパネル展示などで紹介する企画。9月24日まで開催するというので、改めて訪ねてみようと思っている。

■近代日本の化学の祖 川本幸民

次に訪ねたのが旧九鬼家住宅資料館の隣にある三田市の「三田ふるさと学習館」。1954年に県の保健所として建てられた木造2階建ての質素な造りで、市のホームページでは三田藩出身の科学者である川本幸民ゆかりの品々が展示の目玉のようだった。

今回の歴史ウォークにあわせて調べたのだが、川本幸民の功績はもっと広く世に知らせるべきではないだろうか。ビール醸造の先達ということしか知らず、己の不明を恥じて幸民の生涯を詳しくたどってみた。

川本幸民(1810～1871)は三田藩の藩医の三男として生まれた。藩校造士館で学び、抜きんできた才能をあらわして19歳のとき藩主から抜擢されて江戸に留学、緒方洪庵らとともに蘭学を学んだ。薩摩藩主の島津斉彬に見いだされ薩摩藩籍に転籍したこともあり、幕府からも実績が評価され幕臣に取り立てられた。東京大学の前身の一つである幕府の洋学研究機関「蕃書調所」の教授をつとめ、1861年に「化学新書」をまとめた。化学新書はドイツの科学書のオランダ語訳版を原本として重訳したもので、元素記号や分子式を漢字によって表記し、「化学」という言葉を日本で初めて使ったことでも知られる。

化学新書にはビールの醸造方法が詳しく述べられており、それをもとに再現した「幸民麦酒」が小西酒造から発売されている。幸民麦酒のHPによると、幸民はペリーが黒船で浦賀に来航した際、通訳として黒船に乗り込み、艦上で振舞われたビールの味に魅せられて自宅でビールを醸造したというのである。

幸民は西洋の科学を翻訳して紹介するだけでなく、マッチや銀版印刷の試作もして、日本で初めて写真撮影に成功。1861年には妻と自分を写真に撮っている。幸民は語学に堪能な翻訳家というだけでなく、数々の実験をおこなった実践家でもあり、「近代日本の化学の祖」とわれている。

実践家の幸民の生き方は実学を重んじる北大の校風と通じるものがある。こうした業績がほとんど世に知られていないのは、幸民が生涯に幾度か火災に遭って蔵書や資料を焼失したうえ、明治以降に子息が東京帝国大学に寄贈した資料が関東大震災で失われ、調査や研究が及ばなかったという事情があるようだ。

川本家にも資料が置かれており、それらの大半は日本学士院に寄贈され、そのうち化学新書など

14点について公益財団法人日本化学会が化学遺産に認定している。

驚かされたのは、川本家にあった資料の一部が戦後、北海道大学に寄贈されたというのである。こんど母校を訪ねた際に幸民の資料を調べるという宿題ができた。

三田ふるさと学習館に話を戻すと、幸民に関する展示は通り一遍のものだけで、「ふるさとの偉人」を紹介しようという気概がまったく感じられない。お役所仕事とってしまえばそれまでだが、改善の余地が大いにあるように思う。

三田城跡界限 白洲退蔵と元良勇次郎

三田ふるさと学習館の前の緩やかな坂道をのぼっていくと、土手と擁壁の上にある白壁が見えてくる。L字状の石垣と白壁に囲まれて、「史跡三田城跡」と彫り込まれた石碑と川本幸民顕彰碑が立っている。そこは市立三田小学校の正門前になっており、全員そろって記念撮影をした。

九鬼氏が三田にやってきた頃、幕府の武家諸法度によって新規築城は認められず、中世以降の城跡に陣屋を築いたという。それは三田陣屋と呼ばれ、三田城跡として石垣や白壁に当時の面影を残す。そばにある大池では水軍としての技術を忘れないよう水練をしたと伝えられている。

三田小学校と道を挟んだ東側には、日本で最初の心理学者といわれる元良勇次郎の顕彰碑が立っている。時刻はすでに正午を過ぎ、顕彰碑の前の木陰にあるベンチで昼食をとることになった。

三田城跡は武庫川の右岸の高台にあり、その南側で武家屋敷のあった南北500m、東西300mほどの区域は、いま閑静な住宅街になっている。大池の土手を歩いて住宅街に差し掛かると、「白洲退蔵出生地」の説明板があった。

白洲退蔵は1829年に三田藩の儒学者の家に生まれた。藩校造士館の教授をつとめ、藩財政を立て直して幕末の三田藩を支えた。明治維新後は神戸で合名会社「志摩三商会」を設立し、横浜正金銀行の頭取にもなり、孫には吉田茂の側近といわれた白洲次郎がいる。

白洲退蔵出生地から次の路地を曲がると、先に触れた元良勇次郎の誕生地を示す石碑と説明板があった。父親は三田藩の儒学者で、元良は幼少期に川本幸民が帰郷して開校した英蘭塾で教えを受けている。

元良が米ジョンズ・ホプキンス大学大学院に在籍していた際、同大学に留学中の新渡戸稲造や佐藤昌介と撮った写真が存在するというから、こどもでも北大との縁を感じた。

元良勇次郎誕生地からすぐの所に「英蘭塾跡」の説明板があった。

「多くの偉人を世に送り出した」と書かれた説明板の内容を要約すると、川本幸民は明治元年に江戸から帰郷して金心寺に住んで、息子とともに英蘭塾をひらき、藩の子弟や各地から集まってきた門人127人に英語やオランダ語、化学を教えたという。明治3年に息子の太政官就任に伴って幸民も東京に戻り、英蘭塾は閉鎖された。短い期間だったが、先進的な教育を受けた門下生からは先に紹介した九鬼隆範や元良勇次郎に加え、帝国博物館総長の九鬼隆一、北海道開拓に尽力した鈴木清ら多彩な人材を輩出している。

北の大地に理想郷を築いた三田藩士

鈴木清と澤茂吉

なぜ、歴史ウォークの舞台に三田を選んだのか。炎天下の歴史ウォークも終盤に差し掛かったところで、誰からともなくこんな声があがった。実行



三田城跡で記念撮影 (敬称略、左から) 三段崎・北口・井上・野呂(筆者)・乗田・煙山・植松・前田・下岡・森定

委員長の前田さんに尋ねると、北海道開拓に尽力した鈴木清ら三田藩士がいたことがわかり、三田藩の歴史にちなんだウォークを企画したという。

三田市教委は学校教材として「ふるさと読本」を作っており、その第6弾で「北の大地に理想郷を築いた人々」(2022年10月発行)と題して、川本幸民の英蘭塾で学んだ鈴木清と澤茂吉を紹介している。

「ふるさと読本」の記述によって、2人の生涯をたどってみる。

鈴木清は三田藩士の長男として生まれ、白洲退蔵が興した志摩三商会を退職後、宣教師と出会ってキリスト教徒に。日本初の牛肉缶詰の製造事業で成功を収めて、北海道の開拓に乗り出す。「赤心国に報ゆる」という意味の「赤心社」を1880年に設立、初代社長に就いた。

キリスト教徒を中心とした開拓団は日高郡浦河町の荒れ地を開拓地に選んだが、バッタの大群による食害や酷寒の気候などで開拓は困難を極めた。2年後、同郷の三田藩士だった澤茂吉を赤心社の副社長に招き、澤は第2次開拓団を率いて浦河町の荻伏地区に入る。

ヒゲマヤ狼による被害もあり、凶作と虫害で飢えに苦しむ中でも、澤は開拓団の子どもたちの教育のために赤心学校を開校。澤も熱心なキリスト教徒であり、教会にあたる浦河公会を設立した。

転機を迎えたのは1886年。赤心社の経営方針を畑と牧畜による混同農業に転換し、日高馬の育成を始めて、今に続く競走馬の産地としての礎を築いた。

当時の赤心社の事務所は浦河町の荻伏地区に「赤心社記念館」として残され、浦河公会の建物は北海道開拓の村に移築されている。浦河の人たちは開拓に尽くした2人の三田藩士のことを忘れず、

浦河町荻伏支所前には鈴木清と澤茂吉の胸像が建てられている。

三好達治ゆかりの妙三寺へ

英蘭塾から二つ目の路地の角地には、入母屋で一間一戸の楼門が目をはひく西方寺があり、道を挟んで南東側が川本幸民の出生地である。この辺りまで来ると武家屋敷のあった高台から下り坂になり、寺のある地域になっている。

西方寺を過ぎてすぐ裏手の道を北に進むと、詩人三好達治ゆかりの妙三寺がある。

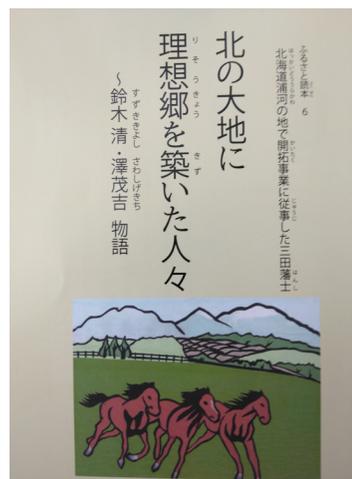
三好達治(1900～1964)は少年期に大阪の親元を離れて、6歳のとき妹と一緒に妙三寺の祖母宅に引き取られ、三田小学校に5年間通った。この頃のことは「祖母」という詩からうかがえる。

祖母は蛍をかきあつめて
桃の実のやうに合わせた掌の中から
沢山な蛍をくれるのだ

祖母は月光をかきあつめて
桃の実のやうに合わせた掌の中から
沢山な月光をくれるのだ

この詩のほか、「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ」と書いた代表作の一つ「雪」など三田が舞台となる名作を数多く残している。体が弱く、学校も休みがちだったようだが、抒情詩で知られる三好達治の原点は三田で育まれたのではないだろうか。

そんな感懐を抱きながら「祖母」の舞台となった武庫川にかかる車瀬橋を渡り、駅に向かって歴史ウォークを終えた。



ふるさと読本
「北の大地に理想郷を築いた人々」



三好達治ゆかりの妙三寺



三好達治の歌碑

文楽観劇会に参加して

下岡 健藏 (1970 (S45) 工応物)

関西同窓会と文楽との関係について、実は会報にもたくさん記されています。直近では1年前の87号に「文楽は面白い」と題し、入江和彦さん(S45水漁)が書いておられます。まだ文楽観劇の経験がない方、私同様に観劇回数が少ない方には、関西同窓会と文楽の関係ならびに文楽の面白さを知る手引書になりますので、まずは、『文楽は面白い』の一読をお薦めします。

私は昨年、夫婦で初めて文楽を観劇しました。そして感激しました。感激とは罪なものでして“あらずじ”を覚える脳の働きを停止させました。平たく言えば、人形浄瑠璃をはじめおおよそ日本の古典芸能に接したことが無かった・文楽に関する常識の欠如・浪花言葉が身につけていなかったからでした。ですが、今年も感激しました。右を観ては、語りと三味線の迫力ある共演に心を奪われ、左を見ては人形が人そのものの役者に観え、目を上にテロップで語りを追うという観劇ではありましたが。

さて、あらずじは如何に？ 以下の通り報告しますが、あらずじを皆様へ正確にお伝えするために、83号に『国言詢音頭 大川の段・五人伐の段』を観て」と題し、寄稿されている波多勇さん(S43農化)との合作です。

7月28日(金) 文楽観劇会

17:30～18:00 人形遣いの解説 18:30～20:30 文楽鑑賞
演目：夏祭浪花鑑

時は元禄11(1698)年冬、大坂長町裏(現在の大阪市中央区日本橋)で起きた魚屋による殺人事件を題材にした狂言です。全九段の内、今回は三段、初夏のさわやかな季節感漂う「住吉大社鳥居前」、夏祭りの風情と義理人情の哀歓を描いた「釣船三婦の家」、そして歌舞伎狂言中屈指の殺し場「堺筋東側にある」長町裏」の三場面が演じられました。

主人公魚売りの団七九郎兵衛は、幼いとき浮浪児だったのを三河屋義平次に拾われました。今ではその娘のお棍と所帯を持って一子をもうけ、泉州堺で行商



演目のポスターが貼られていた当日の劇場正面ゲート

の魚屋となっています。義侠心が強く、老侠客 釣船三婦らとつきあっています。恩人である泉州浜田家家臣 玉島兵太夫の息子磯之丞とその愛人(芸者)琴浦を悪人 大鳥佐賀右衛門から助ける義理と人情の物語です。

「釣船三婦の家」の場面。団七の義兄弟である徳兵衛の女房お辰が国許に帰るための暇乞いに訪ねてきます。三婦の女房おつきは、早速磯之丞と一緒につれて帰ってほしいと頼みます。二つ返事で快諾するお辰ですが、万が一お辰と磯之丞との間に関係ができてしまうのを恐れて三婦が承知しません。お辰は傍にあった焼き鑊を己の頬にあて、自身的美貌を醜くしてまでの心意気を示します。

クライマックスは夏祭りのだんじり囃子が聞こえる中、自分を拾ってくれた恩人で愛妻の父である義平次を団七が惨殺する「長町裏」です。大鳥佐賀右衛門に金で雇われた義父義平次と恩人の息子磯之丞とその愛人琴浦とのほごまで、何とかしてうまく収めようと我慢に我慢を重ねますが、欲に目がくらんだ義平次の憎々しい態度に遂に刀を抜いて親殺しの大罪を犯してしまいます。鮮やかな刺青と真紅の下帯の色、井戸水(本水)で身体を洗う場面も印象的でした。

参加者 入江和彦(S45水) 夫妻・植松高志(S48法)・北浦和憲(S51経) 幹事・高瀬裕介(H13文)・田島朋子(S54獣) 夫妻・波多勇(S43農)と友人・福井毅(S55理)・藤田久美(S52文)・室井智子(S50水)・藤川晃成(欠)の知人・下岡(S45工) 計14名(直前に体調不良等で3名が欠席、代わりの方々に参加されました)

今回は参加者14名でしたが、国立文楽劇場(大阪)より長年の参加を配慮していただき、特別に20名の団体割引(20%引き)を適用していただきました。次回はぜひ20名以上に参加いただき、盛況でありますように願っています。(観劇会幹事・北浦和憲より)



演目：夏祭浪花鑑のチラシより

私と中国の銘酒 紹興酒との関わりについて

大田黒 康雄 (1978 (S53) 農化)



北大関西同窓会館のご担当者から、2022年11月9日の二水会で何か話題を提供するように依頼されて気がついたのでありますが、ちょうど今年の日中国交正常化50周年に当たります。現在の日中の関係は以前と比べて冷

え込んでいますが、岸田文雄内閣総理大臣と習近平中国国家主席が日中国交正常化50周年に当たる昨年9月29日にメッセージを交換したというニュースを見ました。私が在籍した会社が中国との酒類取引を模索したのもちょうど50年前でした。私自身は1990年頃より紹興酒の技術的支援と品質管理に携わりましたが、そのころの経験を思い出しながら紹興酒に関する話題を提供させていただきます。

卒業と同時に、私は京都の某酒造会社に就職し、様々な酒類の技術開発や商品開発を手がけることになりました。その中の中国酒、特に紹興酒の製造と輸入に関しては、現地に何度も入って紹興の技術者と対峙した経験をさせてもらい多少詳しくなりましたので、ご紹介させていただきます。

1. 日本への中国酒の取引経緯 (T社)

- ① 1972年(昭和47年)3月: 香港において、中振有限公司との間に、中国産酒類(主として薬酒)を輸入し、T社が日本国内において販売することの基本的合意をみた。
- ② 1972年(昭和47年)8月: 第1回目の輸入実施
- ③ 1972年(昭和47年)9月: 田中角栄首相の訪中により、予想より早く日中国交回復が実現し、中国酒の日本国内における販売環境は大きく変転し関心度が高まった。
- ④ 1975年(昭和50年)1月: 中国側の招請で北京において、中国糧油食品進出口会社と三日間にわたる第1回商談をもった。商談の内容は、以下の3点であった。
 - ・香港経由という変則的な経路の正常化
 - ・T社の選定する良質の老酒に「中国老酒」という固有の銘柄を付して専らT社に供給する。
 - ・年2回の広州交易会で定期的経常的に商談する。
- ⑤ 1975年(昭和50年)11月: 秋期交易会にて以下の3点について協議した。
 - ・紹興酒の対日供給ルートについて
 - ・壘製品の供給不足対策: T社が壘詰
 - ・酒類品質管理技術と中国側の紹興酒の製品知識を相互に開示することを中心に、技術交流を開くこととし、日本の技術者を速やかに中国に派遣する。
- ⑥ 1976年(昭和51年)1月: 技術交流のため、製造部

員らが訪中。紹興の製造工場を視察したが、丁重な歓迎ぶりのわりには技術陣が期待するほどの交流成果をあげられなかった。当時T社は、25kgカメを紹興から日本に輸入して、非常に手間を取る明替・ろ過・詰口作業を行っていた。

注: T社では、容器に製品を充填することを「詰口」と表現していました。



紹興市内のいたる所を運河が流れる



紹興は上海の西南、杭州湾に近い水郷・酒所

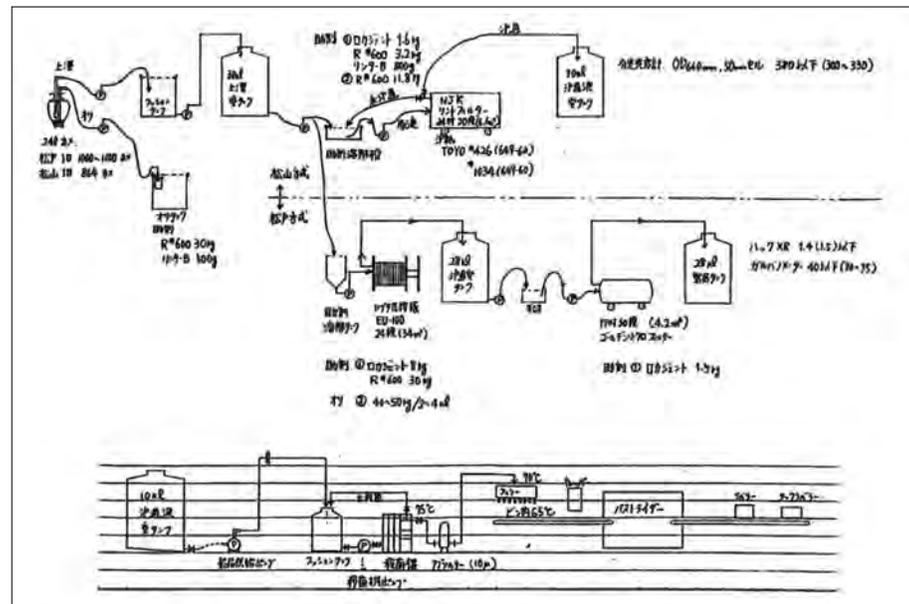
- ⑦ 1977年(昭和52年)9月北京合意: 以下の2点を合意した。
 - ・向こう3年間の輸入数量についての中期計画を策定し、25kg(24L)カメの紹興酒の対日供給ルートはT社一本とする。(独占販売)
 - ・バルク輸送の実現を図るため1kL入コンテナを試作し、日中間で使用テストを行う。
- ⑧ 1978年(昭和53年)10月秋期交易会: 1,625mL紹興加飯酒の対日供給もT社一本となる。かくして3年10ヶ月の時日を経て、ようやく全紹興酒の窓口一本化が実現しました。このような歴史の中で、私はこの会社に入社したのです。その後、1980年に中国糧油食品進出口総会社と長期契約を締結し、1981年より本格的に「紹興酒」を輸入しています。当初日本での紹興酒市場で中国産は年間900kLと少なかったのですが、年々増加し1990年当時6,000kLに達する勢いでした。当時は、中国から3年間以上貯蔵した24L入りカメを輸入し、一部はそのまま販売しますが、大部分は日本の工場でタンクに明替えて濾過し、清潔な環境の下で1升壘や600mL壘に詰め替えて販売していました。当時の中国は、日本の市場に提供できるような品質の良い壘やキャップやラベル等の容器包装資材を作る技術、壘詰をする技術、品質管理の知識・技術等がありませんでした。中国で詰めた製品は、中身が酸敗していたり、キャップが開かなかつたりと不良が多く、T社では日本の消費者に受入れられるように、日本での詰替えを行っていました。空になったカメは、好事家が

持って帰る他は全量産業廃棄物として処理せざるを得ず、大量のゴミ置場と廃棄費用が悩みの種でした。

- ⑨ 1988年(昭和63年)~1992年(平成4年): 中国紹興における現地詰口プロジェクト
中国での経済開放の動きの中で様々な分野での技術向上が計られました。中国側から日本の市場に安心して提供できるような壘詰製品が現地(中国紹興)で生産できるよう技術指導の要請があり、1988年から1992年までの間、設備供与や品質管理の指導を含む度重なる技術供与の結果、1991年10月より紹興の工場において製造から詰口までの一貫生産が可能になりました。現在日本で販売されている塔牌ブランド紹興酒は中国で詰めたものなのです。

2. 紹興酒の中国紹興における現地詰口プロジェクト

- ① 1988年6月に、中国糧油食品進出公司浙江省分公司、紹興対外貿易公司を窓口として紹興東風酒廠を訪問し、詰口の可能性調査を始めます。1989年6月には北京で天安門事件が発生します。1990年5月~8月に、窓口が上海ルートに変わり、これ以降浙江省糧油食品進出口公司を窓口として、設備・品質管理・スケジュール調査、詰口打合せを重ねました。日本製のろ過設備、殺菌装置、充填設備を中国に持ち込み、紹興東風酒廠に設置する計画でした。
- ② いよいよ1990年9月に日本製の装置類を現地工場に設置して試運転を開始しました。先方の工場に新たにステンレス製の10kLタンクを2本作ってもらいました。タンクを作る技術も稚拙で質の悪いステンレスを使用していました。外部で作ったタンクを室内に搬入する際に入口を壊して、大勢の人の人力で搬入したことなど懐かしい思い出です。24Lカメからタンクに移し替える方法も日本の工場で行っていた方法を採用し、作業手順や品質管理手順を中国語に翻訳して「指南書」を用意し、



紹興酒の明替・ろ過・詰口 工程図

現地工場の作業員に指導しました。ろ過するための助剤や濾紙、壺やキャップ、ラベル等は全て日本製を持ち込みました。日本式の衛生管理は、水を多量に使用して洗浄することから始まりますが、中国では清浄な水は貴重品で、非常識と思われたようです。この時に「日本の常識は、世界の非常識」ということを思い知らされました。今では中国でも国際標準の HACCP 管理が常識になっていますが、当時はなかなか理解されませんでした。その後、追加設備の設置や、明替・濾過の指導、新製品の詰口立会などを繰り返し、1992年5月に現地元詰体制の最終確認に至りました。その後壺、キャップ、ラベルは、全て中国製に切り替わっています。設置した設備・装置類の費用や技術支援等は全て無償供与で、ろ過方法や充填方法や日本式品質管理方法などを含めて、中国紹興から輸入している紹興酒は安心して飲めるものになったと自負しています。なお、その後東風酒廠に設置した設備は、浙江省糧油食品進出口公司（塔牌酒廠）が新たに設立した工場（浙糧酒廠）に移設し（1995年5月）、現在も順調に稼働しているようです。



日本に輸入されている様々な紹興酒製品

3. 中国酒の種類や製法

紹興酒は、世界の三大美酒の一つとされています。紹興酒は、日本酒と同じ醸造酒に分類されますが、主たる原料がもち米と麦麴であり、新酒の色調が黄色なので中国では黄酒と呼ばれる酒に属しています。なお、24 L カメで3年以上熟成させたものを老酒と呼びます。また、「紹興酒」の名称

は、浙江省の紹興市で生産された老酒にのみ許されていますので、台湾で造った老酒を紹興酒というのは間違いです。日本で販売されている紹興酒は、ほとんどが加飯酒というタイプのもので、紹興市の国営工場で伝統式醸造法（500 L 入の素焼き製大甕で発酵）に則って醸造し、圧搾機で固液分離した後、24 L 入の素焼きカメに加熱殺菌して封入し、3年間以上長期貯蔵したものです。

紹興酒の特徴のひとつは、仕込水です。会稽山系の伏流水が集まる鑑湖水系から取水しますが、この水は中国でもまれな硬度の低い清らかな水で、古来から酒造りに最も適しているといわれてきました。日本の醸造水（伏見、灘の仕込水）と比べると硬度は高く、必ずしも清浄とはいえませんが、確かにこの鑑湖水系の水は、豊富にあり、かつ冬季には清浄になると考えられます。精白度約90%のもち白米を約半月ほど鑑湖水の入った500 L 入大カメに浸漬しておくとも乳酸菌などが繁殖し、強酸性の「漿水」になり、仕込に使用されますと酵母による発酵の際に雑菌の繁殖を抑制します。



鑑湖の風景



麦麴の風景

麦麴は、小麦を挽き割ったものをレンガ状に固めて作ります。糖化酵素やタンパク分解酵素を生産するカビ（クモノスカビ、ケカビ）を繁殖させた後、仕込む前に粉碎して仕込ます。蒸したもち米中に含まれるタンパク質は、分解酵素によってアミノ酸に分解されますが、製品には未分解のタ

ンパク質が豊富に含まれます。紹興酒を冷やすと濁りますが、これはタンパク質です。二日酔いしにくいといわれるのは、このタンパク質やアミノ酸が胃の粘膜を保護するからと云われています。なお、台湾老酒には、糖分もアミノ酸もあまり含まれていませんので、氷砂糖や干し梅を入れて飲むようですが、本来の紹興酒には必要ありません。



↑屋外で大カメに糯米を浸漬させて漿水を造っているところ



←糯米を連続的に蒸しているところ

←冷やした蒸米を仕込室まで運んでいるところ

紹興酒 伝統式醸造法の仕込風景 - 1



↑葉で作った蓋をし、前醸酵として10日ほど発酵させる。（屋内）、温度25℃～30℃



↑品温をチェックしカイ入れをする。



←500L大カメの醪を25L小カメに移し、屋外で3～4段積みにする。1ヶ月～1ヶ月半後醸酵を行なう。アルコール度数が18～19%になれば醸酵終了

紹興酒 伝統式醸造法の仕込風景 - 2

中国は、2001年12月11日にWTO正式加盟しておりますが、この前後に様々な分野で「中華人民共和国国家標準」が作成されており、紹興酒（紹興黄酒）も2000年4月1日実施の国家標準（GB17946-2000）が制定され、紹興酒の定義、製品分類、技術要求、試験方法、検査・試験規則、表示、包装、輸送、保管方法等が標準化されました。この規定により、それ以前の原材料表示は「糯米、麦麴、水」だったものが、以降の表示は「配料：糯米、水、小麦、焦糖色」になりました。公司によると1999年6月頃に紹興酒現地メーカーが一斉にこの表示になったようです。「焦糖色」というのは日本語では「カラメル」で、着色料としての添加物表示をしなければいけないものでしたので、日本の輸入者は皆慌てて対応したことを記憶しています。もともとは小麦や米の澱粉を糖化して焦

がしたものを使っていたようですが、今では工業製品を使用しており、紹興酒の褐色の色は、このカラメルの効果であったことが判明した次第です。紹興酒で、よく「陳年」という表現が出てきますが、国家標準によると、「紹興酒の酒齡（age）は、発酵後の原酒が酒壺（24 Lカメ）、酒甕（500 L大カメ）、貯酒池、貯酒タンク等で保管した年齡（陳釀）をいう。製品（販売容器）に表示する酒齡はブレンドに使う原酒の酒齡を加平均して計算する。但し、該当する酒齡の基準酒は50%を超えなければならない」と規定されています。すなわち仕込が11月～3月の寒い時期に行われ、圧搾・殺菌・24 Lカメ詰口の後、1月～5月頃にカメ貯蔵開始されて翌年5月頃が1酒齡となります。酒齡が3年以上のものを「陳3年」などと言います。

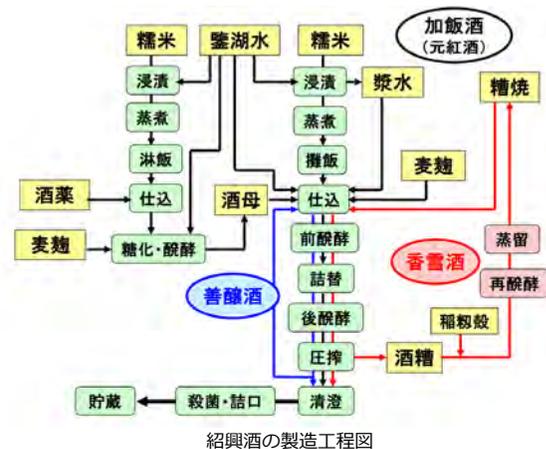


↑新酒は、ろ過、加熱殺菌を経て貯蔵用のカメに詰められる。右は、詰める前にカメを蒸気殺菌しているところ



←貯蔵庫の中で積み上げられ、2年以上の眠りに入る

紹興酒 長期貯蔵「陳年」に入る準備



紹興酒の製造工程図

中国酒について詳しく勉強したい方は、下記の文献をご覧ください。

参考文献

- 花井四郎著「黄土に生まれた酒（中国酒、その技術と歴史）」東方選書20（東方書店）（1992年）
- （故花井先生は、私の会社での恩人であると同時に北大農学部農芸化学科卒の大先輩です。）

松浦武四郎の十勝越え

北口 久雄 (1966 (S41) 理物)



2018年(H30年)は北海道とその名付け親である松浦武四郎にとっては特別な年であった。つまり武四郎生誕200年、本人による北海道命名150年であった。これにちなみ武四郎生誕地の三重県松阪市と北海道各地で様々な行事が行われた。

私は松浦武四郎については「幕末の蝦夷地探検家」というくらいの認識であったが、この機会にもっと調べてみようと思いつくの行事にも参加し、命名だけでなくその後の北海道開拓にも非常に大きな役割を果たした人物であることを知ったのでその一端を紹介することにした(文献1,2)。

三重県松阪市「松浦武四郎記念館」訪問



松浦武四郎(1818~1888)唯一残っている肖像写真で65歳の時身長は147cm(Wikipedia)

2018年9月に伊勢神宮に参拝した帰りに短時間であったが三重県松阪市小野江(近鉄中川駅近く)にある「松浦武四郎記念館」に立ち寄った。当時の中野恭館長に熱心に説明して頂いた。私が驚いたのは入ってすぐの床面に描かれていた実物大の「東西蝦夷山川地理取調図」(縦2.43m横3.64m 28枚組)であった。それは武四郎の6回の蝦夷地探検の集大成で、9800の地名と同時に探検に協力した約270名のアイヌの人達の名前が記されたものであった。

私は思わずしゃがみこんで私の故郷である富良野盆地の周辺を見た。そこには現在のソラチ、フラノ川に沿っての多くの地名が記されていた。私は武四郎は探検に同行したアイヌの人達からの聞き取りで地名は記録できたが実際には富良野盆地



床面に描かれていた実物大の「東西蝦夷山川地理取調図」(縦2.43m横3.64m 28枚組)

には足跡はないものと思っていた。しかし同記念館にあった6回の蝦夷地(樺太、千島を含む)探検の概略ルート地図を見ると6回目の探検で現在の旭川から美瑛、富良野盆地の十勝岳側を通過して新得、帯広に抜けていたのである。

さらに私が富良野出身であることを言うと、明治に入り富良野盆地開拓に入ったのは三重県人の田中という人であると教えられた。2019年夏に北海道に行った際に上富良野町開拓記念館を訪問した。そこには明治30年春に現在の津市出身の田中常次郎を団長とした一行12名が滝川、赤平を経由して盆地の北側に初めて入植したとあった。富良野盆地は北海道でも比較的遅く開拓された。その理由は森林におおわれた泥炭地で耕作に馬を使うにも腹まで沈み込むほどで、大変苦勞したとのことであった。

武四郎の十勝(ルウチシ)越え

1858年(安政5年)の6回目の探検は函館上陸後八雲、羊蹄麓、石狩川遡上を経てチュクベツト(忠別太)番屋(現在の旭川市)に入り十勝越えの準備に入った。4回目からは「蝦夷地御用御雇」、つまり幕府役人としての探検であった。松前藩役人の飯田某を含め一行14名で番屋を出発した。その記録は「十勝日誌」(文献4)に詳しい。武四郎は忠別太番屋には前回来ていて現在の東川町から見える大雪十勝岳連峰を眺望し、その中でアイヌの人達と十勝岳を越えて現在の帯広、十勝に行くにはどのルートが最適かを相談していたものと思われる。(図1参照、但し図では現在の十勝岳はビ

エ岳となっている)

番屋を出て2日目に現在でも十勝岳が最も美しくみえる地点からの武四郎のスケッチ(図1)に現在の富良野岳と前富良野岳の凹部にこれから目指す地点として「ルウチシ」との記入がある。ルウチシはアイヌ語で峠という意味である。

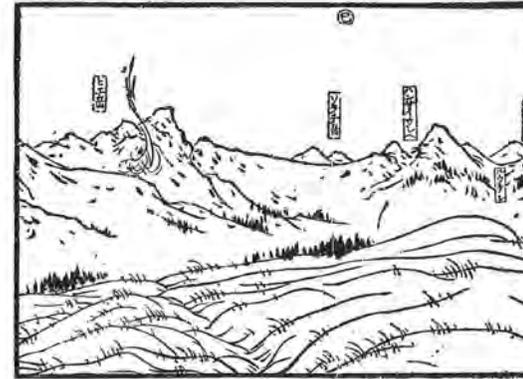


図1:現在の三笠山付近からのスケッチ(図2参照)「ビエ岳」は現在の十勝岳である 右奥にこれから目指す「ルウチシ(峠)」が描かれている(「十勝日誌」より)

武四郎のこのルートに関しては地元の人達によって主に「十勝日誌」に依拠しその正確な足跡の研究がなされている。最近ではそのルートの上富良野にアトリエを構えた「石の彫刻家」山谷圭司氏の研究が最も優れているようである(文献3)。武四郎は探検では方角はコンパス、距離は歩数で計測しそれらを「手控(野帳)」に、アイヌの人達から聞き取った地名と共に詳細に記録した。しかし内陸部に関しては現在の地図に比べてその距離は不正確である(場合によっては20~30kmの誤差)。山谷氏はこの「手控」並びに武四郎の作成した全ての地図を丹念に調べ何回となくルートを探検し、場合によっては武四郎の「誤り」まで指摘している。

武四郎は十勝連峰のスケッチをした同じ日に富良野盆地を一望できる深山峠で森林に覆われた盆地を一望し、「故に暖にして内地に比すれば相応の一か国と思はる。飯田(同行した松前藩役人)も実に長歎し…」つまり本州では「ゆうに一国(一藩)にあたる平坦な土地」と記している。

明治期の武四郎

1868年(明治元年)、戊辰戦争の最中に武四郎は突然京都にいた大久保利通に呼び出された。大久保は武四郎と会談し、当時最高の蝦夷通と認め、蝦夷の事は武四郎に任せると決め、即開拓判官、

従五位下に任じた(文献5の第10号「年俸六千兩」)。そこで蝦夷地を北海道と改称し、現在も使われている郡の地域割り名称選定に尽力した。道都を札幌としたのにも貢献したと言われている。しかし1870年開拓判官を辞し従五位も返上した。その最大の理由は北海道でのアイヌの人達への差別は全く変わらないことに失望したのであった。以後「馬角齋(ばかくさい)」という印を使用し、生涯二度と「蝦夷地」を踏むことはなかった。

「十勝岳ジオパーク」と武四郎

2015年から美瑛、上富良野町を中心に「十勝岳ジオパーク 美瑛・上富良野エリア」構想を「日本ジオパーク連絡協議会」に申請し2022年1月に認定された。残念ながらエリア南に隣接する私の生まれた中富良野町は含まれていないが大変喜ばしいことである。実は山谷氏の武四郎のルート探索はこのジオパーク申請の運動の一翼を担っていたようである。結果的には十勝越えルートはこのジオパークエリアの真ん中を北から南へ少し西寄りに通過しているのである。

十勝岳ジオパーク・美瑛・上富良野エリア(概略)



図2:武四郎一行足跡地図(文献3による)

参考文献

- 1.「松浦武四郎 入門」山本 命 2018.3 月兎舎
- 2.「がいなもん 松浦武四郎一代」河治和香 2018.6 小学館
- 3.「トカチルウチシの行方」山谷圭司 2017年 トカチルウチシを歩く会(上富良野)
- 4.「十勝日誌」松浦武四郎 1860年
- 5.「週刊武四郎」2018.4~2019.3 発行:松阪市 監修:松浦武四郎記念館

<https://takeshiro.net/weeklytakeshiro> で閲覧可能

マグロの色々な話

大橋 人司 (1981 (S56) 水漁)



おしよる丸に乗船 実習中の筆者

はクロマグロの腹の断面で、腹は厚みがあり、まさしく大トロとなります。東京の豊洲（築地）市場での年始の初市で何千万円以上の高値のもこのクロマグロです。生態についてはまだまだ解明されていない部分が多いのですが、太平洋に生息する魚群は熱帯から温帯に生息し、台湾から南日本の温暖な海域で産卵し日本沿岸を北上、一部はアメリカ西海岸まで回遊することが分かっています。その回遊の段階で、日本海から太平洋に向けて津軽海峡を通る魚群が、いわゆる「大間のマグロ」です。写真3は初市で競り落とされた一番マグロです。



写真2 本マグロともいわれる“クロマグロ”の腹の断面“大トロ”

はじめに

日本人の大好きなマグロ、その種類や味（特にトロについて）いろいろと述べてみます。

マグロの種類

現在国内で流通している主な5種類のマグロについて述べて行きます。

写真1より、5種類のマグロの外観およびそれぞれのサイズ感を見ていただきましょう。

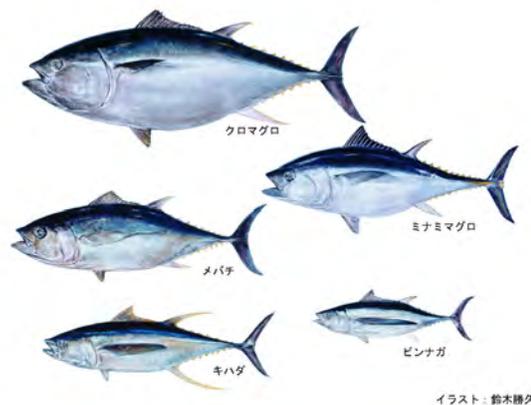


写真1 マグロの種類およびサイズ

クロマグロ

マグロ類の中で最大であり、3 m、400 kg になります。マグロの中のマグロという意味で、ホンマグロとも呼ばれています。大トロの取れる魚種として珍重され高値で取引されています。写真2



写真3 初市で競り落とされた“クロマグロ”一番マグロ

ミナミマグロ

ミナミマグロはインド洋・太平洋・大西洋の南半球に生息しているので、ミナミマグロという名前がついています。体長2 m、200 kg 以上に成長します。写真4はミナミマグロの腹の断面ですが、クロマグロと同様に腹は厚みがあり大トロが取れる魚種として、クロマグロ同様高価で取引されています。近年、オーストラリアで養殖された小型の魚が回転寿司でトロ商材として販売されています。



写真4 “ミナミ（インド）マグロ”大トロ

メバチマグロ

全世界の熱帯から温帯に広く分布しており、最大で体長2 m、200 kg 以上に成長します。写真5はメバチマグロの頭ですが、目が大きくてパッチリしているのでこの名前が付いたようです。身質は柔らかく、身色は赤身が濃く寿司種に多く使われています。脂ののった個体もありトロが取れます。写真6のメバチマグロの腹の断面で分かるように、腹の厚みは薄く大トロは取りにくいですが、いわゆる中トロとしては十分通用するものです。関西ではまだまだなじみは薄いですが、関東以北で多く流通され、刺身としての流通量は日本で一番多い種類です。



写真5 メバチマグロの頭 目が大きくパッチリ



写真6 メバチマグロの腹トロ

キハダマグロ

メバチ同様全世界の熱帯から温帯に分布しており、他のマグロ類よりも表層を遊泳しています。クロマグロやメバチマグロに比べて細身の魚体で、写真7で見て頂けるように第2背鰭（せびれ）と臀鰭（しりびれ）が黄色くて、成魚になると鎌状に大きく伸びます。肉質は締まった感じでしっかりしていて、身の赤みは淡いものです。西日本で多く流通しており、皆さんが刺身で口にする機会が一番多いのではないのでしょうか。また、全世界のマグロ漁獲量、200 トンの内 100 ~ 140 トンがキハダマグロであり、刺身以上にツナ缶の原料として重要な魚種となっています。

日本での流通量はメバチマグロに次いで二番目となります。写真8はキハダマグロの腹の断面ですが、全体が赤身でトロの部分はほぼないのがお分かりいただけると思います。



写真7 キハダマグロ



写真8 キハダマグロの腹の断面“ハラ”

ピンチョウマグロ

全世界の熱帯から温帯に分布しています。写真9で見ていただけるように胸鰭(むなびれ)が長く伸び、伸びた鰭をもみあげ(鬣)にみたてて、ピンチョウマグロと呼ばれます。また、長い胸鰭をトンボの羽根に見立て、トンボマグロとも呼ばれます。肉質は柔らかく、身の色は白に近いピンク色になります。刺身としては旨味が少なく感じることもあります。近年は安価を売りに刺身としての流通量が増えています。寒い海域で漁獲された個体には脂ののったものもあり、ピントロとして回転寿司を中心に流通しています。キハダマグロ同様、ツナ缶の原料として重要な魚種となっています。



写真9 ピンチョウマグロ

マグロの養殖について

次に、近年盛んに行われ、生産量が増えているマグロの養殖について、述べてみたいと思います。

養殖される魚種

クロマグロとミナミマグロが殆どをしめていますが、理由としては、養殖(給餌)することでトロの部分が多くなり単価が高くなるのが主な理由と考えられます。

日本国内で行われている養殖

まず国内で行われている天然種苗による養殖は、ヨコワと呼ばれるクロマグロの幼魚(体長20~30cm、体重100~500g)を生簀の中で養殖し、2~3年をかけて50kg以上に育てて出荷するという方式です。魚体の成長速度は天然物の倍以上と言われ、脂もとり、トロの割合も多くなります。ヨコワの漁獲は紀伊半島沖・四国沖、豊後水道・薩摩半島沖・対馬・壱岐周辺で行われています。養殖場は長崎県が最多で、愛媛・鹿児島・大分・高知と続き、養殖場の数は200ヶ所弱、生簀の数は1400台弱にのぼります。

次に人工種苗による養殖は、近畿大学が1970年から研究を始め、32年をかけて2002年に成功し、2004年から出荷しています。また、民間では、マ

ルハが1987年から23年をかけて2010年に成功し、その後、日本水産・極洋が成功しています。

国内養殖の生産量は、令和3年度では出荷尾数:30万尾(天然種苗26万5千尾・人工種苗3万5千尾)、出荷数量:2万2千トン(天然種苗2万トン・人工種苗2千トン)となっており、まだまだ天然種苗への依存が高い状態です。

海外で行われている養殖

主に地中海で1996年頃から行われています。5月から6月に産卵後の痩せたクロマグロを、旋網で漁獲し生簀に入れて約半年間給餌養殖して、脂ののった魚にして出荷するものです。地中海沿岸のマルタ・スペイン・トルコ・イタリア・クロアチア・チュニジア・他の沿岸国で行われており、生産量は年間3万トンを超える。日本へは大半が写真10のような冷凍のロインに加工され輸入されています。他に、メキシコでクロマグロ、オーストラリアでミナミマグロが同様の方式で養殖されています。



写真10 養殖マグロ冷凍ロイン

おわりに

マグロについて、さらに興味をもっていただけたでしょうか?では次にマグロを食べる時には、その種類や天然と養殖の違いなどをどうぞ意識して味わってみてください。

二水会(野外開催)

岸和田城・だんじり会館・きしわだ自然資料館 見学会

山本 雅彦(1979(S54) 農・農工)



岸和田殿の13人?

(敬称略;左より)植松・前田・八田・田島・佐々木・大村・井上・松下・山本(筆者)・入江・伊藤・柏尾・波多

南海岸和田駅に集合

5月12日は明後日に予定されていた琵琶湖北大ジンパが雨予想のため中止となったこともあり天候が心配されましたが、幸いにも晴天に恵まれ、植松会長を始め13名が泉州岸和田の半日を楽しく過ごすことができました。

岸和田と言えばだんじり祭ですが、祭当日はゆっくりと見学できないため、気候の良い平日に岸和田城、だんじり会館、岸和田の街並みを探索するコースを会員の方々に見てもらおうという思いで今回企画しました。そしてもう一つの動機は、きしわだ自然資料館に勤務する学芸員の柏尾翔(かしおしょう)さんが、平成24年北大大学院水産科学院卒(滋賀県立膳所高校出身)ということ。同館を今回のコースに組み込み館内の説明をお願いしました。

正午、南海岸和田駅に集合、かつて私は岸和田市役所に勤務していましたが、現役職員である長江和正君(H16農・農工修士)も昼休みに岸和田駅まで駆けつけてくれました。

岸和田駅前から五風荘へ

だんじり曳航のため、日本一高いと言われる岸和田駅前通り商店街のアーケードを左折し、「闇市

筋(やみいちすじ)」と呼ばれている戦後の雰囲気を残す商店街を抜け、しばらく歩くと岸和田の文教地域に入り、岸和田高校、岸城神社、岸和田城が見えてきます。私は岸和田高校の出身ですが、岸和田城、だんじりが宮入りする岸城神社、五風荘等に囲まれた環境の良さを再認識しました。北大は言うに及ばずですが…



日本一高いと言われる岸和田駅前通りの商店街のアーケード



岸和田城

岸和田城、岸和田高校を両側に見てしばらく行くと、所さんの「開かずの金庫」でも紹介された瀟洒な建物「五風荘」に着きました。手入れの行き届いた庭園が良く見える落ち着いた和室で、揚げたての天ぷら定食を食べ、これからの英気を養いました。



五風荘



五風荘にて昼食

昼食後は、かねてよりお願いしていた岸和田観光ボランティア4名の方に五風荘、岸和田城、だんじり会館、歴史のみち「紀州街道」を案内していただきました。ボランティアには高齢の方もおられましたが、一生懸命説明する様子に岸和田愛を感じたという参加者もいました。

岸和田城

伝承では、建武新政期に楠木正成の一族、和田高家が築いたといわれています。現天守閣は、昭和29年に建造された3層3階の天守です。本来は5層天守であったことが絵図などで確認されています。当日、天守閣からはやや霞んでいましたが、東側に和泉山脈、岸和田高校、西側に淡路島、明石海峡大橋を眺めることが出来ました。



岸和田城より和泉山脈、岸和田高校を望む

八陣の庭

岸和田城庭園（八陣の庭）は、昭和28年に作家の重森三玲（しげもりみれい）氏によって、作庭されました。その芸術上の価値及び近代日本庭園史における学術上の価値が高いことから、平成26年10月6日付けで国の名勝に指定されました。私も市役所時代、その前年まで公園関係の仕事で「八陣の庭」の国の名勝指定に尽力したことが思い出されます。



岸和田城と八陣の庭

だんじり会館

全国に知られている「岸和田だんじり祭」は江戸時代中期に始まり、300年の伝統を誇ります。館内では実物のだんじりと27面のマルチスクリーンによる臨場感のある感動的な映像と音声で祭の熱気と迫力をリアルに再現。天保12年（1841）に製作され、幕末から平成まで実際に町内を曳航されていた旧紙屋町のだんじりも展示されています。紀州街道の古い町並みを再現し、だんじりの花形である大工方の気分を味わえる体験コーナー、祭の仕組みやだんじりの纏（まとい）、法被や飾り、だんじりばやしで使われる楽器類などを間近で見られるコーナー等がありますが、時間の関係で十分に見ることは出来なかったのが残念でした。



だんじり会館



だんじり会館にてだんじりの説明を受ける参加者

歴史のみち「紀州街道」

黒と白のモノトーンの道路舗装、景観を考慮し電柱を片側に寄せる工事は私が道路課に在籍していた頃（平成3～7年）に担当した思い出深い現場です。



歴史のみち「紀州街道」

きしわだ自然資料館の柏尾さん

同館は紀州街道沿いにあり、昭和初期に建築された旧寺田銀行のファサードを活かした博物館（p.58 写真参照）で、館内には岸和田の自然に関連するものや世界の野生動物の剥製の展示もあります。先に紹介した学芸員の柏尾さんに館内を案内していただきました。柏尾さんは、高校まで琵琶湖近くに住んでいたことで水生動物に興味を持ち、進学した北大水産学部（海生）ではナマコの研究をしていました。在学時に全国の学芸員募集案内にたまたま岸和田市があり、採用されたそうです。現在はイクメンで奮闘中です。

同館は、「チリメンモンスター（チリモン）さがし」も有名です。ちりめんじゃこの原料になるイワシの稚魚と一緒にとれたエビやカニ、タコ、魚などの子どもがチリモンで、姿形が変わったものも多く、宝探しのように楽しめます。同館ときしわだ自然友の会が2004年に始め、全国的に有名になりました。



「チリメンモンスター」の説明をする柏尾さん
きしわだ自然資料館にて



シロクマの剥製等も展示している きしわだ自然資料館

明智光秀肖像画とコシノ三姉妹生家

きしわだ自然資料館を後にして、懇親会場である岸和田駅前の「や台ずし」に向かう途中、お寺が並んでいる通り（寺町筋）に、明智光秀の肖像画（非公開）を所蔵する本徳寺があります。この肖像画は一般公開されていませんが、明智光秀のものはこの1枚しか無く、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」、「どうする家康」等の影響もありテレビでも頻繁に見かけるようになりました。

岸和田駅前通り商店街に戻り、岸和田市出身のファッションデザイナーコシノ三姉妹の生家（現在はアヤコ食堂〔三姉妹の母親は小篠綾子〕）も話の種になるように前を通りました。



コシノ三姉妹と母親の小篠綾子

終りに

岸和田駅前の大衆居酒屋チェーン店「や台ずし」では、半日歩き廻った程よい疲れでアルコールと食事が進みました。参加者の皆さんは岸和田が初めてという方も多く、近いと思ってもなかなか来る機会が無かったようです。後日、ある参加者からメールで「岸和田は初めてでしたが歴史も文化も人情も大変有意義なツアーでした。」という感想をいただきました。

今回はボランティアの方々が悪切丁寧に説明してくれたこともあり、時間的にはタイトではなかった程度岸和田を満足していただいたのではないのでしょうか。今後も今回のような機会を作りたいと思っています。



明智光秀の肖像画

古代の河内平野とその後の変遷

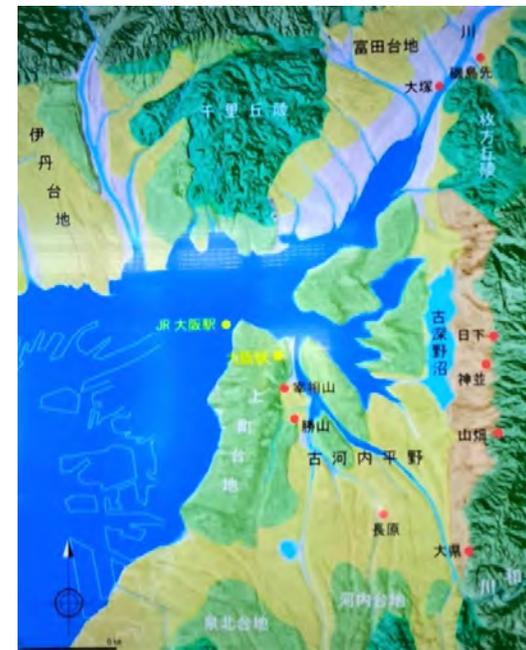
末吉 徹 (1969 (S44) 京大 法)



①最終氷期極寒期の古大阪平野 (約 2 万年前)



②古河内平野の時代 (約 1 万年前)



③古河内平野から河内湾への時代 (約 8000 年前)



④河内湾 I の時代 (約 5500 年前)



⑤河内湾Ⅱの時代 (約4500年前)



⑥河内湖の時代 (約2000年前)



6~7世紀ごろの摂津・河内・和泉の景観



⑦現在

1. 気温の変化と河川の浸食による地形の変化

・先のページに掲載の図は、①から⑦が、八尾市立歴史民俗資料館の展示から写真で拝借したもので東大阪、八尾、四條畷などの資料館の学芸員が共同で展示物の理解を促進するために作成したとの説明があった。6~7世紀ごろの図は、別の古代史セミナーで配られたものを写真に撮ったものである。
 ・図1. 今から2万年前は直近の水河期で瀬戸内海、大阪湾も陸地で紀伊水道から漁師の網にナウマンゾウの牙がかかるのはその名残だ。

・図4. 5,500年前になると地球が温暖化し、いわゆる縄文海進が生じて河内平野は大阪湾とつながる河内湾、河内湖になった。
 ・その後、河川が運ぶ土砂によってどんどん陸地化が進み河内湖は小さくなったが、その最後の名残は深野池（ふこのいけ）となり、現在は寝屋川治水緑地の中にかろうじてその痕跡を見ることが出来る。
 ・古代の河内湖は海水と淡水が混じる汽水湖で魚介類が豊富で採りやすく、女性は貝を採り男は魚のほかには鹿やイノシシを採ることも出来ただろう。海に面した生駒山地や上町台地のなだらかな丘陵に縄文遺跡が点在する理由はそう言う所にあると思われる。
 ・四条畷市の歴史民俗資料館に行くとその当時の生活の様子が佐野喜美さんという学芸員、元館長さんの優しいタッチのイラストで生き生きと描かれている。現在の四条畷市や大東市の辺りは今では想像し難いが海に面していて神戸のように山が背後にあり、船を操って西に行けば九州方面、川を遡れば京都、琵琶湖、北陸方面につながる便利な所だった。
 ・丘陵に添った陸地には獣道の様な細い道が出来て、やがて東高野街道に発展した。
 ・古代に上町台地に難波の宮が造られたが専ら九州や大陸方面との水運を念頭に置いたものだった。

2. 安村俊史氏の著書に添って歴史をたどる

・このような地形の大坂、河内平野に1704年、大和川の付け替えが行われた。今から考えても大土木事業でありそのメリット、デメリットともに非常に大きい。こういった話を分かりやすく時系列的に解説した本はこれまでなかったのでその要点と感想を書いてみた。

・「大和川の歴史 土地に刻まれた記憶」安村俊史著 2020.3.24 初版発行
 清文堂 2,600円+税

・著者は1960年生まれ、1982年に大阪市大の史学地理学科を卒業と同時に大阪府中河内の柏原市に就職、1992年の市立歴史資料館開設前も含め一貫して地域の歴史資料の収集と整理に取り組んで来られた。2020年の定年退職に合わせてそれまでの成果をまとめてこの本を出版されたがこのように転勤のない状態で38年もの一貫した積み重ねの上に立つ力作は珍しいのではないかと思います。市町村の学芸員ならではのことである。

大和川の付け替えについて私は大阪府の農林部長時代に中九兵衛氏（中甚兵衛10代目）にお会いし、著書も頂いたことがある。中甚兵衛に関する部分はどう書かれているかが私の最初の関心だったが少しページをめくるだけでこれはすごい本だと感銘を受けた。太古の地質学的情報、古墳時代、飛鳥・奈良時代の交通ルートなどから最新の亀の瀬地滑り対策工事まで余すところなく簡潔に、しかも豊富な地図や写真付きで素人にも分かりやすく書かれている。

(1) 柏原市の意外な重要性

・柏原市は河内ワイン以外にはあまりこれと言った産業や観光資源のない地味なイメージの市だったが、この本を読めば全く違う姿が見えてくる。柏原市民に自信とプライドを与えることは間違いないし、私にとってもこれまであいまいだった知識に明確なストーリーと資料を与えてくれた大切な名著だと感じた。この本は近所に住む考古学者の白石太郎先生の奥様が私が元大阪府職員であることから関心があるだろうと考えて貸してくれたが、読み始めてすぐに本屋に走り1か月ほどして手に入れた。以下、自分が感銘を受けるとともに勉強になった部分の要点を記す。



(柏原市の所在)

- ・(日本列島が大陸から離れたのは 300 万年前だがその少し後の) 250~150 万年前には古奈良湖、古大阪湖があった。
- ・150~100 万年前には海水が古奈良湖、古大阪湖、京都盆地に進入していた。
- ・50 万年前、六甲山地、生駒山地が出来る。
- ・30~20 万年前、大和川断層の活動で今の和川左岸に当たる明神山系の北斜面が盛り上がり地滑りを起こして今の和川ルートが形成される。大和川は花崗岩から成る生駒山系と火山岩から成る明神山系の間を流れる。
- ・2 万年前、氷河期になり瀬戸内海も大阪湾も陸地化。
- ・6000 年前、温暖化で海水面が上昇、いわゆる縄文海進。
- ・5500 年前、河内湾の海岸線に縄文遺跡。
- ・2000 年前、土砂の流入が進み河内湖となり稲作が行われる。寝屋川市讀良条遺跡(持統天皇は幼名を鵜野の讀良〔さらら〕、母は蘇我の倉山石川麻呂の娘、越智のイラツメだったのでこの辺りに所領があったと思われる。近くに鳴野〔しぎの〕、鶴橋という地名もあり、この辺りは汽水域で様々な鳥が飛来していたことをうかがわせる)。
- ・纏向(まきむく)遺跡と河内の遺跡は大和川で結ばれていた。
- ・葺屋(しとみや)北遺跡からは5世紀前半の馬の骨が出土する(船で運ばれた馬が放たれて生き生きと元気になったので「生駒」の地名の元になった)。
- ・百濟は475年に高句麗に攻められてソウルが陥落、南に逃げたがその時に多くの人が王族と共に日本にやってきて先端技術を伝えた。代わりに日本には軍事的支援を求めた。
- ・大和川を見下ろす尾根の先端に位置する高井田山古墳群、松岳(まつおか)山古墳群は支配する土地を持たなかったが生産を支配するこれらの人たちの墓ではなかったか。西の方に大阪湾、瀬戸内海を望み自分たちのやって来た朝鮮半島の方向を見ることが出来る土地ではないかと推測。

- ・7世紀前半の難波から飛鳥への道
難波~四天王寺~渋川道(大津道)
~八尾街道~長尾街道~竜田道
(これはほぼ国道25号線のルート、
昭和33年に阪奈有料道路が出来る
まで車の通れる道はこれしか無かった)
~斑鳩~小墾田宮
7世紀になって穴虫峠ルート、竹ノ内峠
ルートが追加された



(高井田横穴古墳群と松岳山古墳の位置)

- ・730年頃に聖武天皇が河内6寺に参拝。その時の行幸ルートに河内大橋が架けられた。竜田道の安堂家原から西の渋川道に至る橋。中でも知識寺には塑像の大仏があり、聖武天皇は740年にこれを参拝して疫病退散、国家安寧のために金銅仏の大仏建立を思いついた。知識寺の大仏は1086年に崩壊した。
- ・788年に和氣清麻呂が四天王寺の南を東西に掘り抜こうと工事を試みたが失敗。今もその痕跡はJR大和路線の東部市場から茶臼山の川底地までたどることが出来る。
- ・13世紀には大和川に連続堤防が作られて17世紀後半まで洪水はそれほど目立たなかった。しかし①17世紀前半から戦乱の復興需要、照明のための松の木の根っこの需要が高まり、近畿一円で山林の伐採が進み土砂の流出が激しくなった。②1609年、片桐勝元が自分の所領となった大和郡山のお米を大阪に運ぶために亀の瀬の船運を実現しようとして掘削を試みたが失敗、流れが良くなった分だけ土砂がより多く流れるようになった。その結果、河床が高くなり大和川流域でも洪水が相次いだ(このほかにこの時代は寒冷期でよく雨が降ったとの研究もある)。

(2) 大和川の付け替え

- ・中甚兵衛の10代目の子孫、中九兵衛氏が2004年に付け替え300年を機に出版した「甚兵衛と大和川」(大阪書籍)は力作だ。この中で付け替え250年を機に建てられた顕彰碑などに甚兵衛の父も甚兵衛という名前で、その時代から付け替え運動が行われていたとする記述があるがそれには証拠がないと否定している。地元の小学校の教科書もその記述に基づいて書かれている。しかし甚兵衛本人が19歳で江戸に行ったことは事実だが、そこで付け替え歎願をしたことについては、証拠はない。この点については否定せずそのまま踏襲している。この部分が安村氏の研究では否定されている。中甚兵衛の生家は東大阪市の今米にあった。近鉄東大阪線吉田駅から北へ300mほど。
- ・1659年に幕府に対して治水の嘆願書が出された。山中治郎兵衛(1634~1696)と曾根三郎右衛門(1639~1706)による。中甚兵衛(1639~1730)はその時江戸にいた。(1657年に明暦の大火があり、次男の中甚兵衛は19歳で復興工事の盛んな江戸へ日銭稼ぎに行ったのではないかと推測。200両のお金を貯めた後、金貸しと組んで小口金融の様なことをしている。この期間に金銭感覚を磨いたことは確かだろう。中九兵衛氏の本には1693年に甚兵衛が親族との土地係争に際しての奉行所の身元改めに対して「16年間江戸に滞在し蓄えをした」と述べた記録がある)。
- ・1660年、幕府が最初の検分を行った。
- ・1674年、1675年、大和川の支流の玉串川で堤防が切れた。
- ・1683年、幕府による5回目の検分。この時河村瑞賢(1618~1699)が同行。淀川河口の水はけを良くすることで河内の水はけも良くなると思った。
- ・1684年2月、着工。九条島の中央に幅40間(72m)の新川(安治川)を掘削した。(平城京の都大路とはほぼ同じ幅)
- ・1698年5月、第2期工事として西横堀と木津川の間に幅30間(54m)、長さ12町(1,300m)の堀江川を掘削し一連の工事が終わる。大阪の町づくりには貢献したが、大和川の洪水は減らず。
- ・その頃、1687年1月頃、中家の古文書に作成者、あて名部分が鋭利な刃物で切り取られた不思議な嘆願書がある。連名で名を連ねている他の村からは発見されていない。それどころか同一人物が署名して適当にハンコを押したように見える。その直後の1687年3月に別の治水工事にして欲しいとの嘆願書が出された。幕府から厳しい回答があったから大和川付け替えをあきらめて切り替えたのではないかと推測。
- ・付け替えにはもちろん反対運動があった。①土地が無くなる ②南岸に水がたまる(実際に西除け川、東除け川の大水害が1982年に起こり、狭山池ダムの建設、阪神高速道路の大和川左岸線の難工事につながっている) ③北岸は水不足になる ④主要な6街道が分断され橋を架けなくてはならなくなる ⑤河口に土砂がたまり港が使えなくなる(天然の良港だった堺の港は土砂で埋まり江戸時代を通じて堺は没落した。それを回復するための堺泉北臨海工業地帯の造成だったが成功かどうか評価は分かれる。今ならこれに加えて埋蔵文化財、古墳の破壊が行われたこともマイナスだ)。
- ・反対論の方が筋が通っており幕府もずっと反対派で、河村瑞賢とともに付け替え不要論だった。ところが突如1703年に検分が行われ1687年以来付け替えの嘆願書が出されていないのに付け替えが決まった。なぜか?
- ・1698年5月に大阪奉行所に万年長十郎が赴任。堤奉行として着々と準備を進めていた。1703年の検分には中甚兵衛が同行していた。最後の付け替え要望から16年、突然の決定の裏に何があったのか。一般には中甚兵衛の粘り強い歎願があったからだということになっているが、著者はそうは見ない。経済官僚である万年長十郎がそろばんをはじいて、幕府の負担ゼロで田畑を増やす秘策を思いつき、幕府の勘定奉行萩原重秀(おざわらしげひで、ケインズよりも200年早く貨幣経済を先導したが晩年に失脚)を説得したからではないか(そのため1687年の嘆願書も幕府上層部に見せるために中甚兵衛と共謀して偽造したのではないかと推測)。
- ・幕府の付け替えの理由。①瑞賢の工事でも洪水は無くならなかった ②万年長十郎が町人による新田開発の経済効果に目を付けた ③付け替え不要論者の河村瑞賢が死んだ ④付け替え要望が地元から続いていた(これが偽造くさい) ⑤新田開発メリットを積算し町人に入札参加させた ⑥付け替えに大名手強い普請という手法を取り入れ、大名の力を削ぐことをねらった。上流半分は幕府、下流半分は大名。幕府の支出37500両はとりあえず大阪城の御金蔵から出すが新田開発の地代金として同額を回収する。この手法は木曾川などこれ以後の大名普請の先駆けとなった ⑦河床掘削を少なくし盛土とはほぼ同量にした
- ・以上から幕府にとって全く財政負担にならず、年貢の増収というメリットのみが得られると判断した(経済官僚万年長十郎と地元事情に精通しそろばん勘定に強い利発な中甚兵衛の合作によるプロジェクトではなかったか。子孫の九兵衛さんには悪いが中甚兵衛さんからは篤農家という印象は受けず、土地転がしをするデベロッパーの使い走りの様な印象を受ける)。

・工事はどのように進められたのか

延長 13.9 km、比高 16.54 m（100 m につき 11.7 cm 下る）、堤防の底辺は 15 間、頂部は 3 間、高さは 3 間、断面積は 27 坪、堤防の土砂の量は 27 坪× 2900 間 =78,300 坪、川幅は 143 間（257.4 m）、作業員は 1 坪当たり 5 人として 391,500 人が必要と積算付帯工事も含めて

盛土 201,320 坪に 976,280 人

掘削 221,250 坪に 1,469,375 人

合計 2,445,655 人が必要

代銀は 1 人 1 匁 5 分として 3,668 貫 482 匁（61,141 両）、金 1 両は銀 60 匁

・発掘調査の結果では工事を急いだため、元の地面の草刈りが行われていない。近くで掘った土砂を堤防に使ったので不適な土もあった。また工事途中の叩き締めも行われていない。その結果、工事は 1704 年 2 月 27 日から 10 月 13 日の 8 か月で完成。半分は幕府直轄、残り半分は姫路、岸和田、三田、明石、高取、柏原（かいばら）の 6 藩の分担。

・人足はのべ 280 万人、1 日平均 1.2 万人、大阪の請負人が集めて正当な日当を支払った。

仕組みは、担当区域の代官手代→有力農民が 1 町ごとに請負→大阪の土木請負業者→人足請負人小頭。

これらの人足は新ルート周辺の農家で宿をとった。それにより沿線の村々にわずかでも現金収入が入るように配慮し不満を抑えた(1 両 20 万円として 1 匁 5 分は 5,000 円となるが 1702 年はもう少し値打ちがあったかもしれない。頑張って 200 日働いたら 100 万円ほどの収入になる。食費、宿賃を差し引いても 50 万円くらいは残っただろう。この時代には労働者を集める口入屋が発達していて、甚兵衛も明暦の大火の後の募集に応じて江戸へ行き、小銭を貯めたのではないかと思う)。

・新田開発はどのように進められたか

旧川筋では新田開発の入札が進められた。古川筋では 1 反につき平均 3 両 2 分。新大和川による潰れ地 274 町に対して新田は 1,063 町。幕府の収入は 37,200 両、支出の 37,500 両を回収した。

・鴻池新田 200 町歩（実測 221 町歩）は商人が田畑を持ってないので土木請負業者の大和屋六兵衛と讃良郡庄屋の長兵衛が落札。その後鴻池に譲渡。そのうち 2,000 両相当の 40 町歩を謝礼として受け取る。それを中甚兵衛に譲る。中甚兵衛は半分を売却、残りを隠居地にしたがそれも後に鴻池に売却（これらの新田は農業の収穫としては大きな利益を生むものではなかったのに投機の対象になっているような感じがする）。

（3）付け替え後の変遷

・灌漑用水路としては長瀬川、玉櫛側がある（長瀬川は戦後、工業用排水が流され 5 色の川と言われたが今は遊歩道が整備され受益農地もほとんどなくなったが毎秒 2 トンの農業用水が流れている。2018.8 世界灌漑施設遺産に登録された）。

・旧川筋は砂地で給水に苦労していたので綿作が盛んになった。各農家で綿繰り、綿打ち、さらに反物を作るためには工作機械が必要で有力な庄屋の仕事になった。

・水田は深野池（ふこのいけ）、新開池などの跡地で行われた。綿は商品価値が高く男も働いた。栽培のためには金肥が必要で干しイワシや菜種粕が使われた。

・鴻池新田会所では収穫物の管理、年貢の納入などの事務を行った。労働者は周辺から通う小作人だった。

・亀の瀬について

最も狭い所に亀の形をした巨岩がある。亀の瀬は古代から船が通れなかった。1609 年、片桐勝元が船を通そうとして掘削を試みたが失敗した。

・河内サイドでは剣先舟、大和サイドでは魚梁舟（築舟）が使われた。

・大和川でも水の勢いを減らすための「菱牛」が使われていた。これまで武田信玄のアイデアとして聖牛（三角牛）の例が中部、関東ではあるが大和川にはないと言われてきた。しかし国分では発掘調査の結果、多数の例が発見された。

・江戸時代、剣先舟は条件が良ければ稀に大和まで行けたようだが、船の運航業者の利権や奉行の管轄が違うことからコンスタントには行くことが出来ず、亀の瀬で荷物を降ろして 1 km の峠を人力で越えていた。

・明治 16（1883）年には亀の瀬に堰が出来て水位調節が可能になり人が乗った船の運航が行われた。田原本の石見浜から道頓堀まで 13 時間で運行した記録がある。しかしそれも一瞬で明治 25（1992）年、鉄道の亀の瀬トンネルが開通、奈良・湊町が結ばれた。

・1636 年に平野の末吉孫左衛門が始めた柏原船も明治 40（1907）年に最後の 2 艘が廃業となった。

・大和川は明治時代までは清流だったが、高度成長期には生活排水により汚染され、全国 1~2 を競う汚い川になった。しかし今では下水道が普及したのでアユが遡るほどになった。

・大和川の付け替え工事によって船橋遺跡、瓜破遺跡が川床になった。洪水の後には河原に土器が現れる。一部は弥生文化博物館や柏原市立歴史資料館に買い取られたが多くは持ち去られた。

・JR 大和路線の柏原、八尾、近鉄の恩智、河内山本などの鉄道ルートは旧川床を利用している。そう言う所は天井川の跡なので周囲よりも高い。しかも畑地だったのでまとまった土地が確保できる。八尾高校、山本高校、金光八尾高校、花園ラグビー場、大規模な工場なども。広い土地と豊富な伏流水が魅力（土地利用から旧大和川の天井川の川筋を想像することが出来る）。

・亀の瀬の地滑りは昔からの課題だが、近年では明治 36（1903）年と昭和 6（1931）年、昭和 42（1967）年に大規模に発生している。地滑りの原因は数百万年前に噴火した大和川北側のドロコロ火山の溶岩の上に、粘土層が堆積しその上に再び火山の溶岩が降り注ぎサンドイッチ状の地層になった。大雨が降ると真ん中の粘土層に水が入り膨らんで上層のドロコロ溶岩と共に崩れ落ちることによる。この対策は難工事だがようやく国土交通省により本格的に手が付けられ、昭和 37（1962）年に始まり平成 23（2011）年に一応の完成を見るに至った。現在は水抜き施設の管理、モニタリングが継続されるとともに、JR の旧トンネルを見学する施設も完備されて賑わっている。この歴史資料室は大阪府側の柏原市峠地先にある。

3. 現代の行政による付け替え後遺症への対応

今さら大和川の付け替えの功罪を論じても仕方がないが、その後の変遷を見るとマイナスの方が大きかったような気がする。もしも元の川筋で氾濫が繰り返され土砂が運ばれていたらもっと標高の高い土地が出来ていたのではないか。門真、寝屋川の辺りは内陸深く入った地域なのに標高が 1 m 程度しかない所も多い。旧大和川水系や寝屋川水系の水が集まる河川は大阪湾の潮位変化により逆流する感潮河川で、ポンプによる排水や大規模な地下河川による貯留が欠かせない。洪水対策として元の池を利用して治水緑地が多数整備されているがこんな人工的なことをする費用は新田開発のメリットをはるかに越えていると思う。また低湿地が残されていたら自然豊かに鳴や鶉、鶴を始め水鳥が多く飛来する名物地域になっていたかも知れない。しかし、もしも付け替えが無かったら大和川の土砂は京橋口に集中して中之島は埋まり、梅田の方向に新淀川が付け替えられて今の都心の姿は全く違ったものになっていたかも知れない。以下に行政が行ってきた大和川付け替えの後遺症対策を列挙する。

（1）大東水害（1972 年 7 月）をきっかけとする治水対策

ア、治水緑地

- 寝屋川治水緑地：大東市、1991 年、50.3 ha、146 万㎡
- 1999 年豪雨で 92 万㎡貯留
- 打上川治水緑地：、寝屋川市、1997 年、13.3 ha、27 万㎡
- 花園多目的遊水池：東大阪市、2001 年、14 ha、32 万㎡
- 恩智川治水緑地（池島、福万寺）：八尾市、2002 年、40.2 ha、165 万㎡
- 恩智川多目的遊水池（法善寺）：柏原市、2010 年から工事中、16.1 万㎡
- イ、地下貯留、排水施設

- なにわ大放水路：大阪市、2000 年、12.2 km、内径 6.5 m
- 住吉川に 6 台のポンプで毎秒 73 ㎡を放水（1 時間に 26.28 万㎡）
- 寝屋川北部地下河川：大阪府、2021 年、守口調節池、26 万㎡、下水道補助幹線と合わせると 46 万㎡

（2）西除川、東除川水害（1982 年 7 月）をきっかけとする治水対策

ア、阪神高速大和川線：2013 年~2020 年、9.7 km、大和川スーパー堤防を建設し、その地下に高速道路を建設（淀川左岸線も同様にスーパー堤防を建設しながら高速道路を建設中、2032 年完成予定）

イ、狭山池改修：1988 年~1997 年、7 世紀前半に造られた農業用ため池を 3 m 掘削、堤防を 1.1 m かさ上げし 280 万㎡の貯水が可能に

（参考）

ア、滝畑ダム：1973 年～ 1982 年、大和川に注ぐ石川の上流、堤高 62 m、総貯水量 934 万㎡、うち洪水調節 340 万㎡

イ、琵琶湖総合開発：1972 年~1992 年、琵琶湖沿岸の整備により、平均水位より +1 m、

マイナス 1.5 m の水位調節を可能とした。琵琶湖は 700 km² あるので 1 cm が 700 万 m³ に相当する。下流の水源として渇水時にも毎秒 40 m³ の取水を確保した。

4. その他こぼれ話

・河村瑞賢 (1618 年~1699 年)、南伊勢の人。1657 年の明暦の大火の後、木曾の木材を買い占めて巨利を得て豪商となる。蝦夷地と江戸を結ぶ日本海航路、太平洋航路を開拓し物流の革新に貢献。大坂の治水についてもまず都心の水はけを良くすることで河内の治水も改善すると考え、安治川、堀江川の掘削を行った。
・幕府の財政窮乏と改革派の登用

3 代将軍家光の時代に徳川家の確固たる支配体制が固められたが、そのためには高原・天草の乱の鎮圧、その後の家康の神格化のための日光東照宮造営のための費用が膨大なものだった。加えて 4 代家綱時代、1657 年、明暦の大火が発生、その復興にも費用がかかった。1674 年、幕府は慣例を破り一気に 32 人の若手幕臣を勘定所に召し出した。その中に 17 歳の荻原彦次郎 (1658 年~1713 年、後に重秀) がいた。天才的才能を発揮し頭角を現し、太閤秀吉以来の本格的検地を行い、怠惰な代官や奉行を一掃し、幕府の税収を向上させた。佐渡奉行にも任命され、生産が下り坂の金山に水抜きトンネルを掘る大規模投資を行い再生させた。長崎会所の設置、東大寺大仏殿の再建、火山災害賦課金制度の創設、そして最大の功績は 1695 年の貨幣改鑄だった。これはケインズの「雇用・利子および貨幣の一般理論」を 200 年も先取りするものだった。この荻原重秀について堺屋太一は 1982 年の小説「峠の群像」の中で、「將軍綱吉は驚くべき天才を擁していた。(中略) 弱冠 30 歳にして勘定奉行を補佐する要職に就いたのは、国家公務員試験中級職合格で入省した短大卒が勤続 20 年で大蔵省の主計局次長に任じられたようなものだ。」と記した。

・この荻原重秀に天敵がいた。新井白石 (1657 年~1725 年)、荻原より 1 歳年上、家も近所だったが荻原の出世を妬み悪口を多く書き残した。これが後に荻原を悪人とする根拠になった。彼は朱子学者の原理主義者で君臣の秩序、善悪の峻別を説いた。また、貨幣改鑄の様な悪事を行うから天が怒って大地震や富士山の爆発を招いたと主張した。しかし朱子学は実用の役に立たない空論としてやがて陽明学に取って代われ、幕末の大塩平八郎や吉田松陰などの革命思想が生まれた。しかし幕府は体制維持のために朱子学に固執した。

・面白いことにこの両者を雇っていたのが改革派の老中堀田正俊 (1634 年~1684 年) だった。この人は江戸城内で若年寄稲葉正休 (1640 年~1684 年) によって刺し殺される。稲葉が河村瑞賢と共に進めていた大坂の治水工事費 4 万両が高すぎる、2 万両で出来ると指摘されお役御免になったことを恨んでのことだった。その場に居合わせたほかの老中大久保忠朝らによって直ちに切り殺された。1600 年代はまだ戦国の余韻があるのか、刀でけりをつけることが多かった。この稲葉正休は後の忠臣蔵の浅野内匠頭との比較で一刺しで即死させたことが武士らしく立派だと評価されている。内匠頭は吉良上野之介を即死させられなかったことで「土道不覚悟」の烙印を押された。

この堀田正俊の死によっても改革派の勢いは止まらず、荻原重秀の活躍は続いた。それが万年長十郎の大和川付け替えの提案が出てくる背景となっていたと考えられる。

万年長十郎の詳しい経歴は不明だが、1647 年~1725 年、先祖は北面の武士、駿河にいた幕臣で荻原への献策が通じたと思われる。

・荻原の政策は 3 本柱だった。①貨幣改鑄により経済規模に見合った量の貨幣を流通させる ②行政機構を改革して無駄をなくし本来の機能を取り戻す ③民間活力を活用しながらインフラ投資を拡大する 今の政府の政策と基本は変わらないのが、当たり前だが驚きだ。

・荻原重秀は将軍が家宣から幼少の家継に代わったのち、権力を握った新井白石により役職を追われ、不審な死を遂げる。荻原の一族や関係者も悲惨な結末をたどる。

・新井白石も将軍吉宗の時代になってあまりの教条主義により失脚するが、その後の幕府の 3 大改革の中に朱子学は根強く痕跡を残す。

新井白石の時代 (正徳の治 1709 年~1716 年) 君臣秩序の厳守、貨幣改鑄の復元、長崎貿易の縮小

享保の改革 (1716 年~1745 年) 質素儉約、武芸奨励、目安箱の設置

寛政の改革 (1778 年~1793 年) 質素儉約、武芸奨励、朱子学奨励

天保の改革 (1841 年~1843 年) 質素儉約、出版・風俗取り締まり、流通規制

・こうして大局的に眺めると、新井白石によって幕府の経済政策が歪められ社会の発展の芽が摘まれてしまったという印象を受ける。

・しかし新井白石にも大きな功績がある。皇統が絶えることを懸念して 1710 年、閑院宮家の創設を献言した。その結果、1780 年に光格天皇が即位し今日の天皇家につながっている。人の評価は難しい。

二水会・三金会の講演一覧 (2023 年 3 月~2023 年 8 月)

二水会・三金会連絡担当 藤田 久美 (1977 (S52) 文哲)

北大会館で毎月開催される二水会 (第二水曜日) と三金会 (第三金曜日) では、識者に特別講演を頂きその後歓談して同窓生相互の親睦を深め交流しています。コロナへの対応で Zoom での開催も併用し順調に開催できておりますが、食事は個別の弁当、できるだけマスク着用など、まだまだ用心が必要です。

二水会

2023/3/8 北口 久雄 (S41 理)
「松浦武四郎の十勝越え」

2023/4/12 大橋 人司 (S56 水)
「マグロのいろいろな話」

2023/5/12 山本 雅彦 (S54 農)
「岸和田城・だんじり会館・自然資料館見学会」

2023/6/14 末吉 徹 (S44 京大法)
「古代の河内平野とその後の変遷」

2023/7/12 田島 朋子 (S54 獣医)
「マダニにご注意! その生態と感染症媒介動物としての危険性」

2023/8/9 9 月に延期

三金会

2023/3/24 八田 和之
(H1 農デニカ(株)代表取締役)
「スイスとオーストリアの国境付近の社会」

2023/4/21 金森 大悟 (H9 同志社大神学部)
「プーチンを祝福するロシア正教会キリル総主教と政治世界」後編
会館祭と近接のため休会

2023/6/30 多田 光男 (大和ハウス工業(株)勤務)
「中国の住宅事情聴取」

2023/7/21 事務局都合により中止

2023/8/18 9 月に延期



2023年度「東京同窓会」と「京都エルム会」 総会・講演会・懇親会の報告

北海道大学関西同窓会 会長 植松 高志 (1973 (S48) 法)



2023年5月吉日の日付で2023年度東京同窓会総会のご案内を次のような文面でいただいた。「…本年度は新型コロナウイルスの影響も緩和してきたものと判断し、対面形式とオンライン会議形式とのハイブリッドでの開催とさせていただきます。ご来臨賜りたく、お願い申し上げます。ご来臨賜りたく、お願い申し上げます。ご来臨賜りたく、お願い申し上げます。」

その1ヵ月後には、京都エルム会からも総会のご案内をいただいた。

関西同窓会もコロナ対策が緩和されたのでリアルでの行事が開催されるようになってきている。私は両同窓会総会に4年振りに出席させていただくことにした。

関西同窓会もコロナ対策が緩和されたのでリアルでの行事が開催されるようになってきている。私は両同窓会総会に4年振りに出席させていただくことにした。

東京同窓会 総会・講演会・懇親会の概要

日時：2023年6月10日(土) 17:30～20:30
場所：ピアホールライオン銀座7丁目店 6F 銀座クラシックホール

参加者：会員48名・来賓他7名・オンライン参加者約20名 合計約75名

【1】総会議案と報告事項(当日配布の資料より)

●2022年度事業報告

①会員拡大並びに組織強化活動

- ・実績2,476名(正会員913名(前年比2名増加)、メルマガ会員1,563名(6名減少))
- ・総会(2022/6/11)は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン会議形式にて実施
- ・東京ジンパ2022は新型コロナウイルス感染症の影響により中止
- ・交流勉強会『北大丸の内カレッジ』をオンラインにて継続して開催
- ・新年交礼会(2023/1/20)はハイブリッド形式にて実施(寶金総長オンライン参加)
- ・産業別エルム会(情報産業エルム会、食品産業エルム会)との交流促進

- ・各学部・学科東京地区同窓会との連携(2023/2/16事務局長会議開催)
- ・他地区同窓会との連携(2023/2/18中部地区同窓会設立総会に横田会長出席)
- ・『クラーク遺徳顕彰』(2022/10/9多磨霊園墓参、19名参加)
- ②財政基盤の強化
 - ・単年度会計：繰越金300万円維持に対して、実績：400万円となる
 - ・中長期会計：繰越金500万円維持に対して、545万円となる
 - ・総合繰越金合計：繰越金800万円維持に対して、945万円となる
- ③広報・会員コミュニケーションの拡充
 - ・広報誌「FRONTIER」を8月・2月に発行
 - ・「メールマガジン」発行、ネット会員の拡充
- ④募金・産学連携
 - ・産学連携や大学施設の活用に関して、上場企業等の大学への紹介
 - ・大学発スタートアップの育成(起業支援とVC・金融機関の紹介等)
- ⑤総会・役員会の開催(オンライン開催)
 - ・総会1回、評議員会2回、理事会4回、顧問・各学部・学科同窓会事務局会議1回
- ⑥校友会エルムの支援
 - ・校友会エルム主催の就職相談会(オンライン形式)の支援
 - ・告知協力依頼への対応(メルマガ配信・HP掲載)
- 2023年度事業計画
 - ・コロナ後を見据えて、「会員拡大並び組織強化活動」「財政基盤の強化」「広報・会員コミュニケーションの拡充」「募金・産学連携」「総会・役員会等の開催」「委員会組織の強化」「校友会エルムの支援」等を推進する
 - ・組織交流の場として「第8回北大東京ジンパ」を2023年5月21日に300名限定開催。2024年には「ギネス世界記録挑戦(2,000人参加)」を企画する
 - ・卒業生電子名簿・卒業生連携ネットワークシステムを活用した加入促進を行う

【2】東京同窓会の「役員・委員会・評議員」について
*当日配布の資料を分析してみると、関西同窓会にとって大変参考になることが多々あり今後に生かしていきたい。

【役員(50名)の構成】

- ・会長(1名)副会長(6名)理事(37名)特命理事(3名)監事(3名)
 - ・卒年別：昭和卒33名で66%・平成卒17名で34%
 - ・女性役員：50名中4名で8%
- 関西同窓会の役員90名の構成
- ・会長(1名)副会長(19名)理事(47名)監査役(2名)相談役(2名)顧問(10名)評議員(9名)
 - ・卒年別：昭和卒72名で80%・平成卒18名で20%
 - ・女性役員：90名中6名で7%

【委員会(7委員会65名)の構成】

- ・総務委員会(11名)組織・交流委員会(13名)財務委員会(3名)広報委員会(9名)情報処理委員会(9名)募金・産学連携委員会(14名)クラーク遺徳顕彰・墓参(6名)
- ・卒年別：昭和卒23名で35%・平成卒42名で65%
- ・女性委員：65名中9名で14%

→関西同窓会(6委員会44名)の構成

- ・総務企画委員会(9名)会計経理委員会(2名)産学連携委員会(5名)会報編集委員会(10名)情報処理委員会(9名)会員増強委員会(9名)
- ・卒年別：昭和卒31名で70%・平成卒13名で30%
- ・女性委員：44名中3名で7%

【学部評議員(92名)の構成】

- ・農学部(11名)獣医学部(3名)薬学部(2名)医学部(7名)歯学部(2名)理学部(5名)工学部(28名)水産学部(4名)文学部(4名)教育学部(1名)法学部(15名)経済学部(10名)
- ・卒年別：昭和卒51名で55% 平成卒41名で45%
- ・女性学部評議員：92名中10名で11% 昭和卒2名で20% 平成卒8名で80%

【世代評議員(79名)の構成】

- ・20歳代(2名)30歳代(18名)40歳代(12名)50歳代(22名)60歳代(25名)
- ・卒年別世代評議員：昭和卒25名で32% 平成卒54名で68%
- ・女性世代評議員：79名中9名で11% 全員平成卒

＜東京同窓会の役員・委員会・評議員の延べ人員と実人員＞

・役員(50名)・委員会(65名)・学部評議員(92名)・世代評議員(79名)の延べ人員合計は286名。実人員合計は163名

・東京同窓会の163名が同窓会組織に関わり、同窓会活動をリードしている

→関西同窓会には「学部と世代評議員」の組織はない。また、「各学部・学科東京地区同窓会の事務局会議を開催」していることは、今後、関西同窓会の会員増強を推進するためにも参考になる。さらに、役員構成をみると「若返り」が必要である。

*関西同窓会の他の同窓会にはない特徴は、活動の拠点である「北大会館」を同窓生の拠出により取得し、会館を管理運営するために「一般社団法人北海道大学関西同窓会館」を設立していることである。その管理運営組織は理事会(理事14名・監事2名)であり毎月1回理事会を開催し、各種行事企画・開催や会館維持管理を行っている。また、貸会議室や貸事務所の事業も行っている。

【3】講演会「寶金総長：北海道大学創基150周年(2026年)に向けて(30分間)」



講演される寶金総長

総長の講演は「創基150周年を迎えるにあたり」であったが、講演冒頭の「マサチューセッツ州への懐かしい訪問」のお話が特に印象に残ったのでその概略を紹介する(北大HPの総長コラムも参考にした)。

○2023年4月に本学の初代教頭クラーク博士が校長を務めたマサチューセッツ農科大学(現在のマサチューセッツ州立大学アマースト校)を訪ね、また、クラーク博士の墓参りをする事ができた。今回の訪問では、私のクラーク博士への思い、そして、マサチューセッツ州立大学アマースト校と北海道大学が他に類を見ない友好関係にあることを知り大変感銘を覚えた。

○クラーク博士は、南北戦争・北軍に志願した熱血漢であった。マサチューセッツ農科大学の学長であった時、明治政府の招きに応じ休学して、明治維新直後の1876年に全く未知の北海道に来て札幌農学校設立の支援をした。札幌で8カ月余の短い滞在中に1期生と寝食を共にして北大の基盤を確立した。クラーク博士は帰国して起業したが不幸も重なり8年後の60歳で亡くなった。彼の人生は「男の子は野心的であれ」と明確に表現する挑戦の連続であり、名声や富を求めるのではなく「高尚な野心」の生き方の模範を示したように思う。

○クラーク博士の墓石には、William Smith Clarkと大きな文字で刻まれており、彼の人生の物語が説明されていた。彼の想像を絶する苦難や困難を知るにつけ、クラーク博士の墓地から改めて励ましの言葉をもらったような気がした。

○マサチューセッツ大学アマースト校は、優れた包括的な研究集約型のランドグラント大学として高い評判を得ている。特に、情報学とコンピュータサイエンス、農業、材料科学工学、ヘルスケア科学において、世界クラスの優れた研究を生み出している。クラーク博士は大学の基礎を築いた特別な人物であり、今日でも深く尊敬されている。キャンパスの中央には後継者のブルックス博士が150年前に北海道から持ち帰ったニレの木が見事に成長していた。

○今年の初めにクラーク博士の子孫が総長室を訪れ、祖先であるウィリアム・S・クラークの北大における偉大な業績に感銘を受けておられた。

海外の大学とこれほど強い姉妹関係にある国立大学は他にはない。この比類なき協力関係を将来にわたって維持し深めていくことは、北大にとってかけがえのない財産であり、クラーク博士の崇高な野望の実践であると確信している。

【4】懇親会での出会いと交流

懇親会では多くの方々とお話することができた。4年前の総会で名刺交換した方との再会に加え、今回は14名の方と新たに名刺交換し、北大時代と近況等々の話に花が咲いた。その中で印象に残ったいくつかを紹介する。

○「関西同窓会ではお世話になりましたが今は東京に転勤になっています。また、北大会館に興味を持ちました。私は関西の出身です。」と私の席に3名の方が来られた。千葉俊明氏(H8農・農経)「昨年は妻と一緒に初めて関西同窓会の「文楽鑑賞会」に参加しました。自宅は千里、この4月から日本

橋支店に転勤となり単身赴任しています。今年も文楽鑑賞会はありますか？」篠原繁則氏(S51工・建築)「温度と湿度の専門メーカーに勤務していますが、大阪に会社の事務所がありよく関西にも行きます。先ほどの挨拶の中で、関西同窓会では同窓生がお金を出し合い北大会館を取得したことを知りました。大阪出張の折には訪問したいと思います。」安永喜勝氏(H12工・土木)「私は弁理士で弁理士法人の横浜支所長をしていますが、植松さんは大和郡山市に住んでいるんですね。私の実家は奈良市の西の京でとても近いですね。帰省した折には是非お会いしたいですね。」

○2017年に関西同窓会総会・特別講演で講師をしていただいた谷明人氏(S60工・資源)と久々にお会いした。「私は、重盛徹志(S41理：関西同窓会副会長)さんから頼まれて、講演会の講師をした谷明人です。経済産業省技官を退官し、お茶ノ水女子大理事をした後、JX金属戦略技研(株)の社長をしています。一度、東西対抗ゴルフでもしたいですね。東はここにいる志済聡子さん(S61法→日本IBM→中外製薬上席執行役員)と私、西は重盛さんと植松さん。重盛さんによるしくお伝えください。」アルコールも入っているせいかなんと「ゴルフの挑戦」を受けた。

○資料と新聞記事を持って私の席に来られたのは、並木秀夫氏(S57水産・食品)。差し出された名刺には「新渡戸の夢映画製作委員会。ドキュメンタリー映画“新渡戸の夢”会長(兼)事務局長ゼネラルプロデューサー」とあった。彼から頂いた新聞記事の概要を紹介すると、「新渡戸の夢を映画に～私費を投じた夜学校追う～：埼玉県在住の映画監督らが、札幌農学校教授などを務めた新渡戸稲造の教育者としての側面に光を当てたドキュメンタリー映画の製作を進めている。教育を受ける機会がなかった人々のために新渡戸が私費を投じて作った学校「遠友夜学校」や、その精神を継ぐ札幌の自主夜間中学「札幌遠友塾」を追う内容。新渡戸の没後90年となる来年(2023年)秋の公開を目指している。タイトルは「新渡戸の夢」。・・・ドキュメンタリー映画の配信サイトを運営する北大出身の並木秀夫さん(64)がプロデューサーを務める。・・・」とあった。また「2023年6月新渡戸の夢と語る@オンライン・イベントのお知らせ」のチラシも頂いた。「日時:6月15日(木) 演題:クラークを語る 演者:藤田正一氏」とあった。藤田正一氏は第54代応援団長、恵迪寮同窓会副理事長で私の先輩。元北大副学長、平成遠友夜

学校創設者・校長でもある。藤田氏は獣医学部の教授をされていたが、クラーク博士のこと、新渡戸稲造のこと、札幌農学校の精神を継承する恵迪寮のことを語ると右に出る者はいない尊敬する先輩である。

○私は帰りの新幹線の関係で最後の肩を組んでの“都ぞ弥生”の斉唱には参加できなかった。翌日、私の同期である坂倉東日本恵迪寮同窓会会長から、「北大の誇るべき寮歌を久々に謳うことができ、参加者一同北大愛を一層深めることができた」との報告を頂いた。



懇親会の様子

京都エルム会 講演会・総会・懇親会の概要

日時：2023年7月14日(金) 18:30～20:30
場所：グランビアホテル京都 三宝の間
参加者：会員24名 来賓他3名 合計27名

【頂いた「資料」から活動内容等】

・2022年10月1日に3年ぶりに京都エルム会総会を開催した。寶金総長もお招きし20名ほどの参加者ながら盛大に行うことができた。本年5月14日に予定していた「琵琶湖ジンパ」は雨模様の天気予報につき、残念ながら中止とさせていただいた。

・2019年7月～2023年6月までの会計報告。(次期繰越金は443,581円)

・「会員便り」が30名の会員から寄せられ4ページにわたり掲載されていた。

・京都エルム会会員名簿(学部別128名)の内訳
農学部(25名) 理学部(13名) 工学部(25名) 水産学部(17名) 薬学部(6名) 教育学部(3名) 文学部(3名) 法学部(14名) 経済学部(5名) 獣医学部(10名) 医学部(7名)

*今回の参加者は27名。私(S48卒)より年配者は4名、平成卒業者は6名と若い方々が多く、また、現役会社員に加え事業経営者、医者、弁護士、

大学教授など各界で活躍している方が目立った。

【関西同窓会会長 植松からの挨拶】

関西同窓会は昨年(2022年)に60周年(昭和37年・1962年設立)を迎えました。私は60周年を振り返り今後のヒントを貰おうと、私たちの会報「Be ambitious」の創刊号(1979年)から第86号(2022年3月)に目を通しました。実に3,300ページもあり関西同窓会の歩んできた道を振り返ることができました。関西同窓会の設立に至る経緯を簡潔に紹介しますと、①昭和30年頃3人の有志が近畿地区に在住する同窓生の名簿を整理し昭和4～28年までの卒業生41名に声をかけた。②昭和32年に杉野目総長がクラーク会館建設の資金集めに来阪されたのを機に、名簿整理が行われ同窓会設立を加速させた。③昭和37年に機が熟し、サッポロビール大阪工場で発起人会・第1回総会が開催され70名が参加した。

次に京都エルム会のことがかかれていました。『古くから京都では木原先生(北大出身・小麦の遺伝子発見→京大教授)の頃より、京都大学の先生を中心とした同窓会の集まりの京都エルム会があった。関西同窓会の初代会長に就任した並河功氏は京都大学名誉教授であり大阪府立大学学長であった。』というように、関西同窓会は大先輩である京都エルム会とは深い関係があります。小谷達雄京都エルム会会長には関西同窓会の副会長もしていただいておりますが、今後とも交流を深め宜しくお願いします。

【講演会(30分)】

講師：関 恵(H12 経済卒)

演題：「命は命で元気になる～発酵食を台所に取り戻す～」

関さんの自己紹介と、事業を立ち上げた経緯と今後に懸ける夢のお話から、「クラーク博士の残した“Be Ambitious”のチャレンジ精神と開拓者魂」を感じ、深く感銘を受けた。私のメモからその概要を紹介したいと思う。(不確かなところもあるがご容赦ください。カモシカのHPも参考にさせていただきました。)

○自己紹介(頂いた名刺)

株式会社 発酵食堂カモシカ 代表取締役 関 恵(Seki Megumi)

「発酵食堂カモシカ」 住所：京都市右京区嵯峨天龍寺若宮町17-1

「発酵食堂カモシカ発酵マルシェ」 住所：京都市右京区嵯峨天龍寺若宮町21-2

○大学時代

私は舞鶴市の生まれで実家は薬局であった。祖父はお寺住職で私の生き方・考え方に影響を与えたと思う。田舎の高校から北大を目指し経済学部で合格することができた。サークルは「歩く会」に入り北海道の山や野に出かけ大自然にどっぷりと浸かった。経済学部では現代社会のゼミに所属した。勉強に集中できず落ち込んでいる時、教授から「スウェーデンのヨーテボリ大学」への留学を薦められ、福祉の現場を経験し、ヘルスケアに関連したことをしたいと思い北大に戻った。

○吉村医院・産婦人科での出産

大学を卒業し、ヘルスケア・マネジメント、外資系会社、ベンチャー企業を経験し結婚した。岡崎市にある「吉村医院産婦人科」で出産したことが私の人生の転換点となった。吉村医院のHPには「当院はなるべく医療介入を避けた自然なお産を推奨しており、妊娠・出産を通して心と身体を健康にしていきます。一人一人の個性を尊重し、女性が持つ本来の力を敬い、寄り添い、見守ってまいります。皆様の生命（いのち）の輝きを支援します。その輝きが、皆様の家族、私たちの社会、そして次世代につながってゆくことを願っています。」との紹介文がある。私はマキ割りをして体を鍛えて自然なお産をすることができた。まさに、「いのちあたたまるお産」をしている医院であり、私はここで学んだことを実践に移して二人目は自宅で出産した。

○事業を立ち上げる

2011年の東日本大震災の時、千葉に住んでいた私と夫は、震災の翌日には愛知の友人宅に避難しお世話になり、故郷の舞鶴に転居した。そこで、これまでの経験・体験をもとに真剣に考えた末、「発酵」をやろうと決意した。リクルートに勤めていた夫や仲間や大学等の知恵も借りて、起業に向けて事業企画書を作成した。特に「本業・オンライン・仕事と家庭の両立」は事業企画書作成の基本とした。2014年に「発酵食堂カモシカ」を京都・嵯峨野にオープンすることができた。カモシカの社名は「醸す家」に因んだものである。以降、毎年事業を拡大し現在では4つの事業（飲食事業、製造・販売事業、ワークショップ事業、コンサルティング事業）を展開している。さらに台湾を皮切りに海外にも事業展開し「カモシカの理念」を広めたいと思っている。

○「カモシカの理念 philosophy」

「命は命で元気になる」

落ち込んでいる時、あったかい味噌汁で気持ちが暖まる。身体がだるい時、お漬物ですっとする。発酵は、人の手の力で促進される微生物のハタラキ。深く対峙する「命」はどちらが先でも後でもなく上でも下でもない。命に活かされ、命を活かす。命は命でしか本当には元気になれない。そうカモシカは考えている。

「発酵の持つ力を伝えたい」

発酵食と言うと何を思い浮かべるだろうか。味噌、醤油、お酒やヨーグルト納豆やパン、甘酒など身近なものから、鯖へしこ、フグの子のぬか漬け、いぶりがっこやチョコレートまで、珍しいものや意外なものも発酵食だったりする。共通しているのは、それら発酵食品が出来る過程でたくさんの微生物達が働いてくれていること。例えば、麹菌がお米に働いて旨味や甘味を醸し出したり、乳酸菌がヨーグルトを作ったり、酵母がパンを膨らませたりなどなど。素材に微生物が働くことで、人間だけでは成し得ないような美味しい食べ物が出来たり、栄養価が上がったり、保存性が格段に増したりする。そんな微生物が引き起こす発酵の賜物の恩恵を、古代から人間はありがたく頂いて来た。一方で発酵を司る微生物たちも元気な発酵を人間の手によって支援されて、相互補完の関係を築いて来たとも言えるだろうか。

「命は命で元気になる」

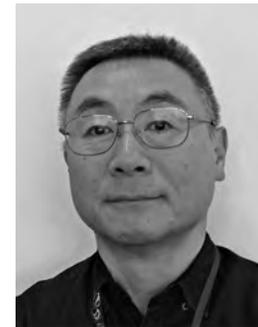
ここでいう「命」は微生物と人間の両方を表している。命ある食を台所に、発酵食を台所に取り戻したいカモシカは発酵の力を信じ抜き、みなさんの台所や食卓に命ある食を取り戻すお手伝いを生業としている。



京都エルム会総会の様子

北海道大学校友会エルム総会に参加して

福井 毅 (1980 (S55) 理生植)



2023年6月13日(火)午後3時から北海道大学工学部 B2 棟 2 階のアカデミックラウンジ 2 にて、令和 5 年度北海道大学校友会エルム定時総会が開催されました。北海道大学関西同窓会からは植松会長と福井が、それぞれ校友会エルム副会長、同理事として会場に

て参加しました。また、校友会エルム評議員である三津関西同窓会副会長は委任状にて参加されました。校友会エルムの活動等を知って頂きたいと思しますので、以下にご報告致します。

6月13日午前中の札幌は晴れていて、北大構内を歩くとポプラの綿毛が沢山飛んでおり在学した頃の懐かしい「北大の初夏」といった雰囲気でした。ところが、午後1時前から急に雨が激しく降り出し、足元が悪い状況となりました。午後2時半くらいに雨が弱まってきたので、工学部の会場へ。

会場に入ると、参加者は三々五々集まり、リモート参加者もスクリーンに表示され始めました。定刻になったので事務局から、理事、監事、代議員併せて57名のところ、会場での参加者14名、リモート参加及び委任状参加26名、合計40名なので定足数を満たしているとの報告があり、杉江校友会エルム会長の司会で総会が始まりました。

I. 報告事項

令和4年度事業報告が笹原事務局長から読み上げられました。収益事業としては、就職学生向けに行っている企業研究セミナー事業と企業PR動画公開サイトの開設、北大生向けのクレジットカード事業ということでした。校友会事業としてはOB/OGによるWeb就職相談会、大学祭支援、ホームカミングデー共催、基礎同窓会への広告掲載等、校友会入会促進活動、個人登録情報管理システムの運営、学生へのTOEIC/TOEFL受験支援、100円朝食助成などでした。特段の質問が無かったので、決議事項に進みました。

II. 決議事項

1号議案は、令和4年度決算報告です。一般会計収入は前年度繰り越しを含めて4,900万円、支出は4,290万円、次年度繰越は620万円。特別会計として会員入会収入が1,500万円、学生支援事業による支出は670万円、これに前年度繰越5,320

万円があるので、次年度繰越は6,140万円でした。この決算案は承認されました。

2号議案の役員選任は、提案どおり承認されました。直ちに新役員は中座し、別室で理事の互選により杉江会長(東京同窓会)、佐々木副会長(法学部同窓会)と植松副会長(関西同窓会)が選出されました。

3号議案は会則の一部変更で、具体的には理事の任期と再任時の整合性を合わせるもので、この案も承認されました。続いて以下の事項の説明となりました。

III. その他の報告事項

1. 令和5年度事業計画及び予算計画

事業計画の内容は概ね本年度と同様でした。これに対し出席理事から以下の要望があり、事務局で検討することになりました。

- ①北大研究者への研究成果に対する表彰の検討
- ②収益活動が企業セミナーに依存しているため収益事業の多角化の検討
- ③現行の法人税額の見直し

2. 校友会エルムへの新入生加入状況

本年の加入者は594名と例年の600～700人に比べ少なかったとのこと。今後加入者をどのように増やしていくかについて意見の交換があり、その中で法学部同窓会の取り組みが詳しく紹介されました。以下に少し説明します。法学部同窓会では数年前からその年度の入学生が決まった段階で、同窓会から入学生の父兄宛に「同窓会は在学生を支援する団体であり、ぜひ同窓会に加入して欲しい」旨を説明し、同窓会加入と年会費納入をお願いする案内を送っている。その結果多くの新入学生が同窓会に加入している。在学生への支援の一つとして、卒業単位として認定される同窓会企画・主導の連続講義(講師は企業の法務等で活躍している法学部同窓会員で、企業内の法学部卒業生の働き方を伝える)を毎年行っている。

新入学生の父兄への法学部同窓会の働きかけは、新入生と父兄が同窓会の存在意義、有用性、会費の妥当性を感じられ会員増につながると思われるので、今後は各学部でも同様の活動を検討すべきと思いました。

3. ELM TREE (卒業生電子名簿機能・卒業生連携機能)

5月から稼働し、現在登録者は6,400名でした。登録のためのマニュアルを今後配布するので、各同窓会からも傘下会員への登録呼び掛けをしてほ

しいと事務局から要望がありました。後日事務局からマニュアル等が揃ったとの連絡があったので、ELM TREE への登録を北大関西同窓会会員の皆様にお願ひする一斉メールを7月に配信しました。未登録の方は、この機会に以下のリンクからぜひ登録頂ければと思います。

<https://alumni-net.dpe.hokudai.ac.jp/>

4. 北大創基 150 周年事業

北大の山口理事から説明がありました。この件については、① 50 億円の寄付を計画しているが、大学の経営委員会に諮っているのか？② 寄付目標に到達できない場合は、事業の縮小もあるかと思うので、50 億円達成の目途はあるのか？といった質問が出ましたが、その場での回答はありませんでした。150 周年事業として大学が 150 年史を編纂していることに関連して、札幌農学校同窓会として発足した札幌農学同窓会は、札幌農学校時代を含めた各種資料を多数保管しているため、これら資料を 150 周年史編纂に役立つよう北大文書館に移管していきたいとの説明がありました。

北大創基 150 周年のホームページ：<https://150th.hokudai.ac.jp/overview>

5. 基礎同窓会への新規登録

インド同窓会から基礎同窓会への登録申請があり、基礎同窓会に登録されることになりました。

午後 5 時前には総会は終了し、会場を同じ工学

部の別室に移して懇親会となりました。懇親会では寶金総長も参加され、総長の挨拶、杉江会長による乾杯の発声があり、会長、副会長、理事など 10 名程度と事務局の方々が参加して懇親会が始まりました。私は昨年も総会にリアル参加したのですが、まだコロナ禍の影響があり懇親会はありませんでした。そのためこれまで他の理事の方と懇意にお話する機会がありませんでしたが、今回は懇親会がありましたので、大変ありがたかったです。懇親会には法学部同窓会で会員の勧誘を担当されていた高橋理事を始め、医学部、歯学部、経済学部の各理事の方々とお話する機会がありました。医学部・歯学部の卒業生は、ほとんどの方が同業者となるので、学部同窓会への参加が多く、かつ同窓会活動も活発ということでした。懇親会のお料理とお酒は正門近くのレストランからのケータリングで、ビールもサーバーを持ち込んでその場で生ビールがふるまわれました。やっぱり生ビールはおいしい。参加者に比べ料理が多かったので、残った料理は持ちかえりとなり、私もいただいて、翌日の朝食にさせて頂きました。大変おいしかったです。

尚、本報告は福井の当日のメモを基にしたもので、総会議事録との相違や私の記憶違いがありましたら、ご容赦願ひます。

本学関連トピックス

総長一行が米国マサチューセッツ大学アマースト校を訪問

4 月 19 日（水）～ 21 日（金）、米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst）を総長一行が訪問しました。同学は、札幌農学校初代教頭のウィリアム・スミス・クラーク博士が学長を務めたマサチューセッツ農科大学をルーツとし、互いに最も古くから大学間で交流しています。今回は寶金清博総長、高橋 彩理事・副学長、既存研究連携のある情報科学研究所／化学反応創成研究拠点（ICReDD）の吉岡真治教授、北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎教授、農学研究院の愛甲哲也准教授、国際企画課の佐藤哲也課長、国際連携機構の植村妙菜 URA の 7 名が訪問し、先方執行部と既存連携を鑑み更なる全学的な連携拡大について同学執行部と意識を共有したほか、アマースト郊外共同墓地にあるクラーク博士の墓前に供花し、19 世紀当時に遙々北海道まで渡った苦難と、今日の両大学の連携に至る博士の功績に想いを馳せました。

札幌農学校に縁のある品々を保管する図書館だけではなく、クラーク博士以降札幌農学校黎明期の教育を担ったウィリアム・ペン・ブルックス博士が本学から持ち帰ったとされ、現在は米国の同種では最大規模としてナショナル・チャンピオンに登録されている楡の巨木や、芸術学部のスタジオになっているクラーク博士の名を冠したホールなど、大学の歴史に触れる訪問となりました。また、毎年土作りから市場への卸しまでを行う学生農場、果樹園、個人私有林の調査を行うファミリー・フォレストリサーチセンターといった農学関連施設から、2018 年に建設された学内外にオープンな共同研究施設で、29 学部 200 名以上の研究者と 100 名の外部研究者が活動する異分野融合研究とスタートアップの創出拠点である応用生命科学研究所、高分子企業研究センターなどの研究施設や、別経営である UMass チャン・メディカルスクールと連携する医理工学科を訪問し、研究者や大学院生か

ら説明を受けました。

研究担当のローラ・ヴァンデンバーグ副理事、自然科学部のナサニエル・ウィトカー暫定学部長、応用生命科学研究所のピーター・レインハート所長との夕食会では、近年強化されてきた情報・計算科学、農学、高分子分野における研究交流と博士学生共同指導を振り返りました。カンブル・スバスワミー学長主催の昼食会では、プロボスのトリシア・セリオ博士、カルベン・トリヴェディ国際担当副学長、マニング情報・計算科学部のローラ・ハース学部長、本学とのクロスアポイントメントにある



寶金総長とスバスワミー学長

シュロモ・ジルバースタイン副学部長、ジェイムズ・アラン教授、ストックブリッジ農学校のバオシャン・シン学校長、ナンディータ・マニ図書館長、日本語・日本学のステイブ・フォレスト上級講師が同席し、今後、戦略的研究パートナーシップ大学として、これまでの図書館員や事務職員の研修、研究人材の相互雇用の実績や、北海道とマサチューセッツ州の姉妹提携関係も踏まえ、2026 年に迎える本学創基 150 周年から次の 150 年にむけた連携拡大への期待が共有されました。

（国際連携機構）



クラーク博士の墓参り



果樹園



ジョン・W・オルバーデザイン棟

北大時報 No.831 / 令和 5 年（2023 年）6 月

「北海道ユニバーシティアライアンス」を設置

北海道に所在する大学及び大学を設置する法人（以下「大学等」という）が、各大学等の特色及び強みを生かしながら、教育、研究、社会連携、産学連携等に関する情報の収集、共有及び解析並びに具体的事業の検討及び実施を連携して行うことにより、シナジー効果を発揮し、もって北海道における地域課題の解決に資することを目的として、そのプラットフォームとなる「北海道ユニバーシティアライアンス」を 6 月 19 日（月）に設置しました。

本アライアンスは、設置当初は以下の 8 大学等によりスタートしますが、今後、設置目的に賛同する大学等に順次参画いただくことを想定しています。

- ・ 国立大学法人北海道大学
- ・ 国立大学法人北海道教育大学
- ・ 国立大学法人室蘭工業大学
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学
- ・ 国立大学法人旭川医科大学

なお、本アライアンスにおいては、北海道の大学全体の研究振興に向けた連携をはじめとして、教育、社会連携、産学連携等広くカバーしていきます。

（総務企画部総務課）



北海道ユニバーシティアライアンス構想



研究分野における道内大学との連携の可能性

北大時報 No.832 / 令和 5 年 (2023 年) 7 月

創成研究機構化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) が新棟落成記念行事を開催

6月16日(金)、創成研究機構化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)の新棟落成記念式典を開催しました。

令和5年2月末、北海道大学札幌キャンパス内の北キャンパス地区にICReDD専用の新たな研究棟(北キャンパス総合研究棟8号館)が完成しました。

新棟は異分野の研究者が一つの空間に集い、密な連携を可能とするアンダーワンルーフ型の研究施設として設計されており、ICReDDにおける計算科学・情報科学・実験科学の3分野融合研究のさらなる加速化が期待されます。また、従来施設に比べ50%以上の省エネルギー化を実現した建築として、環境に配慮した施設となっており、「ZEB Ready」相当の認証を取得しています。

式典の開式にあたり、本学資金清博総長からの

挨拶の後、文部科学省の奥野 真大臣官房審議官より永岡桂子文部科学大臣祝辞のご代読、独立行政法人日本学術振興会世界トップレベル研究拠点プログラムの宇川 彰プログラムディレクターより祝辞を賜りました。

式典に引き続き、新棟内覧会を開催しました。内覧会では新棟の建築上の特徴や実験室、最先端の装置、研究室の特徴を説明し、中でも新棟の大きな特徴である、2フロアにまたがる広い吹き抜け空間に、約100名の研究者が分野の垣根を越えてデスクを構える「フュージョンリサーチオフィス」は、参加者からの関心を集めていました。最後に、ICReDDの前田 理拠点長より閉会の挨拶が述べられ、ICReDD新棟落成記念式典及び内覧会は盛会のうちに終了しました。

(創成研究機構化学反応創成研究拠点)



資金総長からの挨拶



フュージョンリサーチオフィス内覧の様子



テープカットの様子



前田 ICReDD 拠点長からの挨拶

北海道大学関西同窓会 2023年10月~2024年5月スケジュール

		2023年							
		10月	11月	12月	1月				
日曜日	1	(一社) 恵迪寮同窓会 昭和46・47・48年恵迪入 寮50周年同期会(札幌)					日曜日		
金曜日	6		3	1	5	~北大会館休館	金曜日		
土曜日	7	ジンバ(ジンギスカンパ ーティ)	4	(一社) 理事会	2	(一社) 理事会	6	賀詞交換会	土曜日
日曜日	8		5	3	7		日曜日		
水曜日	11	二水会	8	二水会	6	二水会	10	二水会	水曜日
土曜日	14		11	9	13		13		土曜日
日曜日	15	北大進学相談会*	12	10	14		14		日曜日
金曜日	20		17	三金会	15	三金会	19	三金会	金曜日
土曜日	21	関西同窓会総会・講演会、 札幌農学同窓会秋季講演会	18		16		20		土曜日
日曜日	22		19	17	21		21		日曜日
月曜日	23		20	18	22		22		月曜日
火曜日	24		21	19	23	第一回役員会	23		火曜日
金曜日	27	三金会	24	22	26		26		金曜日
土曜日	28		25	23	27		27		土曜日
日曜日	29	北大進学相談会*	26	24	28		28		日曜日
月曜日	30		27	25	29		29		月曜日
火曜日	31		28	26	30		30		火曜日
水曜日			29	27	31	北大会館休館~	31		水曜日
		食品産業エールム会							
		*: オンライン							

		2024年					
		2月	3月	4月	5月		
日曜日							日曜日
金曜日	2		1	5	3		金曜日
土曜日	3	(一社) 理事会	2	(一社) 理事会	4	(一社) 理事会	土曜日
日曜日	4		3	7	5		日曜日
水曜日	7	二水会	6	二水会	8	二水会	水曜日
土曜日	10		9	13	11		土曜日
日曜日	11		10	14	12		日曜日
金曜日	16	三金会	15	三金会	17	三金会	金曜日
土曜日	17	札幌農学同窓会関西支部総会	16	20	18		土曜日
日曜日	18		17	21	19		日曜日
月曜日	19		18	22	20		月曜日
火曜日	20		19	23	21		火曜日
金曜日	23		22	26	24		金曜日
土曜日	24		23	27	25	会館祭り(仮)	土曜日
日曜日	25		24	28	26		日曜日
月曜日	26		25	29	27		月曜日
火曜日	27		26	30	28		火曜日
水曜日	28		27		29		水曜日
		食品産業エールム会	会報90号発行	食品産業エールム会	中旬:ジンバ (ジンギスカンパーティ) 歴史ウォーク		

入退会者情報

総務部長 福井 毅 (1980 (S55) 理生植)

会報 88 号 (2023 年 3 月発行) 以降、2023 年 8 月 8 日までに、物故者 3 名、ご高齢による体調不良や転居等による退会者は 16 名、入会者は 3 名でした。

亡くなられた会員の方々のご冥福をお祈り申し上げます。

また、退会された方々のこれまでの同窓会へのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

物故者

相馬 恒雄 (S30 工建築)、福井 寿一 (S41 薬薬)、三浦 和彦 (S44 農生 (修))

入会者

吉田 幸展 (S63 法)、光地 悠輔 (H13 法)、
米田 夏輝 (R3 経 R5 公共政策学教育部 修士)
(敬称略)

編集後記

ここに 89 号をお届けします。今年 5 月、新型コロナウイルス感染症は 5 類になりましたが、身近なところで感染した人の話をよく聴きます。会員皆様のご健康を祈るばかりです。

巻頭言は本年度より (一社) 札幌農学同窓会関西支部の理事に就任された山田勝重さんより「理事長になって特に思うこと」を寄稿いただいた。

「北大会館祭の開催」と題し会館祭の報告を北浦和憲さんより、また第 1 部にて特別講演された山口淳二 北海道大学理事・副学長より「創基 150 周年及び同窓会との連携に向けた大学の取組み」を、北海道大学 アイヌ・先住民研究センター石原麻衣准教授より「北海道大学とアイヌ民族 一未来を担う真の共生社会を問う歩み」を寄稿いただいた。

「第 17 回 市民公開フォーラム」について、田中貞之さんより「『みんなで目指そう！持続可能な食と環境』報告」を、また第 2 部にて特別講演された北海道大学 大学院農学研究院岩淵和則教授より「循環が成立する社会の構築」を、第 3 部パネルディスカッションで講演された有限会社山口農園山口貴義代表取締役より「『持続可能な有機農業』～オーガニックビレッジの取り組み～」を寄稿いただいた。

「会員活動」では、松下秀之さんより「札幌農学同窓会の園遊会に参加して」、脇地式三さんより「忘却の彼方から一札幌農学校校歌の原曲レコードについて」、福田文治さんより「随想『暗号』」、吉田勝さんより「学生のヒマラヤ野外実習プログラム 第 11 回実習ツアー (2023 年 3 月) 実施報告と第 12 回実習ツアー (2024 年 3 月) 対象のクラウドファンディング開始のお知らせとお願い」、鈴木 功さんより「ブラジルでの人生について 第 3 回目 (完結編) として『世界一のオーガニックコーヒー生産と農業改革にける夢』と、多岐にわたる寄稿いただいた。

「同窓会活動」では、野呂雅之さんより「第 26 回歴史ウォーク 三田ゆかりの偉人の誕生地・顕彰地・寺院等を巡る」、「二水会講演」では、大田黒康雄さんから「私と中国の銘酒 紹興酒との関わりについて」、北口久雄さんから「松浦武四郎の十勝越え」、大橋人司さんから「マグロの色々な話」、山本雅彦さんから「二水会 (野外開催) 『岸和田城・だんじり会館・きしわだ自然資料館 見学』」、末吉 徹さんから「古代の河内平野とその後の変遷」、藤田久美さんから「二水会・三金会の講演一覧 (2022 年 9 月～2023 年 2 月)」を寄稿いただいた。

「お知らせ」では、植松高志さんから「2023 年度「東京同窓会」と「京都エルム会」総会・講演会・懇親会の報告」、福井 毅さんから「北海道大学校友会エルム総会に参加して」について寄稿いただいた。また、北海道大学社会共創部広報課広報・渉外担当 櫻井景子さんから「本学関連トピックス」ならびに「表紙写真 (他複数枚の写真)」をご提供いただいた。ここにお礼を申し上げます。なお、「北海道大学関西同窓会 2023 年 10 月～2024 年 5 月スケジュール」、「入退会者情報」は福井 毅総務部長にいただいた。

ご覧になれば分かるように、紙面の随所に QR コード・URL が記載されています。本誌も先の 88 号から北海道大学関西同窓会のホームページに登場しました。会員の皆様、どうぞご寄稿ください。

下岡 健藏 (1970 (S45) 工応物)

会員獲得のご協力をお願い

会員増強委員長 福井 毅 (S55 理)

E-mail : elmkansai@yahoo.co.jp

本同窓会の更なる発展のため、新たな会員獲得を進めています。皆様のお近くに当会に未入会の同窓生がおられましたら、どうぞ本会への入会をお勧めください。加入のご案内は当会からも致します。

北大関西同窓会 E-mail : elmkansai@yahoo.co.jp

Be ambitious 投稿をお願い

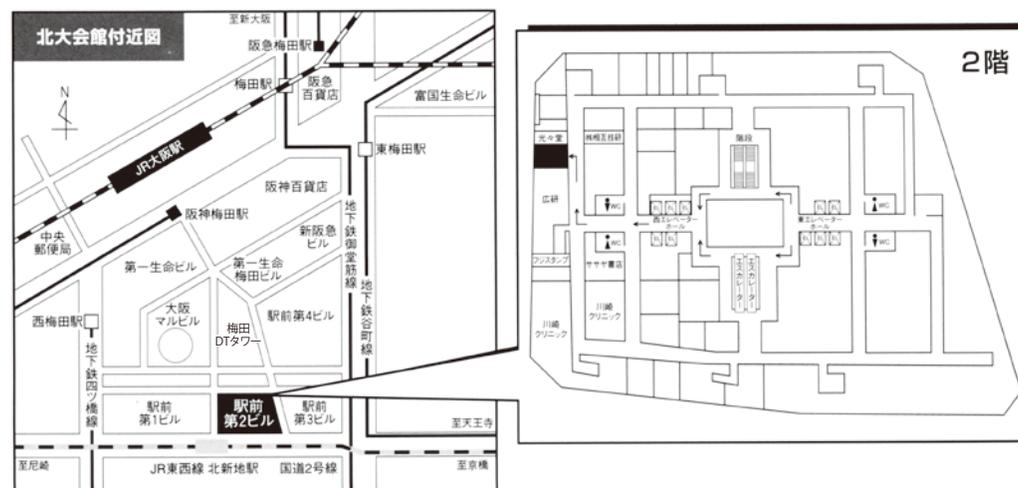
当会報は年 2 回発行され、会員のみ配布される機関誌です。恒例の記事に加え、皆様からの自由な投稿をいただき、より楽しい紙面と致したく存じます。お一人様 2～3 頁 (3,000 字～4,500 字) の寄稿をいただければと存じます。

1. 内容：北海道大学・北大同窓会及び同窓生に関すること
 2. 字数：約 1,500 字 (1 頁当り)
 3. 写真・図：2 枚 (1 頁当り)
 4. 締め切り：毎年 6 月末、12 月末
 5. 宛先 ○北海道大学関西同窓会 編集委員会 E-mail : elmkansai@yahoo.co.jp
○編集長 下岡 健藏 (S45 工応物) E-mail : ken-shimo@hotmail.co.jp
- 印刷所との間では原稿を E-mail でやり取りしますので、<word>原稿でお願い致します。

北海道大学関西同窓会・北大会館所在

場所：大阪駅前第 2 ビル (阪神百貨店の西側を南へ徒歩 2 分。梅田 DT タワーの南) 2 階北西の隅 (下記地図参照)

交通の便：JR : 大阪駅から地下道を南へ 5 分 地下鉄：梅田駅から南西へ約 8 分
：東西線北新地駅の真上 : 東梅田駅から西南へ約 5 分
阪神：梅田駅西口から地下道を南へ 2 分 : 西梅田駅から東へ約 3 分
阪急：梅田駅から南西へ約 10 分



北海道大学関西同窓会会報 第89号

- 発行日 2023年(令和五年)9月20日
 - 編集者 下岡健藏
 - 発行者 北海道大学関西同窓会会長
植松高志
 - 印刷所 株式会社 すばる
〒557-0014 大阪市西成区天下茶屋1-20-10
 - 発行所 北海道大学関西同窓会
〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号
大阪駅前第2ビル2階 北大会館内
Tel・Fax : 06-6343-3736
E-mail : elmkansai@yahoo.co.jp
URL : <http://hokudai-kansai.org>
-